

示セサルモノハ直ニ抑留スルモノトス  
一千八百八十八年七月露國皇帝ハ大藏大臣ノ提出セル左記ノ浦塩斯德港噸稅及半可稅設立  
定案ヲ裁可セリ

第一條

浦塩斯德港ニ於テ左ノ稅金ヲ徵收スヘシ

第一 浦塩斯德港ヲ經テ輸送スル貨物ハ木材ヲ除クノ外總テ一布度ニツキ半哥ノ稅金  
ヲ徵收ス

第二 浦塩斯德港ニ着達スル遠洋航船中一航海毎ニ定規ノ稅金ヲ納ムル定規航通汽船  
ノ外總テ着港スル毎ニ各船ノ噸數一噸ニツキ三十哥ノ噸稅ヲ徵收ス

第二條

半哥稅ハ之ヲ賦課スヘキ貨物ニ對シ其斤量ヲ點檢セス之ニ添附セル送荷證書ニ登錄スル  
所ノ斤量ニヨリ徵收スルモノトス

第三條

前記稅金ノ徵收方法ノ歐露ノ南部ニ於ケル諸港市ノ爲メ規定セシ方法ニ基キ沿黑龍江總  
督ノ規定スル方法ニ遵ヒ浦塩斯德府廳ニ於テ徵收セシム

第四條

浦塩斯德府廳ニ於テ徵收シタル前記ノ稅金ハ毎月之ヲ地方ノ金庫ニ納付スヘシ

第五條

前記ノ收稅金ハ其使用權ヲ浦塩斯德府廳ニ委ネテ專ラ浦塩斯德港ノ修築及港頭ニ通スル  
街路ノ修繕費ニ充テシム但此工事ノ設計及工費支出ノ方法等ハ總テ地方總督ノ裁決ヲ經  
タル後執行スヘシ

第六條

噸稅及半可稅ノ收支決算表ハ特ニ之カ計算ヲ二類ニ別テ調製シ毎會計年度ノ終ルトキヨ  
リ二ヶ月以内ニ大藏大臣内務大臣及北方總督ニ呈出スヘシ

第七條

浦塩斯德府廳ノ任務ハ地方總督之ヲ監督スヘシ

第八條

前記ノ收稅金巨額ニ達シ所定ノ用途ニ對シ夥多ノ剩餘金ヲ得ルニ至リシトキハ浦塩斯德  
府會ノ決議ニ由リ地方總督ノ裁決ヲ經テ府廳ハ廉價ノ貨物ニ限リ半可稅額ヲ減少スルカ  
或ハ全ク之ヲ廢止スルコトヲ得ヘシ



## 第七篇 運輸交通

### ○陸運

(諸大路記事) 東方海岸ニ瀕スルノ地ハ山岳重疊峰巒起伏シ内地ノ開拓ハ未タ全ク其緒ニ就カス 荒漠ノ原野蘆葦ノ水澤ニ非サレハ深林荆棘徒ラニ跋扈シ兵村矮屋其間ニ點綴スルアルノミ之レヲ以テ程ヲ港灣ヨリ起シテ内地ニ進入スヘキ大路ニシテ能ク貨車ヲ通スヘキモノハ浦塩斯德ヨリラズドリヌイヲ經テ尼古利斯克ニ出テ之レヨリカールメニルイバロツフアタマレンスコニ或ハボルターンスキニ致ルモノトボシエツトヨリラズドリヌイニ達スルモノトニ過キヌ又オリガ灣ヨリ浦塩斯德ニ通スル陸路四百四十露里ハ車ヲ通スルヲ得ルト云フモ實踐者ノ紀錄ヲ得サルヲ以テ難易ヲ詳ニセズ

郵便線路アリテ各村落都會ヲ連絡シ驛站常ニ必ス馬五六車二三ヲ備フト雖モ緊急ノ官用ヲ辨シ郵便物ノ發送ヲナスヲ以テ本務トナシ普通旅客ニ便益ヲ與フルヲ尠ク而シテ此地方ニ於ケル牧畜ノ業未タ頗ル幼稚ニシテ陸地運輸ノ最大機關タル馬匹ノ如キハ其數甚タ多カラヌ且ツ遠隔ノ僻地ニ散在セル兵村間ノ通路ハ所謂狐徑鬼蹤ニシテ單騎ノ進行猶且往々難シトスル處アリ

夏期旅行、春季冰雪融解シ秋季雷雨連旬ナルニ至レハ河水氾濫道途ヲ浸シ國道ト雖モ溢



水泥馬路ヲ設シ交通ノ途全ク杜絶ス加之蜂蠅蚊虻ノ毒刺ヲ有スルモノ多ク夏期ノ旅行ハ困難集至殆ント企望スヘカラスト云フ

冬期旅行、十月朔北風漸ク寒ク河流盡ク凍合シ十一月ニ至レハ寒威益々凛冽湖河沼澤盡ク堅氷ヲ被ル此季節ニハ連日約ネ快晴ニシテ降雪少ナク人若シ身ニ輕裘ノ暖衣ヲ纏ヒ肉體ヲ暴露スルナクンハ旅行最モ愉快ニシテ或ハ迅橋氷上ヲ走リ或ハ快鞭凍路ヲ蹴リ縱横意ノ欲スル處ニ從フヲ得ヘク内地滿州ノ交易此時ヲ以テ繁盛ヲ極メ百貨ヲ負フノ馬五穀ヲ積載セル馬車絡繹ルカ如シト云フ

極及馬車ハ通常三頭ノ馬ヲ繫ケ牽引スルカ故ニ河湖ノ氷上ヲ走ラント欲スルモノハ皆其平坦ヲ豫想シ進行矢ノ如クナルヘシト雖モ事實往々之レニ反シソノ將ニ氷結セントスルニ當リ烈風流ニ逆フテ襲ヒ波浪激起セハ表面非常ノ凹凸ヲ生シ丘陵ノ如ク起伏シ劍戰ノ如ク鋒ヘ且ツ馬車基ニ發條ノ裝備ヲ有セス身体上下左右ニ動搖シ眩暈嘔吐ヲ來スモノアリ

浦塩斯德ヨリソラウヤンカ及ボシエワトニ至ル里程	浦塩斯德ヨリ蘇城ニ至ル里程
地	地
名	名
浦塩斯德ヨリノ距離	浦塩斯德ヨリノ距離
各村、驛等間ノ距離	各村、驛等間ノ距離

ラズドリスイ村	六六里	ボツガローヅン一驛	一九里
イサーエウ郵驛	三三二五里	シコトワ村	五四
ザナツウオーロウカ村	二五	レチーツアー村	六九
ハラバクシ屯戍	一八	ツアレーウカ村	七五
セヂミー村	二四	ベツローウカ村	八一
スラウヤンカ屯戍	二二	チンカン村	一一
リヤザーノウ村	一五、七五	ツインキーナ村	一一
クラーツカヤ郵驛	二〇	エカテリノウカ村	一七一
ボシユット屯戍	二二、七五	ウラヂーミロフカ村	一七四
			三

(西伯利鐵道)英祖彼得大帝ノ遺骸宏圖ヲ遵奉翼賛スルニ銳意ナル先帝ニコラス一世トソノ内閣宰臣カ國體ノ專政ナルヲ利用シ剛毅精勵ナル彼ノ故沿黑龍總督コルフ將軍ノ建言ヲ容レ財政ノ未タ余裕ナキヲモ顧ミス三億五千萬留ノ鉅資ヲ投シ空漠荒寥ノ地ヲ橫斷シ東經六十度ヨリ進シテ一百三十二度ニ於テ太平洋ニ達スル大鐵道ノ敷設ヲ斷行シ當時世界立憲國君臣ノ膽ヲ驚破セシメシハ今ヲ距ル僅カニ七八年前ニアリ抑モ此大鐵道ヲ計畫セシ所以



ノモノハ主トシテ東洋ニ於ケル防備ヲ嚴ニシ強盛ナル兵力ヲ蓄ヘ傲然太平洋ヲ睥睨シ一朝機會ノ乘スヘキアラハ鉄馬長鞭南下シテ燕京ヲ蹂躪シ艦艇重艦海ヲ渡テ我中腹ヲ衝カント欲スルニ他ナラサルナリ何ヲ以テ之レヲ言フカ故男爵コルフ將軍力建議ノ要ニ曰ク沿海州ハ東太平洋ニ出ルノ門戸ナリ宜シク諸般ノ規模ヲ宏ニシ船渠ヲ鑿テ砲臺ヲ築キ重兵ヲ集メ以テ東洋侵略ノ根據トナサ、ルヘカラス

奈何セン概スルニ氣候猛烈地味礪礪ニシテ生産ナク加フルニ隙僻ニ偏在シテ道塗阻隔シ糧餉ノ給スヘキナシ斯ノ如クハ幾度カ美鹿ノ前ニ横ルニ遇フモ空シク手ヲ覆ニシテ他人ノ獲ルヲ傍觀セサルヘカラス時機今ヤ猶豫スヘカラス財政顧慮スヘカラス要ハ只速カニ鐵道ヲ布キ歐亞ノ交通ヲ容易ナラシムニアリト

千八百九十一年五月初メテ工ヲ起シ爾來難ヲ排シ難ニ耐ヘ着々其進捗ヲ誤ラス現時即ニ其全長二分ノ一ヲ竣成セリソレ新月ノ夕首都聖比得傑ヲ發シ鐵車蜿蜒西伯利ノ曠原ヲ駛セ滿月ヲ浦沙斯德ノ棹頭ニ賞スルヲ今世紀一二年ノ後ニアリ嗟蓋キニ蘇士運河ノ開通ハ歐亞ヲシラ相近カラシメ今ヤ西伯利鐵道ハ合セテ之レヲ一ニセリ尙モ東洋ニ邦スルモノ何ヲ以テ其衝ニ當ラントスル乎

ソレ斯ノ如ク軍器上ノ主趣ニ基キ布設セルモノナリト雖トモ平時得ル處ノ利益殆ント之レ

ニ超ユルモノアリ即チ産業ヲ増進シ經費ヲ節減スルコトソレ幾何ソヤ露國海軍大佐シテンスネル嘗テ之レヲ論述シテ曰ク

利益

第一 露國ハ軍略上ノ完全ヲ告グルニ至ルヘシ蓋シ此事タル政事上如何ナル形勢ニ遭遇スルモ連綿路ヲ内地ニ取り軍隊軍糧及各種ノ必要品ヲシテ速ニ歐露ヨリウラチオストツクニ安着セシムルヲ得ヘケレハナリ

何時タリトモ路ヲ内地ニ取り無限ノ兵員ヲ歐州ヨリ太平洋岸ニ運搬セシムルヲ得ルノ一事ハ歐州列國中何レノ國ト雖トモ未タ嘗テ占有セス又將來トテモ占有シ難キ特權タリ加之ナラス西伯利鐵道ハ支那境ヲ距ルコト少許ノ地及ヒ黑龍江附近ノ地ニ敷設セラル、ニ因リ該江ヲシテ露國ニ緊結セシメ且支那ヲシテ永ク我同盟國タラシムルヲ得ヘシ

第二 浦塩斯德ハ恃ムヘキ軍港タルヘキノミナラス太平洋ニ於ケル我兵艦ノ爲メニハ實ニ完全ナル堅礎タルヘキヤ必セリ若シ浦塩斯德ヲシテ歐露ニ連絡スルヲ得ハ吾人ハ世ニ未來ノ地中海ト稱スル太平洋岸而カモ目下既ニ英佛獨米ノタメ巨利ノ淵藪タル太平洋岸ニ警備ノ完全ナル一開港ヲ占有スルニ至ラン



第三 西伯利ヲシテ百事開明ノ域ニ進歩セシメ且ツ歐露ニ連絡スルヲ得セシムルニ至ラン若シ夫レ移民ノ回送ニ整頓ヲ告ケ且ツ秩序ヲ建ツルニ容易ナルヲ得ハ設令平和的タリトモ強迫的ノ策ヲ以テ頻リニ黑龍江畔ヲ押領セント欲スル支那ニ對シテ始テ適宜ノ策略ヲ執行スルヲ得ヘシ是亦唯ニ西伯利鐵道ノ設否如何ニ在ルノミ

第四 西伯利ノ異種民間ニ於ケル布教上ノ事務モ容易ナルニ至ラン若シ夫レ宣教師其人ヲ得ハ心魂清淨ニシテ且眞率德義及ヒ忠君ナル西伯利ノ異種人民即チ偶像崇拜ノ異種人民ヲシテ已ニ三百年ノ間耶蘇教ニ歸依セシムル能ハサルノ妨礙ヲ鋤去スルニ至ラン

第五 露國產ノ百貨ヲ販賣スヘキ新市場ヲ開設スルニ至ラン而シテ其貨物中ニハ外國ノ露國ト競争スル能ハサル者モ亦之レアラン又製造品製茶及ヒ毛皮ノ貿易ニ因リ露國資本ノ融通ハ甚タ活潑ナルニ至ラン

第六 太平洋岸ノ露領ハ鎮路ヲ以テ歐露ト連絡スルニ至ラン現今ニ在リテハ該領地ハ貿易上ノ點ニ於ケルモ歐露ニ連絡センヨリハ寧ロ他ノ諸大國ニ連絡スルヲ以テ勝レリトス蓋シ黑海及ヒバルチク海ヨリスル我商船ノ航通常ニ自由ナルニ非サレハナリ若シ夫レ我沿海領ニシテ一旦歐露ト連絡スルヲ得ハ其結果タル必ラスヤカムチャツカ島

岸アホーツク海岸チニコーツク岬岸及ヒ北永洋岸ニ産出スル鯨鬚及ヒ毛皮ハ總テ先ツ露國ニ入り夫ヨリ英京龍動ニ輸出セラル、ニ至ラン今ハ乃チ全ク之ト相反スルノ形況ナリ

第七 東西兩西伯利ノ諸大河ニ於テハ汽船ノ交通開ケ而シテ其基礎益々鞏固ナルニ至ラン就中黑龍江ノ如キハ運輸上ノ要路タルニ至ルヘシ現今ニ在リテハ該江ヨリバイカル湖ニ至ル陸運ニ一定ノ期限ナキノミナラス其運賃甚タ高貴ナルカタメ該江ハ未タ前記ノ位地ヲ占ムル能ハス蓋シ此事タルヤウエルフネデンクス、チタ兩府四百四十間ニ於テハ冬季降雪ノ甚タ稀レナルト人口疎薄ナルトニ由ラスンハアラサルナリ

第八 各種ノ原料ニ富メル西伯利ノ變形業ハ總テ方今ノ形況ニ必適シ且進歩スルニ至ラン殊ニ砂金採收業ノ如キハ其區域ヲ擴充スルニ至ラン蓋シ到處改良ノ方法ヲ用キテ之ヲ採收シ而シテ熟練ナル技師ヲシテ之ヲ監督セシメ且唯ニ砂金淘汰ノ際減金ノ量ヲ少カラシムルノミナラス學術上地質ノ調査ヲ行ハシムルニ至ラン且又黃金ヲ以テ諸國ニ冠タル西伯利一撮ノ鑛業モ亦速ニ發達スヘシ方今ニ在リテハアリベル氏所屬有名ノ黑鉛山ノ如キバイカル湖岸ノ「ラーヒスラシユリ」ノ名山ノ如キネルチンスク官道附近ナル石炭山及ヒシルカ河岸ニ於ケル石灰山ノ如キニコライエフ製鐵場



附屬ノ鐵山及ヒネルチンスク區内ノ銀山ノ如キハ總テ技術應用上ノ改良ナキカダメ  
或ハ業務ヲ中止シ或ハ之ヲ全廢セシモノ之レアルニ至リス

第九 若シ夫レ西伯利鐵道ヲ敷設シ且移民條例ヲ執行スルヲ得ハ毎年數萬坪ノ建築材  
及ヒ造船材ヲシテ島有ニ歸セシムル林火ニ對シテ相當ノ防遏法ヲ執行スルヲ得ルニ  
至ラン果シテ然リトセハ材木ノ價格モ騰貴シ且其數量モ亦猶ホ方今トムスク縣ニ於  
ケル數量ノ判然タルカ如クナルニ至ラン加之ナラス移民條例ヲ制定シ而シテ一時  
ニ許多ノ官有地ヲ多數ノ移民ニ分配シ以テ各自ノ私有地タラシメ且國家保護官直轄  
ノ監督ヲ受ケ且共同ノ力ニ因リテ密林ノ火災ヲ撲滅スルヲ得ハ方今東部西伯利ニ於  
ケル山林ノ無益ニ滅却スルナキニ至ルヤ必セリ

第十 若シ夫レ西伯利鐵道ヲ敷設スルヲ得ハ廉價ヲ以テ一切ノ農具ヲ耕地ノ多キ勞銀ノ  
貴キ地方ニ回送スルヲ得ルノミナラス善良ナル新種ノ回送ニ多費ヲ要スルカタメ目下  
止ヲ得ス發育不十分ノ古種ヲ備蓄儲蓄庫ニ仰キ以テ漸ク撤時シ而シテ之カタメ膏腴  
地ノ收穫高ヲ減殺スルカ如キ目下避クヘカラサルノ大不幸ヲシテ遂ニ永ク廢絶セシ  
ムルニ至ラン加之ナラス穀類ヲ豐作地方ヨリ不作地方ニ回送セント欲スルモ特ニ多  
費ヲ要スルノ一事アルニ因リ遂ニ飢饉ニ遭遇スルカ如キ大不幸ヲ免カレ且飼草ニ乏

シキ冬季ニ際シ之ヲ他ヨリ求ムル能ハサルト土地ニ家畜ノ需要ナキトニ因リ遂ニ數  
萬頭ノ畜類ヲシテ一時ニ頓斃セシムルカ如キ大不幸ヲ絶滅スルニ至ラン且又黑龍江  
邊軍管區兵員用穀種ヲ支那ニ仰クノ必要ナキノミナラス僅ニ數日間ノ勞働ニ役セン  
カタメ農民ヲシテ一二百哩外ニ出役セシメ且之カタメ耕業上必要ノ期節ヲ徒費セ  
シムルカ如キ道路工事ノ負擔ヲモ免カル、ニ至ラン其他一般人民ノ智識ニ至リテモ  
亦漸ク發達シ且之カタメ農民ヲシテ濫リニ努力日子及ヒ金力ヲ無益ノ試業ニ浪費ス  
ルナカシムルニ至ラン

第十一 若シ夫レ西伯利鐵道ヲ敷設スルヲ得ハイルクーツク稅關通過ノ製茶ニ增稅ヲ  
課スルヲ得ルニ至ラン而シテ其金額ハ蓋シ九百萬乃至千二百萬留タルヘシ加之ナラ  
ス製茶ノ密輸入高ヲシテ減少ナラシメ而シテ之カタメ更ニ二百四十萬留内外ノ新稅  
金ヲ徵收スルヲ得ヘシ

第十二 若シ夫レ西伯利鐵道ヲ敷設スルヲ得ハ砂金ノ採取高ヲ増加シ且其輸出高ヲシ  
テ大ニ減少ナラシムルニ至ラン加之ナラス竊取砂金ノ密賣及ヒ密輸出(支那)ヲ監  
視シ且廢止スルヲ得ルニ至ラン公報ニ據レハ方今毎年支那ニ密輸出スル砂金ノ斤量  
ハ二百萬「ブード」ニ下ラスト云フ又金貨ヲシテキヤクタヨリ支那ニ輸出セシメサル



ニ至ラン且蒙古通過ノ製茶ニ對シ其運賃トシテ毎年支那人ニ支出スル一千万留  
之ヲ歸國ニ殘留セシメ且又冬季ニ際シテ太平洋艦隊乗組員ノ支那及日本ニ於ケル一  
般ノ諸費或ハ日本造船所ニ支拂フヘキ艦船修繕費及ヒ其他ノ諸經費ニ支出スル金貨  
モ亦悉ク之ヲ歸國ニ殘留セシムルヲ得ヘシ加之ナラス外國品ノ海路ヨリ黑龍江邊  
地ニ入ルモノニハ總テ輸入税ヲ課スルヲ得ルニ至ラン

第十三 若シ夫レ西伯利鐵道ヲ敷設スルヲ得ハ唯々黑龍江邊イルクーツク兩總督應  
公信ノ往復ヲシテ迅速ナラシムルノミナラス方今ニ在リテハ緊要要務ノ決議ニ於テ  
實際免カレ難キ延滞モ亦能ク之ヲ減省スルヲ得ルニ至ラン又東部西伯利百般ノ調  
ヲシテ容易ナラシメ且ツ大ニ該地方ニ於ケル生計ノ度ヲ改進スルニ至ラン且ツ又文  
武ノ士官ニ其人ヲ得ルニ至ルヘク而シテ此等ノ人々ニモ亦其子女ヲシテ適當ノ教育  
ヲ受ルヲ得セシメ且ツ此地ノ勤務ニ就クコト恰モ一時ノ苦役ニ服スル如キノ感ナカ  
ラシムルニ至ラン

第十四 囚徒護送上ニ於テ諸事ニ一更革ヲ生スルニ至ラン蓋シ流刑人ヲシテ國內ノ  
移轉ニ境外ヲ迂回セシメ以テ他國人ヲシテ之ヲ傍觀セシムルノ必要ナキニ至ラン且  
又兵站ニ因リテ西伯利ニ出張スル者ヲシテ其旅行日限ヲ減省セシムルノミナラス警

備兵ノ人員ヲシテ減少ナラシムルニ至ラン蓋シ此事タルヤ新募兵ノ人員ヲ減シ若ク  
ハ該兵員ヲ以テ新工事兵ヲ組織スルヲ得ルニ至ラン方今ニ在リテハ警備兵ハ戰鬥兵  
ヲ以テ目スヘカラサルモ一朝ニシテ開戦ニ際セハ其勤務ハ更ニ平常ニ倍從スルニ至  
ラン何トナレハ海路ヨリサカレン島ニ護送セラルヘキ囚徒モ此ノ時ニ際セハ西伯利  
ヨリ兵站ヲ經テ該島ニ護送セラルヘケレハナリ

經費節減

陸軍省ノ部

- 一 方今ニ在テハ或ハ海路ニ因リ或ハ陸路ニ因リテ回送スヘキ新募兵及ヒ豫備兵ノ旅費ヲ減省スルヲ得ヘキ事
- 一 平時ニ於テ黑龍江邊軍管區ノ兵員ヲ減少スルヲ得ヘキ事
- 一 イルクーツク軍管區ヲ廢スルヲ得ヘキ事
- 一 イルクーツク及ヒ黑龍江邊兩軍管區ノ地方兵警備兵及ヒ工事兵ノ衣食費ヲ減省スルヲ得ヘキ事
- 一 兵員用ノ被服糧食等ヲシテ多重ニ貯藏セシムルノ必要ナキ事
- 一 砲兵用諸品ノ運賃ヲ減シ且ツ其貯藏品高ヲ減省スルヲ得ヘキ事



海軍省ノ部

- 一 冬季ニ際シ太平洋艦隊ノ日本海或ハ支那海ニ於ケル諸經費ヲ減省スルヲ得ヘキ事
- 一 該艦隊乗組員ノ海外費用條例ニ因リテ接收スヘキ給養料ヲ減省スルヲ得ヘキ事
- 一 方今日本ニ於テ支出スヘキ艦船修繕料ヲ減省スルヲ得ヘキ事
- 一 方今ニ在リテハ甚タ必要ナルクロンシタッド浦壟斯德間航海經費ヲ減省スルヲ得ヘキ事

内務省ノ部

- 一 トムスク、イルクーツク間バイカル湖岸ストレウカ間及ヒグラフスカヤ浦汝斯德間ニ於ケル於ケル郵便物回送費ヲ減省スルヲ得ヘキ事
- 一 前記地方ノ電信事務ニ關スル諸經費ヲ減省スルヲ得ヘキ事
- 一 西伯利經過ノ徵役人及ヒ流刑人ノ護送費ヲ減省スルヲ得ヘキ事
- 一 黑龍江及ヒ烏蘇里江上ノ定期流船ニ對シテ下附スヘキ扶助金ヲ全廢スルヲ得ヘキ事

建築法、西伯利亞鐵道ハ鋼製廣軌單線ニシテ歐露鐵道ノ最東端チェリヤピンスクニ起リ

東嚮オムスククラスノヤースク等ヲ經幾多ノ大河ヲ橫斷シテイルクーツクニ出テバイカル湖ヲ渡リチタネルチンスクヨリ稍北上シ黑龍江ノ左岸ニ沿ヒアルバジンブラゴウチエンスクヲ過キハバロフカニ達シ烏蘇里鐵道ニ連接シ南下浦壟斯德ニ至ル延長七千一百十三露里ニ及フ

運輸力 露國遞信省最近ノ報告ヲ見ルニ西伯利鐵道豫算案中機關車二千客車三千貨車三千六百ノ新調費ヲ含有スト雖トモ歐亞ヲ通シテ軌道ノ制ヲ同フセルカ故ニ一朝事變ニ遭

遇セハ猶多數ノ車輛ヲ絶東ノ運輸ニ充ツルヲ得ヘシ  
現時烏蘇里鐵道ニ使用セル客車ハ幅十呎長三十呎高サ約八呎ニシテ車基ノ鐵軌ヲ距ル四呎半ニ及ヘリ、腰掛八幅一呎八吋長七呎七吋ニシテ上部モ亦之レト同一ノ木板ヲ取着ケ寢基ノ用ニ供ス此上部ノモノト腰掛ノ中間ニ於テ喫番ニ因テ起倒シ得ヘキ木板アリ故ニ所要ニ望テハ一車ニ付キ二十基以上ノ寢基ヲ得ヘク出入口ハ兩側ノ一隅及前後兩端ニ設ケ、冬時使用スヘキ暖爐ハ車輛ノ一端ニアリ鐵管ヲ兩側ニ敷キ蒸汽ヲ以テ配暖シ、窓蓋ノ如キハ之レヲ二重ニナシ其他防寒ノ準備殆ント整ヘリ、馬匹車輛ハ平時ニアツテハ六頭ヲ搭載シ戰時輸送ニ際シテハ増加シテ八頭トナスヲ得ルト云フ  
近來露國流車ノ速力遲緩ヲ論辨非難スル者アリ實ニ烏蘇利鐵道ノ如キハ其速力一時間平



均二十三四露里ニ過キスト雖凡畢竟スルニ之ン地方未タ石炭ニ乏シク森林ニ富ミ木材ヲ燃料ニ供スルト「ステーション」ニ於ケル停車時間ノ著シク長キト又現時ニ在テハ實際高速度力進行ノ必要ナク經費ノ輕減ヲ欲スルニ基ケルモノニシテ全線連絡ノ段ニハ當初ノ計畫ノ如ク拾四晝夜ニシテ聖比得堡ヨリ浦塩斯德ニ達スヘキナリ此時ニ當テ使用スヘキ石炭ノ供給ニ就テハ露國政府カ最モ焦慮スル處ニシテ鑛山局ヲイルクーツクニ置キ又鑛山技師ヲ内地各方面ニ派遣シ線路附近ノ地方ニ於ケル炭鑛ノ探檢ヲ勉メ本年六月六日露國官報ハ其結果ヲ報告セリ即チ

第一西部西伯利探檢隊ハセミバラチンスク州パウロダールスク郡エキバズツサ湖近傍ノ炭坑近傍ノ炭坑ヲ探檢シ將來該炭坑ノ多望ナルコトヲ證明シ殊ニ航運ノ利便アルイルチツシ河ニ接近スルノ點ニ於テ利便多キヲ說示セリ次ニ同隊ハトムスク區レベヂヤーンスク近傍ノ産炭地ヲ探檢シタル結果ハ十二箇所ノ炭層ヲ發見セリ此内十一層ハ各厚サ一「サーゼン」凡ソ有シ線路ノ附近就中スードゼンスク停車場ヲ距ル八「ウエスト」ハ九町四十間餘ノ所ニハ到ル處ニ石炭ヲ露出セリ又アルチニグート河ノ南方五箇所ニモ炭層ヲ發見シタリ此外同隊ハ處々ニ於テ地質探檢ヲ遂了セリ

第二中部西伯利探檢隊ハムキハーフ近傍ニ於ケル産炭地ノ探檢ニ從事シバイカル湖岸ノ

マリノーフカ近傍ニ於テ褐炭ノ産地ヲ發見シニージネウチンムクノ近地ニ於テモ亦同産地ヲ發見セシガ其地勢探炭ヲ營ムニ便ナラス此外同探檢隊ハバイカル道鐵線路ニ横ハルジユルキジーンスク山脊ノ一部ヲ檢測シ陸通ヲ鑿成スヘキ準備ヲ了リタリ又キンゴール其他ノ小河岸ニ諸種ノ鑛物ヲ含有スルヲ發見セリ

第三東部西伯利探檢隊ハ派遣セラレタル地區内ノ探檢ヲ遂了シ種々ノ鑛産地及鑛泉湧出地並ニ幾多ノ炭脈ト多クノ鐵坑ヲ發見セリ又本年中途行スルコトニ豫定サレタル業務ハ第一ストゼンスク近傍ノ炭脈ヲ精査シマリーンスク區炭脈ノ調査ヲ繼續スル事第二ムキョーフ近傍ノ鐵坑ヲ精査スル事第三グーシン湖岸ヒルカ河ノ沿岸其他ノ若干地方ニ於ケル褐炭産地ニ就キテ探炭ヲ試ミ鐵坑及山塩産地ノ調査並ニ地質調査ヲ繼行スルコト是ナリ以上事業成績及本年ノ企業設計ハ會議西伯利鐵道會議ニ於テ是認シ直ニ皇帝ノ制可ヲ得タリ

ト而シテ未タ品質ノ善惡ヲ詳ニセズ設合悉ク粗惡ニシテ絶對的ニ鐵道用ニ適セズトスルモ既ニ黑龍江總督管内ノミノ炭礦坑スラ左ノ表ニ示スカ如ク富饒ニシテ就中蘇城河畔ノモノハ炭脈厚薄品質亦甚タ善良(三種アリテハ無相炭一ハ)ニシテ頃者百十二萬六千九百九十百留(内神速斯德マアノ)ノ經費ヲ以テナホーツカニ達スル石炭運搬用鐵道布設ヲ計畫シ其他黑龍



湖岸ノモノ亦之レニ讓ラスト云フヲ以テ見レハ石炭ノ欠乏ガ后来運輸力ヲ減殺スルノ患ハ萬ナカルヘク況ンヤ燃料ニ適スヘキ石腦油ノ湧出所在ニ散布シ既ニチニソヤビンスクオムスク間ハ石腦油ヲ用ヒ向後石腦油使用ノ方法益々發達セントスルニ於テオヤ

種類物	礦物所在地	採掘出願者	許可出願年月
炭礦	黑龍灣岸クルイコーウ及マルコーウ 岬附近	礦山技師ゴルローウ	一八九四年
全	黑龍灣岸小マングハイ河畔	休職陸軍少將ソロノムマ	一八九四年
全	浦港ヨリ四二露里ナル第三瀛車驛	休職二等海軍大尉アダー ムス	一八九五年
全	ナデージデンスカヤヨリ十五露里ノ 所	ツラウベンベル伯爵一等 商ブリーネル及セウニヨ ウ	一八九五年
全	聖オリガ灣附近	露一等商スウオーロウ他	一八九五年
全	蘇城タオウヂミ河岸及カメニースチ		

以上掲記セルモノハ皆鐵道ノ需要ニ供スルノ目的ニシテ此他尙炭礦及鐵礦ノ探檢ヲ努ム

種類物	礦物所在地	採掘出願者	許可出願年月
鐵礦	一 礦泉ノ附近	四名	一八九六年
全	黑龍灣岸レチノイ郵驛附近ナデー ジ ン及ヒキバリース瀛車驛ノ間	露一等商シャトウツラ ウベンベル伯	一八九六年
全	ナデージデン瀛車驛ヨリ北方附近	休職海軍大佐レンチユ ウ	一八九六年
全	ボシエツト區黑龍灣岸ニシテ朝鮮人 村落パンチエメーギョリ一露里半	休職二等海軍大尉アダ ム	一八九六年
全	ボシエツト區ベンウオースナヤ及ボ ポーワ河附近	露二等商シユンギン礦山 技師ゴローウ	一八九六年
全	バラバーシユ連宮ヨリ二露里サナウ オローウカ村ヨリ八露里ノ所	休職陸軍少將ソロムマ	一八九六年
鐵礦	烏蘇里灣岸カンガウス河トブチャ ン島トノ間ノ海岸	建築技師クウオズヂウ オーウスキ	一八九六年



ルモノ多シ

露國ダーリニウオスレーク新聞ハ本年四月一日發行ノ紙上ニ左ノ一節ヲ掲載セリ附記シテ參考ニ供ス

開ク所ニ依レハ露國南部烏蘇里鐵道廳ニ於テハ同線路ノ機關車蒸氣燃局ニ最新ノ方法ヲ試驗スヘシ該方法タルヤ機關車ノ特別構造ナル燃局ニ於テハ是迄ノ如ク薪材ヲ用ヒスシテ普通ノ石炭ヲ燃用スルモ其石炭ハ粉末トナシ器械ノ作用ニテ之ヲ霧狀ニテ火焰ノ上ニ振掛ケ毫モ餘滓ナク之ヲ燒燃セシメ充分ニ其火力ヲ利用シ得ヘキ燃局ノ構造ナリ之ニ要スル炭粉ヲ製スルニハ黑龍灣岸ナル二番河附近ニシテ現時技師ゴルロウ氏ノ借區ニテ採掘セル石炭ハ最モ之レニ適スルト云フ

酷烈ナル天候ハ果シテ四時列車ノ往復ヲ許スヘキヤ否ヤヲ疑フモノアリ然リ西伯利内地ノ半歲ハ寒威峭嚴ナルモ鐵路附近ハ未タ人畜生ヲ聊セザルノ甚シキニ至ラス而モ車内防寒ノ準備整ヘルアリ、大氣ハ乾燥シテ晴朗月ヲ重ネ唯時々強烈ナル北風ノ吹襲ニ止マリ降雪ノ線路ヲ埋没スルナキヲ以テ冬期ハ列車ノ運轉ヲ中止セザルヘカラサルノ障害ナカルヘク又春夏温暖ノ期ニ於テ氷雪融解霖雨連日ニシテ河流漲溢セハ時ニ堤防ヲ破リ線路ヲ浸シ橋梁ヲ流失スルヲ開通ノ初メニアツテ更ニ頻繁ナルヘシト雖トモコレ所謂一時

ノ災害ニシテ決シテ人力ノ防禦復舊スヘカラサルモノニ非ス歲月ヲ重ネ根底基礎鞏固ナルニ從テ災害ノ漸ク減少センコト我邦鐵道ニ徴シテ明ナリ  
現況 一千八百九十二年十二月十日勅令ニ因テ制定シタル鐵道工事區域及竣工期限ハ左ノ如シ

第一區

チニリヤビンスク	オビ	間	延長	一三二八露里
オビイルク	トック	間	延長	一七五四露里
浦汝斯德	グラフィスカヤ	間	延長	三八三露里

以上ハ一千九百年マテニ竣功スヘキモノ

第二區

グラフィスカヤ	ハバロフカ	間	延長	三四七露里
ムイハフスカヤ	ストレンヌク	間	延長	一〇〇九露里

以上ハ起工竣工共ニ未定

第三區

バイカル	湖南岸線		延長	二九二露里
------	------	--	----	-------



ストレンスクハバロフカ間

延長 二〇〇〇露里

以上起工竣工共ニ未定

之レニ由テ觀レハ露國政府カ工事ノ簡易ナルモノヲ先ニシ困難ナルモノヲ後ニセシハ事業進行ノ點ニ於テ最モ其當ヲ得タルモノト云フヘク第一區線中チエリヤビンスクヨリエニセ  
 イ河畔グラスノヤースクハ既ニ列車ノ運轉ヲナシ現今グラスノヤースクイルクーツク  
 間ノ線路及工場ニ使役スル工夫七萬ヲ下ラス日夜督促ヲ嚴ニシ本年ニ於テ其落成ヲ期シ  
 浦蓋斯德グラフスカヤ間ハ一千八百九十五年開通シ一般人民ノ往復ヲ許セリ續テ第二  
 區線路タルグラフスカヤハバロフカ間ノ工事ニ移リ本年八月中ノ調査ニ據ルニ未タ軌  
 條ノ敷設ヲ了ラサルモノキー河及ヒツーホーウスカヤ驛ノ近傍ニ於テ僅ニ十二露里ニ  
 過キス浦蓋斯德ホー河間ハ汽車全通シ鐵道用材料及人員ノ運搬ニ從事スト  
 第二區第三區線ニ至テハ前説グラフスカヤハバロフカ間ノ外未タ着手シタルモノアル  
 ヲ聞カスバイガル湖南岸線ハ峻嶺深谿相迫リ工事最モ困難ヲ極メ多數ノ時日ト鉅萬ノ費  
 額ヲ要スルヲ以テ當初ノ設計ヲ變シ湖上二十哩ノ間汽船ヲ以テ列車ヲ運輸スルニ決シ  
 ムイソーフスカヤストンチンスク及ストレンスクハバロフカ間モ險難多ク又夫ノ  
 黑龍江汽船ノ便アルヲ以テ當初ヨリ最後ニ着手スルノ計畫ナリシガ今ヤ彼ノ侵畧的ナル

東清鐵道會社線路更ニ便益ナルヲ見レハ敷設工事ニ着手スルハ果シテ幾年ノ後ヲ期スヘ  
 キカ

目下露國海軍造船技士アルチエローツノ監督ノ下ニ英アームストロング造船會社ニ於  
 テ製造中ナル西伯利貝加爾湖用列車運搬汽船ハ長サ二九〇呎幅五七呎、吃水二〇呎排  
 水量四二〇〇噸ニシテ能ク迅速ニ堅水ヲ破碎セシメンカタメ船首ニ於テ特別ニ裝置セ  
 ル區内ニ螺旋ヲ具シ上甲板ニハ三線ノ軌條ヲ布設シ列車二十輛ヲ積載シ得ルト云フ  
 西伯利内地ノ氣候カ沍寒ニシテ戶外事業ニ服スルヲ得ルハ周歲僅カニ五ヶ月ニ過スシテ  
 而モ洪水屢々臻リ障礙ヲ與フルモ此好結果ヲ奏セルヲ思ハ、露國當局者カ百折不撓ノ精  
 神ヲ以テ事ニ從フヲ見ルヘク今後ノ進行亦豫期ヲ愆ラサルヲ斷言シ得ヘシ  
 露國政府ハ一千八百九十四年一月鐵道乘客賃錢遞減規則ヲ發布シテ中央及絶東西伯利ノ  
 拓殖ヲ獎勵シ既成部ハ既ニ之ヲ實施セリ其賃錢ノ低廉ナル實ニ驚クヘキ者アリ即チ左表  
 ノ如シ

發車地點	到着地點	上等	中等	下等
聖比得堡	浦蓋斯德	一〇〇留	六〇留	四〇
全	ハバロフカ府	九五	五七	三八



全	フルゴージェチンスク	九〇	五四	三六
全	チタ	七〇	五二	二八
全	ウエルフネウヂンスク	六七	四〇	二七
全	イルクーツク	六五	三九	二六
全	グラスノヤースク	五五	三三	二二
全	トムスク	五〇	三〇	二〇
全	オムスク	四五	二七	一八

(滿州鐵道)東亞ノ主權ヲ掌握セント欲スル策點ナル露國人力宿寐ノ間タモ念頭ニ銘スルノ宿望ニシテ外交家カ前後相承ケ巧妙ノ手腕ヲ揮ヒ或ハ唱ハスニ甘言ヲ以テシ或ハ嚇スニ劍ヲ以テシ經營慘憺至ラサルナク漸次其歩武ヲ進メリ矣夫レ鉅萬ノ財ヲ擲テ幾多ノ歲月ヲ費シストレチンスクハロフカ間線路ノ難工ヲ竣ヘ大鐵道貫通セハ攻防ノ整備殆ント遺憾ナカ  
ルヘキモ路程ノ遼遠ナルト沿海州地方ノ荒蕪ナルトハ東洋ノ風雲擾亂シ砲聲天ニ轟クノ日  
浦蓋斯德附近ニ集合セル大兵ノ給養ヲ裕ニスル能ハサルヲ以テ必スヤ土壤膏腴人烟稠密ナル  
吉林ノ野ヲ奪ヒ自家ノ倉粟ニ充テント欲スルモ未タ機ノ乘スヘキナク空シク涎ヲ垂レ流盼  
スルノミ明治二十八年遼東半島割讓ノ事アルヤ我勢力ノ強盛ヲ嫉ミ且ソノ膨脹ハ后来陰謀

一一〇

遂行ノ最大障害タルヲ恐レ巧ニ獨佛ヲ使喚シテ相連衡シ武威堂々我ニ蒞ミ武ヲ大陸ノ外ニ驅  
逐シ願ミテ思フ清國ニ嫁シ其報復ヲ要ム清國ノ大官頑迷昏愚大勢ニ暗ク宋人ノ轍ヲ蹙ミ一  
時ノ苟安ヲ僥倖シ誅求要請一トシテ聽カサルナク股ヲ割キ腕ヲ剔テ虎狼壑谷ノ慾望ニ供  
シ而シテ今ヤ遂ニ滿州鐵道敷設ノ許諾ヲ與ヘリ露國大藏省工業雜誌ハソノ誌上ニ於テ清國  
東部鐵道ト題シ左ノ一文ヲ世ニ公ニセリ

西伯利大鐵道ノ線路ノ方向ハチタヨリスレーテンスクヲ經シルカ河岸ニ沿ヒボクローフ  
スカヤニ抵リ其ヨリ黑龍江ノ北岸ニ沿ヒハバローフスクニ抵リ同地ニ於テ烏蘇里鐵道ト  
連絡スル設計ナリシカ其後後員加爾區及黑龍江區ヲ探檢シタルニ後員加爾線ノ第二區即  
チスレーテンスクヨリボクローフスカヤニ抵ル間(此距離二百六十二「ウエルスト」)「ウル  
九町四尺」ハ工事頗ル困難ナルヘキコトヲ知レリ此間線路ハシルカ河岸ニ沿ヒテ走ルヘキ  
豫定ナレトモ同河畔地ハ峻巖絶壁ノ間ニ介シ狹隘低窪ニシテ宛然回廊ノ如キ觀アリ加之  
山河ノ間罕ニハ狹隘ナル土壇ノ狀ヲ成セル處モアレハ(自餘ノ部分ハ險峻礮礮ノ斜坡ニ  
アラサレハ峻巖ニシテ垂直線ヲ成シテ河ニ臨メリ)此ノ如キ箇所ニ於テハ線路ハ河床ヲ  
距ル三百「サージエン」(「サージエン」ハ一四一尺)ニ出テスシテ殆ト之ニ接シテ走レリ且ツ航通季節ニ於  
テ洪水ノ氾濫スルコト往々之アリ此際ニハシルカノ水深ハ時トシテ數「サージエン」ヲ増



シ諸處ニ於テ河畔地一面ニ漲溢スルコトアリ是ヲ以テ前記三百六十二「ウエルスト」ノ間ハ大抵支壁ノ上ニ線路ヲ設クルノ必要アレトモ斯クスルトキハ此區ノ工事費ハ非常ニ嵩マサルヲ得ス然レトモ峰巒ノ位地ト一體ノ地勢トヲ考フレハシルカ河畔地ヲ避クルコトモ亦行ルヘキ事ニアラス

黑龍江州内ニ於テボクローフスカヤヨリハバローフスクマテ鐵道ヲ敷設スルモ亦不利ト困難トヲ冒サ、ルヘカラス黑龍江線殊ニ其西區ハ工事上ノ困難ニ於テ後貝加爾鐵道ノ第二區ニ髣髴シ少クモボクローフスカヤヨリチメルニヤエウフヤニ至ル間(此距離三百四十一「ウエルスト」)ハ後貝加爾線ノ第二區ト同一ノ状態ヲ以テ線路ヲ築造スルノ必要アルヘシ是レ一哩ノ敷設費ヲ比較スレハ瞭然タルヘキ事ナルカ黑龍江線(ボクローフスカヤ、ハバローフスク)間此距離千三百五(ウエルスト)ハ一哩ニ附キ八万七千四百留ニシテ後貝加爾線ノ第二區(スレーテンスク、ボクローフスカヤ)間此距離三百六十二「ウエルスト」ハ同八万九千七百留ナリ工事此ノ如ク困難ナルカ故ニ後貝加爾州ヨリ滿洲ヲ經テ直ニ浦潮斯德ニ達スル線路ヲ敷設スルコトヲ得ハ一露里ノ布設費僅カニ五万留以內ナルヲ以テ其便利ナル知ルヘキノミ

滿洲線ノ情況ト黑龍江線(スレーテンスク)ヨリボクローフスカヤヲ經テハバローフスク

ニ抵ル線路)ニ就キ調査シタル結果トヲ比較スルニ滿洲線ハ幹線ノ延長千九百二十一「ウエルスト」ニシテ内清ノ疆域ヲ通過スル分約ソ千四百二十五「ウエルスト」西伯利ノ疆域ヲ通過スル分約ソ四百九十五「ウエルスト」ナルカ後貝加爾鐵道ノオノン停車場ヨリ起リ奮ツルハイツイニ於テ國境ヲ超エ滿洲ニ入りテ齊々哈爾、呼蘭城、寧古塔ヲ經南島蘇里鐵道ノニコリスコエ停車場ニ接續ス又黑龍江線即チオノン、スレーテンスク、ボクローフスカヤ、ハバローフスク、ニコリスコエ間ノ線路ノ延長ハ總計二千四百三十四「ウエルスト」ニシテ滿洲線ヨリ長キコト五百十四「ウエルスト」即チ二割六分四分ノ三ナリ且ツ黑龍江線ヲ敷設スルニハ既ニ工事ニ著手シタル諸區ノ外スレーテンスク、ハバローフスク間此距離千六百六十七「ウエルスト」ヲ敷設セサルヘカラス故ニ滿洲線ヲ採用スルトキハ敷設スヘキ區ノ延長ハ黑龍江線ヲ採用スル場合ニ比シテ少シク長シト雖モ西伯利大鐵道ノ總延長ハ之カタメニ五百十四「ウエルスト」ヲ短縮スルナリ

右ノ外滿洲線ノ優勝ナル點ハ此線ヲ採用スルトキハ通過貨物ノ運賃モ運送距離モ黑龍江線ヲ採用スルニ比スレハ著シク減スヘキニアリ蓋シ滿洲線ハ黑龍江線ヨリモ南方ヲ走リ此線トハ六百哩ヲ隔ツル處モ往々之アリ故ニ其通過スル地方ハ黑龍江線ノ通過スル地方ヨリ氣候順適ニシテ地味モ亦膏腴ナリ其橫斷スル松花江ノ河畔地ハ多ク穀類ヲ産シ從來



同河ノ航通極テ困難ナリシニモ拘ラス我黑龍江沿岸地方ニ之ヲ供給シ來レリ又此線路ハ黑龍江トハ遠隔セル地方ヲ通過スルカ故ニ黑龍江ハ此線路ト競争スルコトナカルヘク且ツ此線路ノ方向彼ノ如クナル以上ハ黑龍江カ其沿岸地方ノ低廉ナル通路タル價値ヲ失墜スルコトモナカルヘク隨テ黑龍江ヲ利用セル私立會社ノ航通業ハ今後モ益々發達スヘシ最後ニ滿洲線ヲ採用スル結果トシテ浦潮斯德ハ(第一)滿洲ヲ經過スル鐵道ニ由リ(第二)黑龍江、烏蘇里鐵道及後員加爾鐵道ノスレーテンスク區ヲ經過シ畢竟二條ノ汽力應用線路ニ由リ歐羅巴、露西亞ト連絡ヲ通スルコト、爲リ頗ル便利ナル狀態ヲ呈スヘシ故ニ滿洲線ハ黑龍江線ニ比シテ迥ニ便利ナリトス

此ノ如キ事由アルニ因リ西伯利鐵道ヲシテ滿洲ヲ通過セシムヘキ談判ヲ開始セシニ清國政府ハ露清銀行ニ滿洲鐵道ノ敷設及營業ヲ認許スルモ差支ナシト認メタリ

本年<sup>年</sup>八月二十七日<sup>日</sup>露清國公使許景澄ト露清銀行事務局トノ間ニ滿洲鐵道ノ敷設及營業ヲ同銀行ニ認許スル件ニ關スル規約ヲ締結シ露清銀行事務局ハ同鐵道條例案ヲ提出シ本年十二月四日<sup>日</sup>露勅裁ヲ經タリ

滿洲ハ亞細亞東北部中最モ膏腴ノ地方ニシテ人口モ亦最モ稠密ナリ廣袤約ソ八十万方「ウエルスト」アリ地勢自然ニ南北ニ傾斜ス此部ノ傾斜ハ黑龍江ニ抵リ同河ヲ超ニオホク

ツク海ニ至リテ止ム南部ノ傾斜ニ於テハ河水ハ南流シテ黃海ニ入ル南部ノ中北部ハ南部ヨリ五倍大ニシテ氣候、河流、草木、農作物等ノ如キモ彼此大ニ相異レリ此等ノ物ニ徴スレハ北部ハ寧ロ西伯利ノ一部ヲ成シ南部ハ全ク清國ニ屬セリ政治上ニ於テ滿洲ヲ分チテ三省トス黑龍龍、吉林及盛京即テ奉天是ナリ本篇ニ於テハ主トシテ北部ノ事ヲ記スヘシ設計ノ鐵道ハ殆ト其中央ヲ橫斷スレトモ南部ヲ距ルコトハ直線ヲ以テ計レハ三百「ウエルスト」ニ下ラサルヘシ

北滿洲ハ山脈其大部分ヲ占ム敢テ峻高ナルニアラスト雖モ蜿蜒トシテ廣ク互レリ北方ノ一山脈ハ即チ大小興安嶺ニシテ大興安嶺ハ宛モ西方ノ蒙古大高原ノ一端觸起シタルカ如キ觀アリ其重ナル山脊ハ大抵北々東ヨリ南々西ニ互リ高山危峰紆餘錯錯シ到ル處蒼鬱タル茂林ヲ戴ケリ高サハ約ソ四千呎アリ左右ニ支脈ヲ分派シ支脈ト支脈トノ間ハ大ナル黒土ノ谿洞ヲ成シ草木鬱生セリ小興安嶺ハ大興安嶺ノ東ニ在リテ低キ高原ノ狀ヲ成シ東方ニ於テハ低下シテ黑龍江ニ接シ西方ニ於テハ嫩江ノ河畔地ト爲ル

南方ノ一山脈ハ朝鮮ノ諸山ニ連接スルモノニシテ其重ナル山脊ヲ長白山トス大抵西ヨリ東ニ互リテ蜿蜒セリ又之ヨリ支出セル數條ノ大山脊アリ互ニ相平行シテ松花江及烏蘇里ノ支流ノ分水界ヲ成セリ此等ノ山脊ハ山嶺ト斜坡トニ論ナク地皮濕潤シテ沼地ノ如ク密



林ヲ成セリ然レトモ其路間ハ往々膏腴ノ地ナルコトアリ  
 北滿洲ハ黑龍江ノ河域ニ屬スル諸河流通ス其中最モ重要ナルハ松花江ニシテ支流ニハ嫩  
 江アリ宛モ地方ノ大動脈ノ如キ狀ヲ成セリ松花江ハ吃水五呎以下ノ船舶ナルトキハ航通  
 季節ニ於テ七百「ウエルスト」ノ間ヲ航通スヘシト雖モ水層ノ増ストキハ約ソ千百「ウエル  
 スト」ノ間ヲ航過シ直ニ吉林ニ到ルヲ得ヘシ支那船ノ此間ヲ航通スルモノハ甚タ多ク或  
 ル箇所ニ於テハ帆船ノ常ニ林立スルヲ見ル露國ノ商人ハ愛理條約ニ依リ松花江ノ自由航  
 通權ヲ得タレトモ俄近マテハ殆ト此權利ヲ放棄シテ願ミサリキ千八百六十一年露國ノ商  
 人チエボターレフト云フ者始テ松花江ヲ溯リ三姓ニ於テ殺害セラレシカ其ヨリ後ハ江上  
 又露國ノ商船ヲ見サルモノ數年漸ク輓近ニ至リ(千八百九十四年ヨリ千八百九十六年ニ  
 至ル間)江ヲ溯リテ數回遠航ヲ企テ幾分カ成功シタリ松花江ノ支流ナル嫩江ハ長サ七百  
 「ウエルスト」アリ深サハ通常五七呎ノ間ヲ上下シ河水混濁スルトキハ二三「サージエン」  
 ニ達スルコトアリ種々ノ魚類ヲ蕃生ス其河畔地ハ齊々哈爾濱ニ抵ルマテ人口稠密ナリ船舶  
 ハ齊々哈爾濱マテハ絶エス通シ得ヘキモ其ヨリ墨爾根マテハ水深増加セサレハ通セス墨爾  
 根ヨリ前方ハ唯筏等ノミヲ流ニ順ヒテ下スヘシ  
 北滿洲ノ氣候ハ概シテ酷烈ナリト雖モ我烏蘇里地方ノ如ク甚カラス夏時暑熱甚シク雲多

クシテ又沈澱物ニ富メリ冬時ハ之ニ反シ温氣著シク下降シ雲少ク沈澱物ニ乏シ最モ多雨  
 ノ候ヲ七八ノ二月トス九月ノ末ヨリ結氷ヲ始メ一箇月半乃至二箇月ヲ經レハ諸河ハ全ク  
 凍結ス

滿洲ノ人口ハ少クモ千二百万ヲ下ラサルヘシ内半數ハ北滿洲ニ屬ス種々ノ種族雜處セリ大  
 部分ハ漢人ニシテ其他ハ滿人、「ダウル」人、「ビラール」人、「オロチオン」人、「マネグル」  
 人、「ゴリド」人、「ソロン」人、「ニレート」人、「チブチン」人、「ブリヤード」人及朝鮮人ナ  
 リ漢人ノ外ハ孰モ少數ニシテ且ツ蒙昧ナルカ故ニ種族トシテハ勢力ナシ滿人ハ其數最モ  
 多シト雖モ今ハ全ク漢人ノ風ニ化セリ土民ハ重ニ農業ニ従事ス現ニ北京政府ハ漢人ヲ地  
 方ニ誘致シ其廣大ナル未拓ノ部分ヲ耕耘セシメント欲シテ種々ノ手段ヲ取レリ北滿洲ニ  
 生スル穀類中第一ノ地位ヲ占ムルモノヲ黍ノ類トス豆類モ亦乏カラス就中最モ多キハ油  
 豌豆ナリ製シテ以テ油ヲ採ルヘシ此種ノ油ハ長城外ノ諸省ニ於テ多ク需要セラル製油ノ  
 際殘ル所ノ渣滓ヲ以テ豆餅ヲ製ス家畜ノ飼料又ハ肥料トシテ需要多シ此他小麥、大麥、蕎  
 麥ヲ多ク産ス又米ノ一種ニシテ高地ニ生スルモノアリ自餘ノ作物中ニ就キテ蔬菜ヲ除ケ  
 ハ玉蜀黍 粟粟、藍靛、大麻及煙草ヲ主要ノ産物トス滿洲ノ粟粟ハ印度産ノ勁敵ト謂フ  
 ヘシ松花江ノ河畔地ニ開ケル粟粟畑ハ既ニ數千「デシヤチナ」(「デシヤチナ」ハ一段餘)ニ達セリ粟



粟ノ耕作ハ今後モ益々旺盛ヲ致スヘシ煙草殊ニ吉林産ノモノハ清人ノ甚々嗜ム所ニシテ之ヲ喫スル者頗ル多シ滿洲ノ或ル部分ニ於テハ藥用トシテ人參ヲ作ルト雖モ野生ノ方却テ貴重セラル

北滿洲ニハ沃地多ク其産スル所ノ農産物ハ土民ノ需要ヲ濟シテ尙ホ餘アレハ其剩餘ヲ輸出ス黍及玉蜀黍ノ剩餘ハ造酒ノ原料ニ供ス滿洲ノ農業地方ニ於テ酒類釀造場多ク時トシテ大ナル規模ヲ成スモノアルハ之カタメナリ松花江ヨリ北方ニ當ル巴彥蘇々及呼蘭城ニ地方ニ於ケル造酒所ノ造石高ハ毎年五六百万「ウエドロー」ニ達ス「ウエドロー」ハ六升八合餘牧畜業ハ滿洲ノ西北部ナル愛理附近ノ地方ニ於テ遊牧民盛ニ之ヲ營ムト雖モ其他ノ地方ニ於テハ家畜ヲ飼育スル者少シ家畜中最モ多キハ豚ニシテ大ナル製油所又ハ製糊所ニハ時トシテ豚數千頭ヲ飼養スルモノアリ有角家畜ハ主トシテ耕作用又ハ運送用ニ供ス魚類ハ土民ノ食品トシテ重要ナルモノナリ松花江ノ下流及嫩江ニ於テ盛ニ漁業ヲ營ム齊々哈爾ノ商人ハ南滿洲ハ勿論長城外ノ地方トモ魚類ノ取引ヲ爲ス頗ル盛況ナリ此他松花江ニ於テハ貝珠ヲ採拾スレトモ其數ハ甚々多カラズ且ツ其採拾ハ皇室ノ特權ニ屬セリ又滿洲殊ニ其北部ハ金銀ニ富ムト雖モ政府ハ輒近マテ採金者ヲ視ルコト恰モ盜賊ノ如ク兩者一様ニ死刑ニ處シ以テ金銀ノ採掘ヲ嚴禁セシヲ以テ滿洲ハ如何ニ金銀ニ富メルカハ未タ其詳細ヲ知

ル能ハス尤モ輒近ニ至リ政府ハ法律ヲ制定シ滿洲ノ鑛山ヲ開掘スルコトヲ許セリ此ノ如ク從來清國官吏ノ手ニ捕ヘラレタル採金者ハ嚴刑ニ處セラレタルニモ拘ラス金銀ノ開掘ハ盛ニ行レタリ此他尙ホ多ク鐵ヲ産ス鉛ハサ、マ、チー村ヨリ南方四十「ウエルスト」許ノ處ニ多ク産ス又同村ヨリ南方ニハ銅ヲモ産ス炭鑛ハ處々ニ散在セリ

滿洲ニ於ケル主要ノ市府ニシテ計畫ノ鐵道線路ニ沿ヒ又ハ其附近(四十「ウエルスト」以內)ニ在ルモノヲ舉クレハ先ツ指ヲ呼倫貝爾ニ屈スヘシ同市ハ愛理附近地方ノ行政中樞地ナリ伊本果勒河ノ河畔地ニシテ同河ノ海拉爾河ニ合流スル處ヲ南ニ距ル五「ウエルスト」ノ處ニ在リ長サ二百五十「サージエン」ノ一街ヨリ成リ人口二千アリ住民ハ大抵他地方ヨリ來レル漢人ノ商人ナラサレハ職工ニ屬ス土人ハ多ク鍛冶ヲ業トス呼倫貝爾ヲ距ル千五十「ウエルスト」ノ處即チ多倫諾爾寺廟ノ近傍ニ於テ毎年市アリ頗ル著名ノ市ニシテ北蒙古ノ庫倫ニ至ルマテノ廣大ナル地方、北滿洲ノ全部、北清諸地方ハ勿論我後員加爾地方ノ幾分モ亦其取引範圍内ニ入レリ八月市ノ開始スル頃ニハ粉類、絹綿織物、金屬製品、革製品、碧玉ノ磨キ煙管及煙草入、張家口製ノ喇嘛黃銅像(米國製モ往々ニシテ之アリ)等ヲ搭載セル馬車千百隊ヲ成シテ南方ヨリ此市ニ來ルモノ陸續トシテ斷エス又西方蒙古ヨリハ牡羊、馬、獸毛及獸皮ヲ駝シタル駱駝ヲ送り我後員加爾ヨリハ主トシテ馬



ヲ送ル馬ハ清人ノ喜ヲ購入スル所ナリ齊齊哈爾ハ嫩江ノ左岸ニ在リ豐裕繁昌ノ一市ニシテ大ナル煉瓦屋モ少カラス全區之ヨリ成ル箇所サヘアリ市内店舗ノ數ハ千八百九十五年ニ於テ四百餘戸アリ内雇人ノ數五十人ヨリ七十五人ニ上ル大店ハ五十戸アリ又貸金所ハ九戸アリ人口ハ統計ニ由テ同カラスト雖モ大抵三万乃至七万ノ間ヲ出テス毎年九、十ノ二月ニ市アリ呼倫貝爾ヨリハ羊及馬ヲ呼蘭城及巴彥蘇々ヨリハ小麦、黍、燒酎及油ヲ南方牛莊ヨリハ種々ノ歐洲製品ヲ送ル呼蘭城ハ呼蘭河ノ左岸ニ在リ同河ノ松花江ニ合流スル處ヨリ十五乃至二十五「ウエルスト」ヲ隔テタリ廣大ナル平原ノ上ニ在リテ人口三万乃至三万五千ヲ有ス或ハ七万ナリトモ云ヘリ千八百九十五年ニ於テ商會百二戸アリ内大ナルモノ五十戸アリ此他貸金所十一戸、大店五十戸、小店三百戸アリ市内ノ内外ニ製油所四十五箇所乃至五十箇所アリ地方ヲ通計スレハ燒酎製造所三十六箇所、製油所二百餘箇所アリ巴彥蘇々ハ松花江ノ河岸ヲ北ニ距ル十五「ウエルスト」ノ處ニ在リ人口二万八千乃至三万アリ内一万五千ハ基督教徒ニ屬セリ此地方ニ於テハ千八百九十五年ニ於テ燒酎製造所十八箇所、製油所五六十箇所アリアジエ、ヘー阿勒楚喀ハ松花江ヲ南ニ距ル四十乃至六十「ウエルスト」ノ處ニ在リテ同名ノ河ニ枕メリ盛ニ農産物ノ貿易ヲ營ム農産物ハ同處ヨリ南方牛莊ヘ仕向ケラル、ナリ住民ハ頗ル富裕ナルカ如ク其歐洲製品殊ニ綿布、一ラン

ブ、燈油、玻璃品、寶石類ヲ需要スルコト少ナカラス且ツ其需要年々増加スルノ勢アリピン、チヨウカ賓州ハ松花江河畔地ノ一大市ニシテアジエ、ヘーヲ東ニ距ル六十五「ウエルスト」ノ處ニ在リ人口二万乃至二万五千アリチャ、バン、チャンハピン、チヨウカヲ距ル三十「ウエルスト」ノ處ニ在リシン、ヂャンヨリハ二十「ウエルスト」ヲ隔テリ人家千戸、人口一万アリ松花江河域ニ於ケル阿片製産ノ中心地タリ寧古塔ハ牡丹江ノ左岸ニ在リ此邊ノ河畔地ハ廣大ニシテ地味膏腴ナルカ上ニ人口モ亦稠密ナリ人家ハ大抵土磚製ナレトモ煉瓦屋モ亦少カラス漢人ノ移住スル者多キタメ人口急速ニ増加ス現今ハ一万五千乃至二万モアルヘシ

前記ノ外計畫ノ鐵道線路ニ當ル地方ニハ尙ホ次ノ諸市アリ即チ吉林ハ松花江ノ上流ニ在リテ人口十二万アリ北滿洲中人口最モ稠密ノ市ニシテ且ツ工業ノ中心地ナリ其貿易品中最モ著名ナルハ煙草及毛皮トス市ヲ北ニ距ル五十「ウエルスト」許ノ處ニ陶器製造所若干アリ松花江ニ由リテ夥多ノ陶器ヲ下流ノ地ニ輸送シ又齊々哈爾ヘモ仕向ク吉林ハ千八百九十五年ニ測定シタル鐵道線路ヲ距ルコト松花江増水ノ際之ヲ利用スルトキハ五百五十「ウエルスト」商業通路ニ由ルトキハ三百「ウエルスト」以內ナリ故ニ線路ヲ今少シク南方ニ偏セシムルトキハ吉林ニ近クコトヲ得テ便利ナルヘシ伯都訥ハ松花江ノ右岸ニ在リ同



河ノ鐵道線路ト交叉スル處ヨリ北方ニ距ルコト二百五十「ウエルスト」ノ處ナリ商業中心地トシテ繁華ノ地ナリ千八百九十五年ニ於テ商館三百餘戸アリ内大ナルモノ九戸アリ又貸金所八戸、大店四十戸、小店四百戸アリ此他木綿製造所四箇所、敷物製造所同上、「フエルト」織工場十五箇所、製網場三箇所、毛皮工場十箇所、製革場三箇所、製油所十五箇所アリ尙ホ馬挽磨舎ハ百五十箇所アレトモ唯地方ノ需要ヲ満足スルニ過キス市ノ近傍ハ農業甚タ盛ナラス造酒所十箇所アリ地方人民ノ所有ニ係ル支那船ハ百六十艘許アリ伯都訥ノ人口ハ二三万アリ同市ハ貿易ノ中心ニシテ人口十万以上ヲ有スル蒙古ノ曠原地方ヲ西方ニ控エ其貨物ヲ致セリ三姓ハ牡丹江ト松花江ト合流スル處ニ在リ松花江ト計畫ノ鐵道線路ト交叉スル處ヨリハ二万「ウエルスト」ヲ隔テタリ人口一万乃至一万五千アリ千八百九十五年ニハ大商館十戸、貸金所五箇所、大小ノ商店六十戸アリ製造所又ハ工場ノ工業ハ市ノ内外ニ於テ甚タ少ク唯僅ニ造酒所二箇所ト製油所數箇所トアルノミ此他藥物所三箇所、毛皮工場數箇所、油箱及燒酎樽ヲ製造スル工場數箇所、寶玉工場四箇所、製紙所一箇所、鎔金所一箇所(同所ニ於テ鑄貨ヲ鎔解シテ所謂馬蹄銀トス)磨粉所及煉瓦製造所數箇所アリ三姓ヨリ上方四十「ウエルスト」ノ處ニ鑄鐵所アリ其製出スル支那棧ハ多クハ「ハローフスク」ニ於テ見ルヲ得ヘシ各工場ノ作業ハ孰モ手工ナリ市内ニ寺院十一箇

所、回教寺院一箇所、官私立學校約十五箇所アリ三姓ハ從來黑龍江ト松花江ト穀類産地トノ間ノ貿易ヲ媒介シテ重要ナル地位ヲ占メタリ千八百九十五年ニ於テ支那船六十艘アリ之ヲ以テ前記ノ穀類産地ニ於テ買入レタル商品ヲ黑龍江及烏蘇里地方ニ輸送シ居レリ六、七ノ二月ニハ近傍ノ獵夫等此ニ集リ其獲物ヲ農産品及其他ノ物品ニ交換ス此際我烏蘇里地方ノ「ゴリド」人等モ穀類、燒酎及其他ノ物品ヲ買入レンカタメ三姓ニ到ル墨爾根ハ嫩江左岸ノ一小市ニシテ齊々哈爾ヨリハ二百五十「ウエルスト」ノ上流ニ在リ人口二千ニ超エス齊々哈爾トブラゴウエシチエンスクトノ間ニ在スルヲ以テ重要ノ地タリシウアン、チエン、チン長春ハ伯都訥ヨリ東方百三十「ウエルスト」ノ處ニ在リ松花江ト相距ルコト遠カラス此邊地味豊腴ナリ市ノ近傍ニ於テハ多ク煙草ヲ産ス製油所四十箇所、燒酎製造所八箇所アリ市ノ人口ハ三万乃至三万五千ニ達ス北園林子ハ北滿洲ニ於テ開發ノ最モ迅速ナル諸市ノ一ニシテ漢人ノ移住ニ因リテ成立シタルモノナリ呼蘭城ヨリハ北方ニ當レリ人口ハ千八百八十七年ニ於テ二万五千アリ貿易上ニ於テ同市ヲ中心トセル近傍各地方ノ人口十萬ニ上レリ

滿洲ト露國トノ貿易ハ從來甚タ微々タルモノナリシカ其原因ヲ按スルニ(第一)黑龍江州及烏蘇里地方ノ未タ開拓セラレスシテ人口稀少ナリシト(第二)露國人カ輓近マテ松花江



ノ如キ滿洲ノ内部ニ通セル重要ノ水路ヲ殆ト利用セザリシトニ因ル後貝加爾州ノ貿易ハ  
 アルゲンニ河ニ由リ境界線ニ沿ヒテ營メトモ單ニ地方的ノ貿易ニ止リ交換ノ商品ハ多ク  
 牧畜業ノ產品ニ係レリ貿易高ハ十萬留ニ過キス黑龍江州ハ重ニブラゴウエシチエンスク  
 ヲ經テ貿易ス其年額約ソ百萬留ナリ滿洲ヨリ輸入スル主要ノ商品ハ家畜(二萬頭以上)及  
 穀類(十二萬「ブード」實三百六十餘)ニシテ主トシテ鐵山會社ノ需要スル所ナリ南島蘇里  
 地方ハ重ニフンチャン、ホルターワ及上マングガイ諸邊關ヲ經由シテ貿易ス其額百五十  
 萬留ニ達ス然レトモ滿洲ノ外國貿易ハ重ニ南部ニ於テ歐洲人ノ爲ニ開キタル牛莊港ヲ經  
 テ行ル此港ノ貿易ハ其發達迅速ニシテ千八百八十一年以降十二年間ニ二倍以上ノ増加ヲ  
 示シ千八百九十二年ニ於テ二千二百四十八萬三千留ニ達セリ滿洲ノ南海岸ニ於テ牛莊ノ  
 外尙ホ內國ノ各地方朝鮮ト貿易スル港及市アリ多數ノ支那船常ニ此ニ輻輳ス金州、復州、  
 貔子窩及大孤山ハ其最ナリ此等諸港ノ輸出高ハ每港約ソ二三百萬留ニ上ル北滿洲ト南部  
 トノ取引ハ幾干ノ高ニ上ルカホタ詳ナラス其諸市中最モ取引ノ盛ナルハ伯都訥ニシテ同  
 市ヨリ吉林ヘハ各種ノ商品二百七十萬「ブード」ヲ牛莊ヘハ二百五十萬「ブード」ヲ仕向ク  
 尙ホ牛莊ヘハ呼圖城ヨリ百三十三萬七千「ブード」巴彥蘇々ヨリ十六萬「ブード」齊々哈爾  
 ヲリ十九萬「ブード」ノ各種商品ヲ輸入ス

而シテ此鐵道ノ敷設及運輸等ノ任ニ當ルヘキモノハ清國東部鐵道會社ニシテ一千八百九十  
 六年十二月四日露國皇帝ノ裁可ヲ經テ發布セル會社條例ハ左ノ如シ  
 清國東部鐵道會社條例

會社ノ設立

第一條 露西亞帝國政府ノ布設セル西伯利鐵道ノザバイカール線ト南部烏蘇里線ノ支線  
 トヲ露清境上ニ於テ清國東部鐵道線ヲ以テ聯絡スルノ目的ニテ清國黑龍州西境ノ一  
 點ヨリ吉林省東境ノ一點マテ清國東部鐵道ヲ布設シ運輸事業ヲ營ム爲メ一八九六年八  
 月二十七日清國政府ト露清銀行ト締結セル條約ニ基キ清國東部鐵道會社ト稱スル株式  
 會社ヲ創立ス

備考 清國東部鐵道會社ハ清國政府ノ許可ヲ經由シ鐵道運輸事業ノ傍ラ若クハ運輸  
 事業ノ外ニ清國內地ニ於テ石炭其他礦物ヲ採掘シ及ヒ諸工商業ヲ營ムノ特權ヲ得ル  
 モノトス然シテ該工商業ニシテ愈々發達スルトキハ會社ハ鐵道會計ト區別シ特ニ會  
 計法ヲ編成スヘシ

會社創立ニ係ル義務ハ露清銀行總テ之ヲ負擔スルモノトス  
 一八九六年八月二十七日ニ締結セル條約ニ基キ會社成立後ハ鐵道ノ布設工事及ヒ其營



業上ニ關シ附與セラレタル權利義務ハ總テ此時ヨリ會社ニ移ルモノトス  
 會社創立員ハ株主ノ株金第一回拂込ヲ確收シタル露國政府銀行ノ證明書ヲ大藏大臣ニ  
 差出スヘシ大藏大臣ノ認可ヲ經此時ヨリ會社ハ初メテ成立シタルモノトス然シテ右株  
 金第一回拂込ハ本條例裁可ノ日ヨリ二ヶ月以内ニ之ヲ爲サシム  
 第二回ヨリノ株金拂込ミハ會社成立後一ケ年以内ニ券面額ノ全部拂込ミヲ了ラシムル  
 ノ方法ヲ執ルヘシ

會社株主ハ必ス露國及ヒ清國臣民タルヲ要ス

鐵道運輸營業期限

第二條 露清銀行ト清國政府ト締結セル條約ニ基キ鐵道運輸開始ノ日ヨリ八十年間清國  
 東部鐵道ヲ領有スルモノトス

露國政府ニ對スル會社ノ義務

第三條 清國東部鐵道ノ企業ハ露國政府ニ於テ鐵道營業上ニ要スル諸費ヲ支給シ且ツ社  
 債ニ係ル支出ヲ爲ス等(本條例第十一第十六條參照)總テ會社ノ收入ニ擔保ヲ與ヘ初メ  
 テ成立スルカ故ニ該會社ハ露國政府ニ對シ營業期中左記ノ義務ヲ果サ、ル可カラス  
 (イ) 清國東部鐵道ハ乘客及ヒ貨物ヲ安全且ツ便宜ニシテ間斷ナク運搬スル爲メ鐵道

附屬物及ヒ車輛等運搬用器ヲ常ニ能ク整頓シ置クヲ要ス

- (ロ) 清國東部鐵道ノ列車運轉度數ハ其接續スル露國線ノ運轉數ト同一ナルヲ要ス
- (ハ) 清國東部鐵道ハ露國ザバイカール線ト烏蘇里線トノ間ヲ往復ス可キ各種ノ列車  
 ヲ其儘受繼キ遲滞ナク其目的ノ點ニ運搬スルヲ要ス
- (ニ) 清國東部鐵道ハ露國ヨリ來ル直行ノ客車貨車ヲ露國線ノ汽車速力ヨリ劣ラサル  
 速度ニテ輸送スルヲ要ス
- (ホ) 清國東部鐵道ハ其全線ニ沿ヒ電信ヲ架設營業シ且ツ之ヲ露國鐵道ノ電線ト聯路  
 シ然シテ露清境上ノ甲汽車驛ヨリ乙汽車驛マテ傳送スル電信並ニ露國ヨリ清國ニ  
 向ケ又ハ清國ヨリ露國ニ向ケ發送スル電報ヲ受ケ繼キ遲滞ナク之ヲ取扱フヲ要ス
- (ヘ) 清國東部鐵道ノ運輸營業愈々發達スルニ隨ヒ若シ其汽車及ヒ諸器械ノ構造乘客  
 及ヒ貨物ヲ正確且ツ遲滞ナク輸送スルニ適セサルニ至リ露國鐵道ヨリ清國東部鐵道  
 ニ向テ右技術的改良修繕ヲ請求スルトキハ東部鐵道ハ相當ノ修繕改良ヲ加ヘサル可  
 カラス此時ニ方テ双方ノ意見相ヒ和セサルトキハ會社ハ露國大藏大臣ノ裁決ニ從ハ  
 サル可ラス若シ會社ノ資力ニシテ修繕工事を起ス能ハサルトキハ會社ハ其旨ヲ露國  
 大藏大臣ニ具申シ露國政府ヨリ補助金ノ下附ヲ請願スルコトヲ得ヘシ



(ト) 該鐵道ニ依ル乘客並ニ貨物ノ運搬及沿線ノ電線ニテ公信傳送ノ爲メ會社ハ露國政府ト協議ノ上該鐵道營業期中最高稅率ヲ約定シ其期限内ハ露國政府ノ同意ヲ得サレハ之ヲ變更スルヲ得ヌ又會社ハ露國大藏大臣ト協議シ其稅率範圍内ニテ露清直行汽車運賃及ヒ電信傳送料ヲ規定ス可シ

(チ) 露國ノ通信郵便物小包郵便物並ニ郵便物護送官吏ハ清國東部鐵道ハ無代價ニテ輸送ス可シ之レカ爲メ各通常列車中ニ長サ三尋以内ノ車室ヲ特ニ備ヘ置ク可シ之ニ加フルニ若シ露國郵便省ニ於テ必要ト認ムルトキハ該省費ニテ製造シタル郵便物車ヲ特ニ該線路中ニ備ヘ置クコトヲ得然シテ其郵便物車ノ内部ノ構造ヲ除クノ外其修繕保管及ヒ運轉等ノ費用ハ總テ會社ノ負擔タルモノトス

露國政府ハ該會社ノ收入ニ擔保ヲ與ニ爲メニ該鐵道ノ企業初メテ成功スルカ故ニ會社ノ露國政府ニ對シ負擔スヘキ前記ノ義務ハ營業期八十年ノ後露國政府無代價ニテ之ヲ買收スル時マテ(本條例第二十九條參照)効力ヲ有スルモノトス若シ本條例第三十條ニ基キ期限前ニ清國政府之ヲ買收スルトキハ上文ニ列記スル露國政府ニ對スル會社ノ義務ハ更ニ其効力ヲ輕減セスシテ鐵道ト共ニ新領主ニ移ルモノトス

前文列記ノ箇條ト共ニ清國政府ヨリ會社ニ附與セラレタル左記ノ權利ハ營業期八十年

間ハ素ヨリ其効力ヲ有スルモノトス

- (イ) 露線ノ甲汽車驛ヨリ清國東部鐵道ヲ通過シ露線ノ乙汽車驛マテ傳送スル乘客ノ荷物及諸貨物ハ清國ノ關稅其他清國內地ノ通過諸稅ヲ一切免カル、モノトス
  - (ロ) 清國東部鐵道ヲ通過スル乘客貨物ノ運賃及ヒ電信ハ總テ清國ノ諸稅ヲ免カル、モノトス
  - (ハ) 清國東部鐵道ニ由リ露國ヨリ清國ニ輸入シ又清國ヨリ露國ニ輸送スル貨物ハ清國ニテ徵收スル海關稅ノ三分一ニ相當スル輸出稅ヲ支拂フモノトス
  - (ニ) 該鐵道ニ由リ清國內地ニ轉送スル貨物ハ從來清國ニ於テ徵收セル輸入稅ノ半額ニ相當スルモノヲ初メ内地通過稅トシテ徵收セラレ然ル後ハ其貨物ニ就テハ更ニ他ノ附加稅ヲ課セラル、コトナシ然レトモ右貨物ニシテ初メ内地通過稅ヲ納メサルトキハ内地ニ於テ陸路關稅及ヒ厘稅等ヲ課セラル、モノトス
- 露國輸入稅免除ノ特典

第四條 鐵道用諸材料ノ購求地ニ關シテハ別ニ制限ナク會社ハ何レノ邦國ヨリモ之ヲ購入スルコトヲ得若シ外國ニ於テ之ヲ購求シ露國內地ヲ通過シテ之ヲ本國ニ輸入スルトキハ該材料ハ總テ露國ノ輸入稅ヲ免カル、モノトス



鐵道技術上ノ條件及ヒ起工竣工期限

第五條 鐵道條軌ノ幅ハ其接續スル露國線路ノ條軌ニ準シ五呎タラサル可ラス  
會社ハ運クモ一八九七年八月十六日ヨリ布設工事ニ着手シ全線ノ方向確定シ且ツ布設  
用地會社ニ讓與濟ノ時ヨリ六ケ年内ニ竣工セサル可ラス  
線路劃定ノトキハ墳墓、市街及村落等所在ノ地ハ可成避クルコトヲ要ス

本條例第一條ニ掲記スルカ如ク露清境上ニ於テ清國東部鐵道ヲ露國サバイカール線  
及ヒ南部烏蘇里線ト接續スルトキハ會社ハ虛費ヲ避クルカ爲メ境上ニ於テ特ニ汽車驛  
ヲ築設セス接續點ニ築設セル露國ノ汽車驛ヲ利用スルノ權ヲ有ス是レニ關スル條件ハ  
會社事務所ト露國ノ鐵道支局ト協議ヲ以テ確定スルモノトス

運賃

第六條 乘客及ヒ貨物ノ運賃其他附加運賃ハ第三條ニ掲記スル範圍内ニ於テ會社之ヲ規  
定ス可シ

鐵道ニ於ケル裁判法及ヒ運搬規則ノ編成

第七條 清國東部鐵道線路區内ニ於テ生發スル犯罪訴訟其他總テ違犯事件ハ現行ノ露清  
協定裁判條約ニ基キ其地方ノ露清官吏之ヲ判決スルモノトス

乘客及ヒ貨物ノ運搬及ヒ其責任ニ關スル規則、犯罪ニ依リ裁判ニ附ス可キ事項、出訴  
期、鐵道規則違犯ニ依リ科料ヲ徵收スル規則其他鐵道ノ公衆ニ對スル諸規則ハ露國鐵  
道ニ於ケル現行規則ニ準シ會社ニ於テ編成シ運輸開始マテニ制定スルモノトス

鐵道線路ノ治安及ヒ警戒規則

第八條 清國政府ハ該鐵道線路ノ治安及ヒ線路ノ諸勤務ニ從事スル吏員ヲ保護シ總テ外  
部ヨリノ襲撃ヲ防禦スヘキ諸方法ヲ採用セサル可ラス  
鐵道布設ノ爲メ引渡サレタル地方ノ安寧秩序並ニ其他附屬物ノ保護ハ總テ會社ヨリ出  
張ノ警察官之ヲ擔任スルモノトス之レカ爲メ會社ハ鐵道附警察官規則ヲ編成規定ス可  
シ

會社ノ基本資金

第九條 會社基本資金ノ總額ハ工事實測ニ基キタル精算書ニ依テ算出セル工費豫算額ニ  
就テ定ムルモノトス然シテ其基本資金總額中ニ算入スヘキ諸費目ハ左ノ如シ

- (一) 鐵道布設工事中基本資金ニ係ル利子及ヒ消却支拂ニ要スル諸費
- (二) 線路實測ノ爲メ滿州ニ派遣セル露國鐵道技士ノ線路實測成績ヲ露國政府ヨリ讓  
リ受ケル爲メニ要スル費額但シ該實測成績讓リ受ケノ爲メ支拂フ可キ金額ハ會社ト



露國大藏大臣ト協議ノ上確定スルモノトス  
會社ノ資金ハ株金ト社債トヲ以テ成立スルモノトス

株式資本

第十條 會社ノ株式資本ハ五百萬留ニシテ額面一株五千留ノモノヲ一千株トス  
株券ハ額面ノ價格ニテ發行スルモノトス  
該株券ニ對シテ露國政府ハ擔保ノ責ニ任セス

社債資本並ニ社債ニ對スル露國政府ノ擔保

第十一條 會社ハ株式資本ノ外社債ヲ募リテ資本トス社債ハ必要ノ都度露國大藏大臣ノ  
特許ヲ經由シテ募集スルモノトス其券面總額、時々發行ノ債券ニ對スル準備金、發行  
ノ時期、條項及ヒ債券ノ形式等ハ露國大藏大臣之ヲ認定スルモノトス  
社債ニ係ル收入及ヒ償還ニ就テハ露國政府擔保ノ責ヲ負フ  
會社社債ヲ募ルニハ露清銀行ニ申込ム可シ露國政府ハ會社ト露清銀行トノ協定價額ニ  
依リ社債ヲ引受ケ且ツ右約定金額ヲ現金ニテ會社ニ拂ヒ渡スノ權利ヲ有ス

社債資本拂込ミ金員ノ保護

第十二條 會社ハ露國政府ノ擔保セル社債ニ對スル金員拂込ミ額ニ應シ其金員若クハ露

國大藏大臣ノ認可ヲ經由シ其債券ニテ他ヨリ受ケ込ミタル所ノ利子附證券ハ露國大藏  
大臣ノ特別ノ監督ノ下ニ保管スルヲ要ス

會社ハ前記收入金額中ヨリ左記ノ支出ヲ爲スコトヲ得

- (イ) 工事ノ進行並ニ諸材料準備ノ度合ニ應シ及ヒ之レニ隨伴スル諸出費ヲ要スルニ  
隨ヒ支拂豫算書ニ掲載セル金額及ヒ費目ニ基キテ支出ヲ爲スコシ
- (ニ) 鐵道工事中會社募集ノ社債ニ就キ其約定ニ基キ每期支拂フヘキ利子ノ額ハ其  
社債ノ元金受ケ込ミ額ノ範圍内ニテ利子ヲ支拂フ可シ

株券

第十三條 株金第一拂込ミノトキハ會社創立員ハ假證書ヲ渡シ置ク可シ會社成立後本社  
事務所ハ之レニ次回ヨリノ拂込ミノ件ヲ記入スルモノトス

株金全額拂込ミ了リタルトキハ株券發行ノ條款ニ基キ創立員ヨリ交付シタル假領書  
ハ株券ト引換ユルモノトス

株券ニハ本社事務所理事三名以上記名シテ株主ニ交付ス然シテ該株券ニハ配當金領證  
用紙トシテ引割リ切手ヲ附ス但シ右引割リ切手使用期經過シタルトキハ更ニ之ヲ交付  
スルモノトス



純益中ヨリ株主ニ配當金ヲ爲スコトヲ得ル年ハ株主總會ニ於テ其年ノ決算ヲ認定シタル後本社事務所又ハ總會示定ノ場物ニ於テ株主ニ配當ヲ爲ス可シ  
配當金額及ヒ其期日ハ株主總會ノ指定ヲ以テ露國官報、露國大藏省官報及ヒ清國新聞其他ノ新紙等ニテ廣告スルモノトス

準備資金

第十四條 準備資金ハ左ノ費目ニ充ツ

(一) 鐵道線路及ヒ其築造物並ニ附屬物ノ大修繕

(二) 線路及ヒ其附屬物ノ修繕ニ係ル臨時費

準備資金ハ鐵道運輸營業上取得スル純益中ヨリ毎年積立ツルモノトス (第十七條參照)

準備資金ハ露國政府ノ利子附證券若クハ露國政府ノ擔保セル鐵道公債券トシテ保管シ置クコトヲ要ス

該會社ノ鐵道領有期經過シタル後ハ準備資金ハ第一若ニ社債及ヒ露國政府ニ對スル負債ノ償還ニ充テ然ル後若シ剩餘ヲ生シタルハ株主中ニ配當スヘシ又清國政府鐵道ヲ買收スルキハ準備資金ハ株主ノ所有ニ屬スルモノトス

純益金

第十五條 鐵道營業上ノ收入總額ヨリ諸經費ヲ引キ去リタル剩餘額ヲ純益金トス然シテ

右經費費目ハ左ノ如シ

(イ) 鐵道勤務諸員ノ爲メ扶助金及ヒ養老金貯金庫ヲ線路中ニ設立スルニ方テ之レニ線込ム可キ費額

(ロ) 本社事務所、鐵道事務支部附其他諸勤務ノ役員、職工、工夫及ヒ定員外ノ役員工夫等ニ支給スル諸費

(ハ) 鐵道用諸材料物品購入費及ヒ諸築設物運搬器械其他ノ物品借用ノ報酬費

(ニ) 線路、技術的構造物、建物、運搬器械及ヒ鐵道附屬物ノ維持、修繕及ヒ改造等ニ要スル諸費

(ホ) 運輸上ノ安寧及ヒ正確ヲ保ツ爲メ會社ニ於テ制定セル諸規則等ヲ實行スルニ必要ノ施設ニ關スル雜費

(ヘ) 線路ノ改良及ヒ増築並ニ其運轉實力ノ擴張ニ關シ必要ナル雜費

露國政府ヨリ下附スル追給補助金及ヒ之レニ關シ毎年會社ト露國政府

トノ間ニ於テ執行スル計算法



第十六條 若シ鐵道ノ收入總高ニシテ營業上ニ要スル經費及ヒ毎年社債ニ係ル支出ヲ爲スニ不足ヲ生スルトキハ會社ハ露國大藏大臣ヲ經由シ其不足額ノ補給ヲ露國政府ニ請願スルコトヲ得此時ニ於テ露國政府ハ年六朱ノ利子ニテ追給補助金ヲ會社ニ前渡ス可シ斯ノ如ク會社ノ請願ニ依リ餘分ニ會社ニ下附シタル金額ハ擔保社債ノ次回拂込ノトキニ引キ去ラル、モノトス

會社事務所ハ所主總會ニ於テ毎年鐵道營業上ノ收支決算報告ヲ爲ストキ會社ヨリ露國政府ニ償還ス可キ社債及ヒ其利子ノ總額報告ヲ爲ス可シ總會ニ於テ該報告ヲ認定シタル後事務所ハ社債及ヒ其利子還納契約書ヲ露國政府ニ差出ス可シ該契約書ハ次回新契約書ト交換スルマテ利子ハ年六朱ニテ計算スルモノトス  
右契約書ヲ露國政府ニ差出ストキハ別ニ税金ヲ附スルコトナシ

純益金ノ配定

第十七條 鐵道營業上ノ純益中ヨリ株主總會ニテ其十分一ヲ準備資金ニ繰込ミ(第十四條參照)其殘額中ヨリ社債償還及ヒ利子支拂ニ廻シ又剩餘額中ヨリ其都度株主總會ヲ開キ配當額ヲ定メ株主ニ配當スルモノトス尙又剩餘ヲ生シタルトキハ再ヒ社債ノ償還ニ充ツルモノトス然シテ社債全額完済ノ後ニ於テハ毎年右剩餘額ハ株主配當金ノ増額

ニ廻スモノトス

會社事務所

第十八條 鐵道布設工事及ヒ營業上ニ係ル事務並ニ帳簿及ヒ會計等ノ諸事務ハ總會社事務所之ヲ擔任ス可シ

會社事務所ハ即チ會社ノ代表者ナルカ故ニ露清銀行ト清國政府ト締結セル條約並ニ本條例及ヒ總會ノ規定ニテ會社ニ附與セラレタル所ノ權限内ニテ執行スル事務所ノ行爲ハ會社一般其實ヲ負ハサルヘカラス

會社事務所ハ會社ヨリ全權ヲ委任セラレタルカ故ニ事務所ハ特ニ委任狀ナクシテ事務ヲ執行シ且ツ社務代理者ヲ選定シ普通ノ規則ニ基キ之レニ委任狀ヲ交付スルコトヲ得

會社事務所ハ北京及ヒ聖彼得堡府ニ設置スルモノトス

會社事務所ノ會議ハ北京ニ於テモ又ハ聖彼得堡府ニ於テモ開會スルコトヲ得  
事務所ハ固有ノ印章ヲ具ス

會社事務所ノ組織

第十九條 會社事務所ハ社長一名理事九名トス社長ハ清國政府之ヲ命定シ理事ハ株主總



會ニテ選定シ副社長ハ理事中ヨリ互選ニテ之ヲ定ム  
社長ノ責務ハ會社ヲシテ清國政府ニ對スル義務ヲ正確ニ盡シムルコトヲ監督スルニ  
在リ然シテ會社事務所ハ社務上ニ關シテハ社長ヲ以テ清國政府及ヒ清國ノ中央及ヒ地  
方諸官署ト交渉スルコトヲ得ヘシ

會社直接ノ事務ハ總テ副社長之ヲ主宰ス

會社成立後當初五ケ年間ハ理事九名ノ内毎年抽籤若クハ双方ノ同意ニ依リ二名宛退職  
ス五ケ年後ハ在職年數ノ久シキ者ヨリ始メ同方法ニテ毎年二名宛退職スルモノト  
ス然シテ毎年其理事補欠ハ總會ニテ選定任命スルモノトス

社長及ヒ理事ノ報酬金額ハ株主總會ニテ之ヲ確定ス株主總會ニテ選定シタル理事ノ職  
務ハ總會ノ議決ニ依リ勤務期限内ト雖モ之ヲ停止スルコトアルヘシ

會社事務所處務ノ順序

第二十條 本社事務所會議ハ必要ノ都度社長若クハ副社長ヨリ通知ヲ以テ開會ス議事ヲ  
採決スルニハ社長若クハ副社長及ヒ理事共五名以上出席スルカ又ハ郵書若クハ電信ニ  
テ意見ヲ提出セザレハ採決スルヲ得ス然シテ議決ハ多數決ヲ以テスルモノトス  
會社ノ資金ヲ保管スル銀行其他會社資金保管者ニ對スル金員請求書又ハ公債證書受授

書及ヒ會社拂込ノ金員(通常ノ收入金ハ此限ニアラス)ニ對スル證書等ニハ必ス理事三  
名以上記名セザル可カラス又事務所會計ヨリ經費支拂上現金ヲ支出スルニハ其會計主  
任理事ノ記名シタル支拂命令書ニ依リ一定ノ規則ニ基キ支出スルモノトス  
會社ノ會計帳簿ハ毎年陽曆十二月三十一日ヲ以テ終結スルモノトス

株主總會及ヒ總會ニ附ス可キ事項

第二十一條 株主總會ハ通常會及ヒ臨時會ノ二種トス

通常會ハ事務所ヨリ提出スル會計年度決算及ヒ收支平均精算ヲ確定スル爲メ及ヒ理事  
補缺選舉ノ爲メ毎年開會スルモノトス

前記通常事項ノ外總テ株主總會ノ審議ニ附スヘキ問題ハ該會議ニ提出ス可シ

臨時總會ハ必要ノ都度召集スルモノトス

總會ノ審議ニ附ス可キ事項ハ總テ事務所ヲ經由シテ提出ス可シ

株主通常總會ニ附ス可キ前記事項ノ外尙ホ該會ノ審議ニ附ス可キ事項ハ左ノ如シ

(イ) 鐵道ノ工事及ヒ營業上ニ係ル會社事務所ノ行爲及ヒ計畫ニシテ議決ヲ要スル  
件

(ロ) 會社事務所會計決算書ニシテ總會ノ審議及ヒ協贊ヲ要スル件



(ハ) 準備資金ノ用途ニ就キ審議及ヒ議決ヲ要スルコト  
 (ニ) 第十七條ニ掲記スル金額ヲ純益中ヨリ準備資金ニ繰込ミ及ヒ株主配當金ニ充テ  
 ルニ就キ議定ヲ要スル件並ニ鐵道線路中ニ於テ扶助金養老金貯金庫ノ設置アル時ニ  
 方テ之レニ金員積込ミノ件  
 (ホ) 理事及ヒ會計検査委員ノ選定  
 (ヘ) 會社事務所ノ維持費及ヒ會計検査委員ノ俸給額確定ノ件  
 (ト) 豫算額内ニテ會社事務所ニ年度ノ經費額、一時支拂金及ヒ臨時費ヲ支出スルコ  
 ト及ヒ事務所ニ負債募集ヲ許可スルノ件  
 (チ) 事務所ノ權限外ニ且ル事項其他ノ事項  
 總會召集ノ手續  
 第二十二條 總會ハ會社事務所ノ意見ヲ以テ北京又ハ聖彼得堡府ニ開會スヘシ但シ其旨  
 ヲ豫メ清國及ヒ清國新聞ニ廣告スヘシ  
 總會ヲ成立セルモノト認定スル條件  
 第二十三條 株金總額ノ半數以上ニ達スル株主ノ出席セル總會及ヒ該總會ニ於テ議定セ  
 ル諸規則等ハ全然成立セルモノト認定ス可シ

株主總會出席ノ件及ヒ總會ニ於ケル事項

第二十四條 總會ニ於テハ株主ノ人員ニ拘ラス毎株各一票ノ投票權ヲ有スルモノトス  
 株主ニシテ其總會ニ出席スルニハ所有ノ株券ヲ直接若クハ已ノ委任狀ヲ附シタル代理  
 者ヲ以テ總會七日前マテニ事務所ニ差出ス可シ若シ其時所有ノ株券ニシテ政府ノ銀  
 行、露清銀行或ハ其支店等ニ保管ノ爲メ預ケ置キタルトキハ右銀行及ヒ其支店ヨリ其  
 理由證明書ヲ事務所ニ差出ス可シ該證明書ニハ株券ノ番號ヲ詳記ヒサル可ラス然シテ  
 事務所ハ右株券ヲ一時保管シ置キ總會ノ後ニ其受領證ト引換ヘ差出人ニ返却スルモノ  
 トス  
 總會ニ於テ總テ問題ハ多數決ヲ以テス  
 前文ニ掲記セル總會ノ方法ニ基キ及ヒ本條例ニテ總會ニ附與セル權限ヲ以テ議決セル  
 總會ノ諸規定等ハ出席ノ有無ニ拘ラス總會ヲ株主ハ之ヲ遵守ス可キ責任ヲ有ス  
 鐵道工事ニ係ル地方事務所  
 第二十五條 鐵道布設及ヒ諸工事ニ係ル技術上直接ノ管理及ヒ指揮ハ會社事務所ヨリ之  
 ヲ鐵道技士長ニ一任スルモノトス  
 技士長ハ會社ニ對シ鐵道布設工事ノ技術上ニ係ル諸件ニ就テハ堅牢正確且ツ完全ナル



ヲ擔保スル直接ノ責任ヲ有ス

技士長、技士長代理、副技士長及ヒ監查長ハ本社事務所之ヲ任命シ其他工事係技術員ハ本社事務所又ハ技士長ノ權限ニテ之ヲ指定スルモノトス

鐵道運輸營業中工事ニ係ル地方事務所

第二十六條 鐵道ノ運輸營業及ヒ其營業中諸線路ニ係ル諸工事直接ノ管理及ヒ指揮ハ本社事務所之ヲ鐵道部長ニ一任ス鐵道部長、鐵道支部長及ヒ監查長ハ本社事務所之ヲ任命シ自他ノ營業部係諸員ハ本社事務所又ハ鐵道部長直接ニ之ヲ指定スルモノトス  
地方事務所ノ位置ハ本社事務所之ヲ選定ス

露國大藏大臣ノ認可ヲ請フ可キ事項

第二十七條 露國政府ハ清國東部鐵道會社ノ純益收入ニ擔保ヲ與ヘ之レニ依テ該鐵道ノ工事及ヒ營業ヲ督監ルルノ權利ヲ有セルカ故ニ左ニ列記スル事項ハ露國大藏大臣ノ認可ヲ請ハサル可ラス

(イ) 副社長ノ選舉

(ロ) 鐵道工事技士長、鐵道部長、鐵道支部長及技士ノ任命

(ハ) 會社検査委員ノ選舉

(ニ) 鐵道線路ノ劃定

(ホ) 線路布設工事ニ係ル技術上ノ條件、鐵道工事ノ計畫及ヒ豫算但シ以上事項ノ確定ハ技士長ニ一任スルコトナシ

線路方向ノ全計畫、線路工事ノ工費精算書、營業經費豫算、技士長、鐵道部長、工事部營業部掛長ノ權利及ヒ義務ノ範圍並ニ前記ノ役員ニ委任スル權限  
地方事務所ニ於テ線路ノ工事及ヒ營業上ニ係ル事務ノ順序

(ヘ) 第十四條ニ提記スル箇條ノ外特ニ養老及ヒ準備基本金ヲ積立テル方法

會計検査委員

第二十八條 株主總會ニテ會社ノ事務ニ關係ナキ者五名ヲ選テ會計検査委員トス  
會計検査委員ハ委員長ヲ互撰ス

當初五ヶ年間ハ委員五名ノ内抽籤若クハ相互ノ合意ニテ毎年一名宛退職シ五年以後ハ同上ノ方法ニテ在職年數ノ久シキ者ヨリ毎年一名宛退職セシム然シテ毎年其欠員補充ハ總會ニテ選舉任定スルモノトス會計検査委員ノ職務ハ左ノ如シ

(イ) 線路ノ布設及ヒ擴張ニ係ル諸工事ノ豫算並ニ工費精算書ノ検査

(ロ) 諸工事決算報告ノ検査



(ハ) 鐵道營業上ノ收支年度豫算書ノ検査  
 (ニ) 本社事務所ノ鐵道營業上ニ係ル前年度ノ收支決算報告ノ検査  
 (ホ) 鐵道ノ布設工事及ヒ營業上ニ係ル一般ノ監視  
 會社事務所ハ會計検査委員ヨリ請求アルトキハ諸帳簿其他説明書等ヲ直ニ送附セサル可カラス  
 線路ノ布設及ヒ擴張並ニ鐵道ノ運輸營業ニ係ル豫算計畫書ニ關シテハ會計検査委員ハ本社役員ト連合會議ニ於テ之ヲ審議シ多數決ヲ以テ諸問題ヲ議決スルモノトス該會議ニ於テ協賛ヲ得タル豫算計畫書ハ事務所ヲ經由シ露國大藏大臣ニ差出シ認可ヲ請フ可シ  
 會計検査委員ハ線路ノ布設及ヒ鐵道ノ運輸營業上ニ係ル經費決算書ヲ委員會ニ於テ審查シ多數決ヲ以テ之レニ委員ノ意見ヲ附ス可シ會社事務所ハ右決算書ニ検査委員ノ意見書並ニ事務所役員ノ説明書ヲ添ヘ之ヲ株主總會ノ審議ニ附ス可シ株主總會ニ於テ検査委員ノ意見ヲ能ク審查シ該決算書ヲ認定シタル後検査委員ハ検査済ノ決算書並ニ事務所ノ簿冊ニ株主總會ニテ決算書認定ノ旨ヲ登錄スルモノトス  
 検査委員ハ會計豫算書及ヒ決算書等検査ノ報酬トシテ株主總會ニテ確定セル報酬金ヲ

受ク

清國政府無代價ニテ鐵道ヲ領有スルヲ得ルノ件

第二十九條 露清銀行ト清國政府ト締結セル條約ニ基キ清國東部鐵道會社ノ鐵道領有期八十年ヲ經過スレハ清國政府ハ無代價ニテ該鐵道ト其附屬物トヲ領有スルコトヲ得

此時ニ方テ會社ノ所有ナル準備資金其他ノ基本金ハ露國政府ヨリ會社ノ收入ニ擔保(第十六條参照)ヲ與ヘ下附シタル追給補助金ニ對スル社債其ノ他ノ社債消却ニ充テ其剩餘額ハ株主ニ配當ス可シ

會社鐵道領有期經過ノ後會テ露國政府ヨリ下附セラレタル追給補助金ノ社債ヲ完済シ能ハサルトキハ露國政府ノ損失トシテ其社債未済ノ分ハ自カラ消滅スルモノトシ露清銀行ハ毫モ之ニ關シ責任ヲ負ハサルモノトス

清國政府ハ鐵道運輸開始後三十六年ヲ經過セハ該鐵道ヲ買收スルノ權利ヲ有ス

第三十條 露清銀行ト清國政府ト締結セル條約ニ基キ鐵道全線竣工シ運輸開始ノ時ヨリ三十六年經過ノ後清國政府ハ從來會社ノ消費シタル資金ト營業上必要ノ爲メ募集シタル負債及ヒ其利子トヲ會社ニ償却スルニ於テハ該鐵道ヲ買收スルコトヲ得可シ



但シ社債ニテ募集シタル資金額中抽籤法ニテ消却シタル部分並ニ純益中ヨリ支拂ヒタル露國政府ノ擔保ニ係ル負債ノ一部ハ右買收價額内ニ入ラサルモノトス如何ナル場合ニ於テモ清國政府ハ相當ノ買收金額ヲ露國政府ノ銀行ニ完納セサレハ鐵道ヲ領有スルコトヲ得ス

清國政府ヨリ納付セル買收金額中ヨリ會社債券ノ負債其他露國政府ヘノ負債及ヒ其利子ヲ消却シ剩餘アレハ之ヲ株主ノ所有ニ算入スルモノトス

本年二月十六日ニ至リ會社ニ創立ノ典ヲ舉ゲ次デ株主第一回ノ總會ヲ開キ左ノ諸氏ヲ理事及検査委員ニ選定セリ

理事

露清銀行頭取

- エ、エ、ウフトームスキーフリス
- ア、ユー、ロツシテイン(國債銀行ノ頭取ナリト云フ)
- エス、イ、ケルベズツ
- デ、デ、ボコチーロウ(「デジテノウゴロツ」博覽館ノ建築技師ナリト云フ)
- エ、ケ、チグレル

大藏大臣官房長

検査委員

- ベ、エム、ロマーノウ
- ア、エン、ラチコウ、ロジノウ
- ウエ、ゲ、ミハレーウスキー
- ウエ、エム、チステヤコーウ

技術部

鐵道布設工事技師長

全 副技師長

全 技師兼書記官

エム、エム、ヒーウコウ

ア、オー、エゴーウ # チユ

イグナチウス

而ルニ會社條例第十九條ニ理事定員九名検査委員五名トアルヲ見レハ他ハ未ダ欠員ナルカ或ハ清國人之レニ當レルカ詳ナラスト雖モ露國參事院議官ケルボス副社長ニ命セラレタリトノ報道ヨリシテ推セハ他モ亦皆露國人ナルベクカ而シテ清國政府ハ駐露公使許景澄ノ職ヲ免シ鐵道會社々長トナシ依然露都ニ滞在シテ事務ヲ處理スヘキヲ命セリ

註副社長ハ理事中ヨリ互選ヲ以テ之レヲ定ム

現況 本局ヲ聖比得堡ニ置キ百般ノ庶務ヲ理辨シ又支局ヲ北京ニ設ケンカ爲メ駐清露



公使ハ會同四譯館ヲ借用セシコトヲ總理衙門ニ請ヒ全衙門ハ禮部ニ照會シ奏聞ノ後交付  
 センコトヲ許シ工作本局ハ齊々哈爾附近ニ建設シ滿州境域内ノ全線約一千四百二十五露  
 里ヲ十五工事區々別チ現今多數ノ技師工夫ハ線路ノ實測ニ從事シ既ニ畧測ヲ了リ東端  
 尼古利斯克村線接續點ヨリ初メ第一區ノ工事長ハ鐵道技師ヒールウコウ侯之レヲ擔當シ第  
 二區ノ工事長ハ會テ烏蘇里鐵道工事ニ就キ浦塩斯德地方ニ於テ汎ク其名ヲ知ラレタル夫  
 ノ鐵道技師ア、ニア、キパリソウ之レニ命セラルベク技師長エゴウキチユハ滿五ヶ年ヲ  
 期シテ全線ヲ竣工センコトヲ契約シ本年八月二十八日工ヲ起セリ工費總額豫算一億五千  
 萬留ト云フ

滿州地方ハ馬賊横行シ屢々掠奪ヲ行フヲ以テ露國政府ハ別ニ鐵道工事保護且援助トシテ  
 本年早春ノウキエウスク宿營<sup>ボソエツト港ヨリ俄少ノ内海ヲ隔テ</sup>ヨリ東部西伯利亞狙擊第  
 七、第九及第十大隊中ノ其大隊ヲラデソサヨリ一分遣隊ヲ派遣セリ猶又本年八月十一日  
 ノ報告ニ據レハ七月廿一日ボウタフスカヤ驛守備東部西伯利亞狙擊第四大隊ノ一分ニ大佐  
 サウウキチ氏總指揮官トシテ進發ノ命ヲ傳ヘタリ(東部西伯利亞狙擊第四大隊ノ内六ヶ小  
 隊東部西伯利亞第一砲兵旅團ノ第五山砲兵大隊及第一後員加爾コサック兵六百)或ル  
 信據スヘキモノ、報導ニヨレハボウタフスカヤ驛ニ於ケル軍隊進發當時ノ模様ハ人心恟

々今ニモ不穩ノコト起ラントスルカ如キ有様ニテ往々支那人ヨリ匿名ノ投書ヲ奇セ陰ニ  
 鐵道隊ヲ威嚇スルノ狀ヲ示セリト右等ノ多ク紅鬚奴(小賊ノ謂)ノ所業ナレトモ極絶文明  
 ヲ族視スル守舊蠻民ノ之レニ投スルモノ尠カラス其數凡ソ一千人位ナリキト云フ  
 ソレ斯ノ如ク清國東部鐵道ハ株式ノ組織ニシテ露清臣民タルモノ齊シク株主タルノ  
 權利ヲ有スルモ實權ハ全ク露人否露國政府ノ掌裡ニ存シ社長許景澄ノ如キハ徒ニ虛位ヲ  
 權スルニ過ス又露國新聞ノ報スル如ク會社ノ任務ハ單ニ鐵道事業ノミニ止ラス滿州地方  
 ノ開拓ヲナシ松花江岸線路橫斷ノ地ヲトシ人口五方ニ達スル純然タル露國人ノ府市ヲ開  
 基シ及正教ノ寺院ヲ建立セントストセバ露國ハ業ニ明ニ滿洲地方占領ノ基礎ヲ固フセ  
 ルノミナラス一千八百九十一年ニ計畫セル西伯利亞線ヨリハ猶一層ノ廉價ト一層ノ短程ト  
 ヲ以テ太平洋岸ニ出ルヲ得タリト謂ツベキノミ縱ヒ清國ハ運輸開始ノ後三十六年ヲ經過  
 セハ該鐵道ヲ買收スルヲ得又八十年ノ後ハ無代價ヲ以テ領有スルノ約アリト雖トモ少ナ  
 クモ半世紀間ハ現時負フ處ノ鉅億ノ外債ヲ償還スルニ障礙タラサルヘカラザル清國ニシ  
 テ何ニ因テ買收費ヲ支出セントスルカ況ンヤ八十年ノ後ニ於テハ吾人ノ子孫果シテ尙  
 愛親覺羅氏ノ帝國ヲ地球ノ上ニ發見スルヲ得ルヤ否ヤ

○河運



沿海州ハ河流ニ富ミ縱横ニ貫通スト雖トモ東南日本海ニ朝スル處ノ諸川ハ綏芬河ノ外皆源ヲシホトノ峻嶺ニ發シ河床ノ傾斜急峻ニシテ奔湍激流ヲナシ航行ニ適セス水層深大流勢緩慢ニシテ百貨ヲ滿載セル大船巨舶ノ遠ク上流ニ溯航スルヲ得ルハ獨リ黑龍江系統ノ諸川ノ

黑龍江 通常黑龍江ト稱スルハ初メシルカアルグニノ二川相會合シテ一トナリアルハシンブラゲーエチンスク及ヒハバロフカノ諸市ヲ過キ北向遂ニ韃靼海峽ニ注ク處ノ幹流ニシテ中途之レニ合スル處ノモノハ各名稱ヲ異ニス即チ松花江鳥蘇里等ノ如キ之レナリ夏期五ヶ月ノ間汽船ノ往復頻繁ナルハ黑龍鳥蘇里ノ兩江ニシテ尼古來夫斯克ヨリハバロソカニ至リ黑龍江ヲ溯ルモノハ上流ストレエチンスクニ及ヒ鳥蘇江ニ入ルモノハイイマ驛ヲ過キスンガチャヲ經テ興凱湖ニ達ス現今此等ノ航路ニ從事セルハ新舊ノ兩黑龍江汽船會社ノ船舶ニシテ左ニ其隻數ヲ掲ク

- 三十馬力ノモノ 三隻
- 四十馬力ノモノ 三隻
- 六十馬力以上八十馬力以下ノモノ 五隻

舊黑龍會社所有ノ分

百馬力以上二百二十馬力以下ノモノ 九隻

他ニ荷物船 二十五隻

新黑龍會社所有ノ分

二百馬力以上五百馬力以下ノモノ 八隻

皆外輪船ニシテ吃水五呎ニ滿タス大ナルモノニシテ人員百名餘貨物六千「布度」餘ヲ積載スルコトヲ得ルノミ之レ水量淺薄ナル上流ニ溯ルト流沙堆積シテ淺渚ヲ生スルコトアルモ進行ニ障害ナカラシメシカ爲メニシテ黑龍江下流ニ至レハ怒濤澎湃海洋ニ異ナラス千八百八十六年露國軍艦「ゴルノスタイ」(排水量四五六噸)海軍大臣ノ命ヲ受ケ探險ノ爲メ尼古來夫斯克ヲ發シ安全ニ松花江口マテ進行シ該江ノ小形軍艦通過ニ適スルコトヲ證明シ有司ヲシテ掌ヲ拍テ喜悅セシメタリ

兩會社ノ組織營業規則其他各埠頭發着表ノ如キハ載セテ本年五月本課編纂ノ露國東洋海運要覽ニ詳ナルヲ以テ今復茲ニ略足ノ辨ヲ加ヘス

滿州鐵道ノ計畫新タニ成リ黑龍江北岸線ノ布設ヲ廢止セハ從來ハバロフカストレエチンスク間ノ交通ハ單ニ兩汽船會社汽船ノ往復ヲ以テ滿足スヘカラサルカ故ニ露國政府ハ近來速力輕快ナル艦外輪淺底船ノ建造ヲ英國「ヤロ」會社ニ依托セリト云フ



松花江 結氷融解以後ニ於テハ貨財五穀ヲ積載セル支那風帆船江流ヲ上下シ吉林、齊々哈爾、伯都訥三姓呼蘭諸城ノ埠頭ハ桅檣林立ノ觀ヲ呈スルモ河通全ク清國疆域内ニ屬シ汽船ノ定期航行ヲナスモノナク一千八百七十一年露國汽船初メテ江ヲ溯テ吉林城外ニ到達シ千八百七十八年「アンドリー」號ハ伯都訥ニ至リシカ清人ノ暴行ニ逢ヒ爾來再ヒ之レヲ試ムルモノナシ降テ千八百九十五年黑龍江汽船會社所屬船「テレグラフ」號ハ貨物ヲ搭載セル舟ヲ挽キ行々兩岸ノ各地ニ寄泊シ遂ニ伯都訥ニ至リ頗ル好結果ヲ得テ歸リ以テ此航路ノ安全ニシテ利益アルヲ示シ近時莫斯科ノ某製造家ハ滿州鐵道ニ要スル材料運輸ノ目的ヲ以テ汽船十五隻大端艇四十隻ノ製造ヲ計畫シ且ツ本年二月露國政府ハ松花江航業獎勵法ヲ（一）ケ年三五、〇〇〇留ヲ發布シ東清鐵道會社ハ河口ヨリズブーネマテ河床ノ淺濶ニ着手セントスト云ヘハ多數ノ汽船カ江上ニ浮フヲ見ルハ今ヨリ一二年ヲ出テサルヘシ

航業獎勵法、私有汽船ニシテ哈巴羅夫加ヲ起點トシ松花江ヲ逆リ伯都訥府ニ航行往復スルモノニハ一隻ニ付露貨八八留吉林府マテ航行往復スルモノニハ一隻ニ付キ二八八一留齊々哈爾府マテ航行往復スルモノニハ一隻ニ付キ三一六一留トス但汽船ハ堅牢ニシテ起業者ハ確實ナル者ニ限り補助ヲ與ヘ派遣官吏及郵便物ハ無料運搬ノ責任ヲ有ス

豆滿江 穗城以西ハ河身狹小ニシテ水量寡ク小舟ヲ浮フルニ過キス

慶源以東ニ至ルニ迨ヒ漸ク膨大シ幅往々三千六百呎ヲ超ユト雖トモ洲渚甚布星散シ河底ハ砂礫ニシテ水勢ニ從ヒ常ニ狀態ヲ變シ深度齊一ナル能ハス二十四呎ノ深淵ヲナス處アリ或ハ裝ヲ塞ケテ沙ルヘキ處アリ只平底ナル韓船ノ能ク通航スルアルノミ從來未タ汽船ノ進入セルモノアルヲ聞カス八代大尉韓紀行ニ謂ヘルアリ千八百九十四年露國汽船一隻航行ヲ試ミントシ流沙ノ渦中ニ陥リ遂ニ志ヲ果サスシテ去レリ船誤テ地ニ膠スレハ流沙忽チ之レヲ埋メ遂ニ顛覆ヲ免カレヌ危險太甚シト

以上諸江流ノ水路ニ關シテハ第二卷ニ詳記ス

附記 綏芬河、河身小ナリト雖トモ軍事上較ヤ注意スヘキヲ綏芬河トス河ハ源ヲ清國トノ境域ニ發シ烏蘇里州ノ狹部ヲ橫貫シテ黑龍灣ニ入ル下流ニ於テハ河幅千呎乃至二千呎深サ三呎乃至十呎ニシテ夏季ハ水量増加シ爲メニ上流數里ニ舟船ヲ行ルヘキ淺底ノ小汽艇ハ能クラズドリヌイニ達スルコトヲ得ヘシ鐵道布設以前ニアツテハ内地交通ノ要樞ニシテニユリスクラズドリヌイ其他許多ノ屯田兵村ハ其地岸ニ羅列ス

○海運

海運ノ事ヲ記スルニ當テハ先ツ沿海州ノ南端ニ位シテ寒威最モ弱ク亞露唯一ノ良港ニシテ



且ツ軍港タル浦鹽斯德凍結ノ狀況ヲ説カサルヘカラス  
 結氷時期ハ毎年多少ノ遲速アレトモ十二月下旬ヨリ結氷シ翌年四月上旬融解スルヲ常トス  
 初メ港澳ノ海岸少シク凍リ漸次周圍ノ岸邊ニ及ホシ途ニ東ハ東部ボスフオール海峡ノ入口  
 スクレブレールウ島附近ヨリ西ハ海峡ヲ出テトカレイウスキー岬以テ北黒龍灣ニ至ルノ全海面  
 フ閉鎖シ厚サ約二尺五寸乃至一尺五寸ニシテ船舶ノ出入一時之レカ爲メニ絶ユ而ルニ近年  
 碎氷汽船「シラーチ」號ハ碎氷ニ從事シ爲メニ大ニ閉鎖時期ヲ短縮スルヲ得タリ該船ハ港内  
 薄氷ヲ結ハントスル頃ヨリ絶ヘス港ノ内外ヲ往復シ堅氷凍結スルニ隨テ倍々往復ヲ繁ク  
 シ終ニ氷中ニ一條ノ通路ヲ開鑿シ毎日之レニヨツテ航行シ再々ヒ凍結閉鎖セサラシム然  
 レトモ酷寒ノ候ニハ翌日ニ至レハ通路新ニ凍合ヲ免レス素ヨリ薄氷ニ過キササルモ如何セン  
 港内ノ干満差僅カニ一尺ニシテ破碎セラレタル氷塊ハ港外ニ流出セス常ニ通路内ニ溜溜漂  
 浮シ碎氷船ノ事業ニ大障害ヲナスノミナラス更ニ凍令ノ媒介トナル、一千八百九十四年一  
 月二十六日碎氷ノ實況ヲ目撃スルニ「シラーチ」號ハ港外ヨリ義勇艦隊埠頭マテ狹長ナル一  
 條ノ通路ヲ開キ同所ニ碇泊セル義勇艦隊汽船「カストロマー」號ノ傍ニ至レリ「カストロマ  
 ー」號ハ直ニ汽機ノ運轉ヲ始メシカ通路ノ狹隘ナリシト通路内ニ充塞セル氷塊ノ爲メニ妨  
 ケラレ單ニ汽力ノミニテハ前進スルヲ得ス因テ網案ヲ船首ニ繫キ陸兵三百許ヲシテ之レヲ

曳カシメ僅カニ二十丁ニ過キササルノ通路ヲ進行スルニ大約十時間ヲ費シ初メテ港外ニ出ツ  
 ルヲ得タリ其後港奥ニ碇泊セシ砲艦「マンジュール」號ヲ出港セシムルニハ初メ火藥ヲ以テ  
 堅氷ヲ破壊シ「シラーチ」號少シク前進シ又火藥ヲ以テ破碎シ其跡ヲ進ミ漸次斯ノ如クシテ  
 遂ニ一條ノ通路ヲ開キ「マンジュール」號ニ近ツケリ「マンジュール」號ハ直ニ汽機ノ運轉ヲ  
 ナシ進行ヲ試シシモ氷塊ノ充塞ニ阻メラレ前進スルヲ得ス於是再ヒ陸兵ヲ勞シ非常ノ困難  
 ヲ嘗メ僅カニ出港セリ斯ノ如ク碎氷船ノ力ニヨリ結氷ヲ破リ航路ヲ開クハ頗ル難事ニ屬ス  
 ト雖トモ大ニ閉鎖ノ時期ヲ短縮シ實際全ク汽船ノ出入ヲ絶ツハ一月初旬ヨリ二月初旬マテ  
 ノ約一ヶ月間ニ過キス僅カニ七百三十八噸ナル「シラーチ」一隻ノ功ハ一千八百九十五年十  
 二月三日ヨリ昨年四月三日ニ至ル寒威酷烈ナル冬期中ニ汽船ヲ入港セシメタルコト實ニ三  
 十三隻ノ多キニ及ヘリ本年六月二日一層強力ナル碎氷船「ナデーシツイ」ハ號(長百八十呎  
 幅四十二呎六吋吃水前部十四呎後部十九呎排水量千五百「トン」實馬力四千速力十一海里半  
 ニシテ厚サ二呎ノ堅氷ヲ破碎シ得ルト云フ)新ニ歐露ヨリ來着シ猶同形ノ「アクチーブ」號  
 將ニ廻航シ來ラントスト謂ヘハ本年以後浦鹽斯德ハ周歲閉鎖セラル、コトナカルヘシ然レ  
 トモ縦ヒ幾多強力ナル碎氷船ヲ以テスルモ到底全海ヲ開放シ得ヘキニアラス平時商船ノ出  
 入ハ敢テ大不便ヲ感スルナキモ戰時ノ危急ニ臨ミ果シテ艦隊ヲシテ隨時自由ニ出入セシム



ルヲ得ヘントハ未タ遽ニ斷言スヘカラサルナリ  
 結氷融解ノ時期ニ於テ沿海州ノ港灣ニ出入スル船舶ヲ國別セハ日露英獨佛等尙二三アリ  
 ト雖トモ定期ノ航海ヲナスハ我日本郵船會社ト露義勇艦隊會社及「セウエリヨウ」會社ノ  
 汽船ニシテ其他ハ皆臨時ノ發着ヲナシ航路ノ如キモ一定セス間々尼古來夫斯克ニ至ルモノ  
 アルモ過半ハ浦鹽斯德ヲ以テ終點トナスカ如シ  
 義勇艦隊會社 露國東洋海運要覽ニ詳ナリ  
 諸私立會社 私立會社ニシテ海運事業ヲナスハ「セウエリヨウ」會社アルモ海運要覽ニ記  
 載セシヲ以テ茲ニ贅セス

(外國船舶及航路)

日本郵船株式會社 必要ナキヲ以テ之レヲ除ク  
 諸外國船 千八百九十五年中浦鹽斯德ニ出入セル外國船舶ヲ國別セハ獨逸四十八隻英吉  
 利廿八隻諾威十九隻北米合衆國四隻佛蘭西一隻ニシテ其所有主ハ會社ナルアリ一私人ナ  
 ルアリテ素ヨリ發着地點ヲ一定セス多クハ貨物ノ集積ニ應シテ東洋諸港ト浦鹽斯德ノ間  
 ヲ航海スルニ過キス九十五年中ノ如キモ總數百隻ノ船舶中歐洲ヨリ來レルハ僅カニ二十  
 七隻ニシテ而カモ其過半ハ義勇艦隊會社ノ雇船若クハ清獨等商人ノ爲メオデツサハシ

ブルグ等ヨリ商貨ヲ積載シ來レルモノナリ唯米船ノミハ概シテ桑港ヨリ來ルト雖トモ風  
 帆船ナルカ故ニ定期ヲ以テ目スヘカラス

「クンスツアリベルス」商社 本年四月二日發兌浦鹽斯德新聞ノ報スル處ニ依レハ在同  
 港「クンスツ、アリベルス」獨逸商社(露商「セウエリヨウ」會社ト肩ヲ比スルモノ)ハ今  
 回汽船運送事業ヲ始メ先ツ第一著ニ汽船「ダフチ」號ヲ以テ浦鹽斯德ト日本及清國諸港間  
 トノ定期航海ヲナサシムル計畫ニテ既ニ同號ハ上文ノ諸港間ヲ航海往復シツ、アリ該商  
 社ハ爾後漸次ニ汽船ヲ増加シ盛ニ海運事業ヲ營ムノ目的ナリト云フ而レトモ未タ其以後  
 ニ於ケル情況ノ確報ヲ得ス

此他滿洲朝鮮ト浦鹽斯德ノ運輸ニ從事スル處ノ支那船朝鮮船ニシテ大形ナルモノ五百  
 隻餘小形ナルモノ六百隻以上ノ多キニ及フ

備考

薩哈連島東海岸鄂和達斯克府堪察加半島島蘇里地方ノ沿岸並ニ其所屬ノ諸島ニ於テ外國船  
 ノ貿易並ニ漁獵ニ關スル規則

(一千八百七十一年布達)

第一條



露國ノ鄂和達斯克及沿海州ノ沿岸其他所屬諸島並ニ其海灣ニ於テ貿易及漁獵等ヲ營マン  
ト欲スル外國船ハ西伯利地方總督ノ特許又ハ免狀ヲ受クルニアラサレハ其業ヲ營ムコト  
ヲ許サス

第二條

特許又ハ免狀ヲ請ハント欲スル外國船ハ必ス浦鹽斯德ノ官廳ニ出願スヘシ

第三條

ブトルバフロースク港ハ堪察加半島ノ一港タリト雖トモ同港地方官ニ於テハ一切是等ノ  
特許又ハ免狀ヲ附與セサルモノトス

第四條

提督島並ニ羅都辨島ノ沿岸ニ於テ外國船ハ漁獵及ヒ貿易等ヲ爲スコトヲ許サス

第五條

西伯利地方總督ノ特許若クハ免狀ヲ受領セシテ露國所屬ノ海岸ニ於テ貿易並ニ漁獵等  
ニ從事スル外國船或ハ是等ノ免狀ヲ有スト雖トモ漁獵ニ關スル現行規則ニ違反スルモノ  
ハ其船及船貨共一切沒收スヘシ此規則ハ一千八百八十二年ヨリ實施スルモノトス

第六條

露國軍艦及商船ハ此規則ヲ實行セシムルノ權ヲ有ス但商船ハ兵員ヲ乗セ且特別ノ指揮ア  
ルトキニ限り其權ヲ有スルモノトス  
本年三月一日發覺シヤパンメルハ記シテ曰ク從來歐羅ヨリ東部西伯利ニ移住セル者其  
數既ニ夥多ナリト雖トモソノ大半ハ歐羅巴農業地方ヨリ來レルモノニシテ是等ノ輩ヲ促シ  
テ海上ノ業務ニ就カシムルハ到底望ムヘカラス之レ東部西伯利沿岸貿易ノ萎靡振ハサル所  
以ナリ永久斯ノ如クンハ遂ニ西伯利ノ繁榮ハ得テ期スヘカラサルヲ以テ露國ハ外人ノ隨意  
沿岸貿易ニ從事スルヲ許容センカ爲メ前條ノ禁令ヲ廢止スルノ勅令ヲ發セリ云々ト然レト  
モ未タソノ公報ニ接セス

○電信

電信線ノ連絡及電信局所在地 内地電信ノ幹線ハ浦鹽斯德ニ起リラズドリヌイニ於テ南北  
ニ派シ南スルモノハ數里ヲ距テ殆ント海岸線ニ並行シゲクケレワ(電信局ハモングガイ河  
口ノ上流五露里ニアリ)アジミヲ經ボシエツト灣岸ノウオキエウスコエニ於テ清國瑣  
春線ニ連絡ス(ゲクケレワアジミノ間ヨリ支線スラウヤンカニ到ル)北スルモノハダウビ  
ヘーノ流域ニ從ヒ烏蘇里江畔イリインスカヤカズローフスカヤウエツンユーワカザケウ  
井チユ等ヲ通過シハハロフカニ入ル此處ニ於テ再ヒ別レテ二線トナリ一ハ西シテ黑龍江ヲ



橫斷シ其北岸露清ノ境界線ニ做ヒ中央西伯利ノ各都市ヲ通シテ遙カニ首都聖比得堡ニ連  
 リ(ブラゴーチフスクニテ清國愛理ニ接続ス)一ハ黑龍江右岸トロツコエソヒツスクマリ  
 ンスクヲ過キミハイロフスマエニ到テ江涯ヲ離レ丘陵ヲ一貫シテ尼古來夫斯克ニ止マル此  
 中途ソヒツスクヨリ一支線ハデカストリー灣嶽アレキサンドロフスコエニ出テ海底電線ヲ  
 以テサハレン島アレキサンドロフスキーニ接続シズーエタライカヲ經マルサコツフニ終  
 ル此他尙一線ノ浦鹽斯德ヨリカーメンルイバロツフニ通ルアリ又内地重要ノ各兵村露清  
 境界ノ哨所ヲ聯絡スル支線渺ナカラスト雖トモ通過地點ノ未タ明確ナラサルト必要ナキヲ  
 以テ茲ニ掲ケス

電信取扱規則及電信料 經東露領ハ陸上電線ト海底電線トニ因テ露京ニ連絡シソノ陸路電  
 線ハ露政府ニ屬シ海底電線ハ「丁抹大北電信會社」ノ有ナルカ故ニ各々取扱規則電信料ヲ異  
 ニス左ニソノ概略ヲ掲ケ

露國陸線、電信ハ各郵便電信局ニテ毎日晝夜ノ別無ク何時ニテモ取扱ヒ頼信紙ハ墨汁ヲ  
 以テ明瞭ニ記載スヘク若シ文字ノ訂正或ハ添削ヲナシタルトキハ發信者ヨリ電信取扱人  
 ニ其旨ヲ告ケサルヘカラス其認メ方ハ始メニ名宛人ノ住所姓名次ニ本文終リニ發信者ノ  
 姓名ヲ記載スヘシ而ルトキハ名宛人マテハ無賃ニテ送達ス勿論私用電信ニシテ公安及風

紀ヲ害スヘキモノハ取扱ハス

時限電信ハ受取人ノ宛名ノ上ニ時限ト記載スヘシ而ルトキハ其取扱ハ發信依頼ノ順序ニ  
 依ラス直ニ發信ス

電信ニ使用スル一語ハ露國及外國語ノ別ナク十五字綴リヲ以テ一語ノ最上限トス數字ハ  
 五箇ヲ以テ一語ニ算入シ其以上ハ一字ヲ一語ニ算入シ又語ノ下ニ一線ヲ劃シタルモノハ  
 特別語ニ算入ス

電信料ハ歐露及亞露ノ二種ニ區別ス帝國內一般ニ送達用紙ニ十五哥ヲ課シ一ノ電信ニテ  
 多數ノ名宛アルモノハ別ニ名宛料トシテ十五哥ヲ徵收ス而シテ歐露内或ハ亞露内ニ於テ  
 ハ一語ニ付五哥ヲ徵收シ歐露ヨリ亞露或ハ亞露ヨリ歐露ニ亘ルモノハ一語ニ付十哥ヲ  
 徵收ス

電信ノ名宛人不在或ハ轉居シタルトキハ再配達(再)記號ヲ附シテ更ニ配達スルコトアル  
 ヘシ此場合ハ其受取人ヨリ配達料ヲ徵收スルモ若シ名宛人住所不明ニシテ發信者ニ差戻  
 ストキハ之レヲ發信者ヨリ徵收ス

丁抹海底線 直接ニ本邦長崎ニ連絡シ上海香港清國南部其他歐洲ヘハ此線ヲ經由スル  
 ヲ便トス會社事務員ハ丁抹人英人芬蘭人多ク頼信電文ハ英語ヲ以テスルノ制規ナリト雖



トモ浦鹽斯德在留本邦人ハ羅馬字ヲ以テ日本語ヲ綴リ之レニ露語ヲ附記セハ發電スルコトヲ得ヘシ

電信料ハ浦鹽斯德ヨリ東京マテ私報一語ニツキ露貨一留二十六哥ニシテ本邦ヨリ直ニ同港ニ到ルモノハ一語ニツキ一圓上海線ヲ經由セハ三圓七十九錢八厘ヲ徵收ス(同年八月二十五日官報)

其他ノ規則ハ萬國電信條約ニ遵フ

外國電信線トノ聯絡 丁抹大北電信會社海底線ニ條アリテ共ニ我長崎ヨリ出テ對馬ノ間ヲ過キ朝鮮東岸ヨリレドタリーフ島ノ東チアリコ島ノ西ヲ經テ黑龍灣ニ入リクーパー岬ノ北方ヨリ陸岸ニ上リ浦鹽斯德ニ到ル陸線ハ南方ノウオキーエウスコエヨリ延長シテ清國瑯春線ニ接続シ北方ブラゴエチンスクノ支線黑龍江ノ水底ヲ横キリ對岸ニ達シ海蘭泡線ニ連續ス而シテキャフタニ於テ北京線ト連接スヘキモノハ未タ竣工ニ至ラス左ニ露清兩國電信線接続豫定條約ヲ掲ク

第一款

清國電信線及露國電信線ハ應ニ下文ニ照シ 相互ニ接続シ以テ外國電報ノ通信ヲナスヘシ

第二款

露清兩國電信線ノ接続スルモノハ滿州瑯春地方ノ線ト露國ナホーツカ地方ノ線ヲ接続セシメニハ滿州海蘭泡地方ト露國ブラゴエチンスク地方ノ線ヲ接続スルモノトス

第三款

瑯春トナホーツカノ接続線ハ條約ノ議定ニ調印スル後直ニ之レヲ施行シ其海蘭泡及ブラゴエチンスク府ノ接続線ハ六ヶ月以内或ハ水底線ヲ布置ノ後接続スルモノトス

第四款

以上兩處ノ電信線ヲ接続セシムルノ外清國ハ條約調印セシ後五ケ年内ニ於テキヤクタニ至ル電信線ヲ架設シ露國ノ電信線ニ接続セシムルコトヲ承諾スヘシ露國ハキヤクタ線ノ未タ架設セサル前ニ於テ預メ別ニ定議シ外國電報料ヲ遞減スルコトヲ承諾スヘシ

第五款

露清兩國ノ電信局ハ各自電信線ヲ架設スルコトヲ疆界ニ止メ又各自之レヲ修理經營シ相互ニ踰越スルコトヲ得ス

第六款

電信局公報章程及發着傳遞等ノ事ヲ均シク一千八百八十五年ノ柏林ニ於テ議定シタル



萬國電信公會ノ電信章程ニ照シテ辦理シ其他一切ノ公報或ハ電信公會ノ事宜ニ關シ或ハ兩國ノ電信局豫ニ關シ兩國ノ電信局ヲ經過スルモノハ電信料ヲ要セス

第七款

露清電信線ノ電信料ハ各其疆界ヲ限リテ均シク各自ノ定ムル所ニ從テ唯條約確定ニ至ル年期内一切ノ電信料ハ議定ノ上第八款ニ明記スル數目ニヨリテ徵收スルモノトス若シ之ヲ更改セント欲セハ兩國ノ商議承諾ヲ經ヘシ又千八百八十五年伯林公會第二十二款ニ照シテ兩國ハ訂約ヲナセシモ若シ後來外國電報ノ別處ヨリ陸線或ハ海底線ヲ經テ通行スルモノハ其電信料下文ノ條款ニ定ムル所ノモノヨリ廉價ナルニ於テハ兩國ノ電信料モ亦應ニ之レニ從ヒ遞減スヘシ

第八款

第二款内ニ於テ指明スル瑠春及海蘭泡ノ兩處接續線ノ電信料價目ヲ左ニ列記ス

露清電信 往復ノ通信ニ就キ露國ニテ徵收スヘキ電信料

- 甲一 亞細亞露西亞ト清國ノ各地ニ往復スル電信料ハ每語銀一法七十三珊トス
- 甲二 歐羅巴露西亞ト清國ノ各地ニ往復スル電信料ハ每語銀二法七十三珊トス
- 乙 各通信ノ露國ヲ經過スルモノハ每語銀三法トス

露清電信線往復ノ通信ニ就キ清國ニテ徵收スヘキ電信料

- 甲一 清國各地ハ亞細亞露西亞及歐羅巴露西亞ニ往復スル通信ハ每語銀二法トス
- 甲二 清國各地ト歐洲ヲ經過シ諸國ニ往復スル通信ハ露國ノ電信料ヲ除キ每語銀五法トス
- 乙一 歐洲及歐洲ヲ經過スル諸國ト他國ニ往復スル通信ニシテ清國ヲ經過スルモノハ每語銀二法トス

以上甲乙兩項内ニ於テ清國ノ徵收スヘキ電信料ノ一法半ト明記シアル歐洲各國ノ電信料ニ清國ニテ一千八百八十五年伯林公會章程ニ照シ此五法半内ヨリ支辨スヘシ

此款ニ於テ訂定スル所ノ兩國往復ノ電信料ハ必ス真正タルヘク兩國往復ノ通信ハ此等ノ價目ニ照ラシ電信料ヲ徵收シ其清國ト歐洲諸國トノ往復通信ハ他人ヲシテ半路ヨリ收發シ或ハ半路ノ電信局ヨリ轉發シ其價ヲ減シ其利ヲ希圖スルコトヲ得ス

第九款

第二款第四款ニヨリ兩國接續線ノ電信局ハ毎日電信ヲ以テ帳簿ヲ討査シ兩國ノ電信局員ハ毎月會合シテ帳簿ヲ調查シ其銀錢ノ帳簿ハ兩國局員ヨリ毎月天津へ通信シ每翌月ノ二十一日前天津ニ於テ決算セシムヘシ各帳簿決算上ノ通信ハ均シク公報トナシ電信料ヲ要セ



ス其決算月日ハ定ムルニ西曆ヲ用ユルモノトス

第十款

電信上ノ帳目ハ行平銀數ヲ以テ決算ス每四法二十五珊ハ洋銀一弗トナシ每百弗ヲ行平銀七十兩トナス

第十一款

確定條約ハ十四年ヲ以テ期トナシ奏准互換ノ日ヲ以テ始トス本條約ハ彼此商訂スル所ノ草約ナルヲ以テ兩國大臣ノ調印セシ後各之ヲ本國政府ニ送り閱覽ニ供シ若シ准行スル能ハサル所アレハ即チ廢案タルヘシ  
千八百九十二年八月十三日北京ニ於テ駐清總公使カシーニ一伯ト李鴻章トノ間ニ於テ本條約ヲ訂結シ調印ヲ終レリ蓋シ此條約ハ千九百二十二年十二月三十一日マテ有効ニシテ現今ハ互ニ此條約ヲ遵奉セリ然レトモキヤクタ線ハ未タ竣功セス  
露清銀行理事フコチーロフハ本年四月滿州鐵道專用トシテ電線添増ノ議ヲ北京政府ニ申請セリ其大意ニ曰ク新訂滿州鐵道起工ハ本年夏期ニアリ故ニ土地買收材料運搬其他必要事務ヲ辦理センカ爲メ本局ヲ齊々哈爾附近ニ置キ聖彼得堡總局ノ指揮ヲ仰カントス然ルニ齊々哈爾海蘭泡間ハ清國所有ノ電線アルモ一條ニシテ頻繁ノ用務ヲ速達シ難キヲ以テ新ニ一線

ヲ添増シ又黑龍江水底線ヲモ増沈シ專ラ鐵道用ニ供セントス而シテ復意アルニ非スト



第八篇 供給

○軍糧品產出輸入數量ノ價格

穀類 沿海州ノ地形南北ニ長ク東西ニ短ク且ツ山岳ノ配布ツノ宜シキヲ得ナルト寒潮流ノ影響トハ益々氣象ヲシテ偏惡ナラシメ尼古來夫斯克近傍トボシエツト灣近傍ノ氣候ハ差異甚大ニシテ隨テ其地方ノ生産ヲ異ニス黒龍江ノ下流ソフキースク以北ニアツテハ十一月初旬乃至中旬ニ結氷シ初雪ハ十月中旬トス故ニ此地方ノ耕作時期ハ五ヶ月間ニシテ其一日ノ平均温度九度ヲ合算セハ一千三百七十七度ナルヲ以テ一千四百五十度ヲ要スル裸麥ハ成熟スヘカラス彼得大帝灣ノ海岸ハ之レニ反シ農業上尤モ便益ナルモノアリ此地ノ春季ハ三月ニ起リ四月ニ至レハ既ニ耕作スルヲ得ヘシ又五月ニ至レハ二十四度ノ熱度トナル而レトモ冬季ノ來ル甚タ速カニシテボシエツト灣ノ如キハ十月中旬ニ於テ既ニ氷點下ニ降り下旬ニ至レハ降雪山野ニ滿ツ故ニ耕作時期ハ六ヶ月半ニシテ此間ニ於ケル一日ノ平均温度九五度ヲ合算セハ一千五百三十五度ニシテ小麥粟等ノ穀類成熟シ且ツ蔬菜ヲ種ユルコトヲ得ヘク又興凱湖畔就中其西部モウ河岸ノ如キハ夏季ノ温度尙一層昇騰スルヲ以テ成熟ヲ速カナラシムト雖トモ雨量極メテ多ク(ハバロフカニテ五百五十「ミリ」セントオリガ灣一千〇二十四「ミリ」)濕氣過饒ナルヲ以テ農夫ハ水分ノ疎通ト空氣ノ流通トヲ計ランカ爲メ幾條



ノ高畝ヲ作リテ穀米ノ種子ヲ下サ、ルヲ得ス而ラサレハ莖根腐敗スルニ至ル此ノ如ク百方注意ヲ施スニモ拘ラス烏蘇里地方ノ一部ニアツテハ濕氣甚シキカ爲メ莖幹ニ一種ノ菌ヲ發生ス而シテ此菌毒ニ感染シタル穀物ヲ以テ製シタル麵包ヲ食スルトキハ多クハ中毒ノ徵候ヲ感ス土民ハ之ヲ形容シテ麵包人ヲ醉ハシムト云フ又洪水ト有害虫類ノ跋扈トハ常ニ著シク收穫ヲ減殺シ時トシテハ一握ノ粟ヲモ得ル能ハサルコトアリ今後移民増殖シ森林ヲ開キ沼地ヲ乾燥スルノ時ニ至ラハ穀類ノ耕作甚タ有望ナルヘシト説クモノアリト雖トモ夏期降雨多量ナルハ森林ノ採代ニ依リテ減スヘキニ非ス是レ地形ノ關係及空氣ノ流動等ノ如キ他ノ原因ノ然ラシムル處ニシテ森林ノ採代ハ管ニ雨量ヲ減セサルノミナラス反テ現時夏期ニ於ケル海水ノ害ヲシテ益々甚シキニ至ラシメ隨テ古來未曾有ノ大堤防ヲ修築スルニアラスンハ人ヲシテ乾燥事業ノ勞働ニ耐ヘサラシムルニ至ルヘシ

若シ地圖ヲ披キ沿海州ノ地勢ヲ考窮セハ容易ニ濕氣過饒洪水頻繁ナル一原由ヲ首肯スルヲ得ヘシ地質學上比較的短期前ニハ彼得大帝灣ト興凱湖ノ低地トヲ連接スル一海峽アリテ北方烏蘇里江及黑龍江ノ河畔地ヲ通過シ鄂和達海ニ連リ此ノ如クニシテ大陸ト長サ千三百六十餘里内外ノ長キ島トヲ分離シタルヘク而シテシホトアリノ山脈ハ其島ノ中央ヲ走リシナルヘシ斯ル海峽アリシモ其乾燥スルニ及ヒテヤ此ニ全ク均平ニシテ曠原ニ酷似セル幅八

十餘里ノ一帯ノ地ヲ現出シ其東方ニ在リテ森林鬱生シ處々ニ深奥ナル峽谷ヲ有スル山地ニ比シテ全ク反對ノ觀ヲ成セシモノナルヘシ此問題ヲ解釋スルニ當テ最モ趣味アルハ興凱湖ニシテ今猶其北濱ニ多數ノ介殼ヲ發見ス

年ニ豊凶アリテ産額一定セス且ツ北部地方ハ未タ調査ノ徵スヘキナキヲ以テ單ニ南部ノ平均産出額ヲ掲ク

春蒔裸麥	六三三・八六〇布度
秋蒔裸麥	四八・八七五
小麥	五八四・二〇〇
燕麥	四四六・一五〇
大麥	六三・五二〇
蕎麥	一一四・二八五

尙此他朝鮮人等カ稼穡スル處ノ雜穀稗粟等アルモ各三四万布度ノ少額ニ過キス

價格ハ地方ニヨツテ徑庭アリ之レ運輸ノ便否附近産出ノ多寡需要ノ緩急ニ從フモノニシテ一布度ノ價大略左ノ如シ

烏蘇里江畔 興凱、吹風附近 蘇城及ボシエツト附近







ヲ下ラスト云フ

薩哈連島ハ米穀ノ種播ニ適セス只馬鈴薯ノ少量ヲ産スルノミ

食鹽 人生ノ活養ニ必要ナル食鹽ノ一産製地ナキハ沿海州ノ最モ下惡ナル處ニシテ該地方ニ要スル全量ハ悉ク外邦ニ要メサルヘカラスソノ大半ノ供給地ハ本邦ニシテ殘餘ハ獨英歐諸ヨリシ又粗製鹽ノ少量ヲ朝鮮地方ヨリ輸入ス本邦商人及外商カ浦鹽斯德ニ輸送スル處ノ本邦產鹽ハ千八百九十四年ニハ五千「トン」ニシテ千八百九十五年ニハ五千七百五十三「トン」ニ及ヒ又尼古來夫斯克ニ輸送スルモノ年々二千五百「トン」ヲ下ラス近來ハ單ニ附近住民ノ需要ヲ充スノミナラス黑龍江ヲ溯テ遠ク西伯利內地及清國ニ輸入シ又漁業地ニ於テ魚製造ニ消費スルコト莫大ナルヲ以テ輸入ハ年々増加ノ傾向アリ元價ハ本邦產一布度ニツキ四五十錢ニ過サレトモ市價ハハハロフカニ於テ一留尼古來夫斯克ニテ七十五哥ニシテ歐州產ノ純白ナルモノハ尙五十哥ノ高價ナリト云フ

附記 露人ハ沿海州ニ一産鹽地ナキカ爲メ外國ノ輸入ヲ仰キ高價ノ食鹽ヲ消費スルヲ患ヒ近來朝鮮馬山浦(朝鮮ノ南海岸ニシテ釜山ノ西隣ニアリ)浦鹽斯德ヲ距ル六百海里ノ塩礦ヲ採掘センコトヲ唱導スルモノアリ

肉類 天然ノ草地ニ生シタル乾芻ハ織緯粗大ニシテ滋養分ニ乏シク麥稈ハ品質粗惡ニシテ

到底家畜ノ餌料ニ供スル能ハサルカ故ニ牧畜ノ業發達セス大牧場ト稱スヘキモノナク又住民カ飼養スル處ノ家畜數ヲ調査スルハ頗ル困難ニシテ現今ソノ幾何ナルヲ知ラストムスク府出版ノ西伯利商工年鑑ノ報告ニヨレハ千八百九十四年沿海州內家畜ノ數ハ三萬千八百八十四頭有角家畜四萬七千八百〇七頭羊二千二百七十二頭豚三萬〇百七十頭山羊三百二十四頭鹿(アレーニ)十六萬〇六百九十五頭播用犬三萬八千九百八十三頭其他驢馬及螺(ムール)百三十頭ニシテ想フニ之レ等ハ多クハ貨物運搬或ハ田園ノ耕耘ニ使役スルナレハ屠テ其肉ヲ喰フヘキハ豚三萬餘頭ト有角家畜ノ幾小分ニ過キサルヘシ故ニ年々食牛ノ愛瑣地方ヨリブラコースシチンスクヲ經テハハロフカニ來リ又瑣春方面及ヒ朝鮮境ヨリノウオキユスクヲ通過シ更ニ浦鹽斯德ニ入ルモノ幾萬頭ニシテ一千八百九十五年ニハ日清ノ戰役アリ且ツ猖獗ナル牛疫滿州及朝鮮ニ流行シ斃死セルモノ頗ル多カリシモ尙一萬頭以上ヲ輸入シ又米國ヨリハ鹽肉四百三十「トン」ヲ供給セリ市價ハ牛肉一布度四留ヨリ七留ノ間ヲ上下シ豚肉ハ稍之レヨリモ貴ク羊肉ハ廉ナリ

瑣春方面ヨリ輸入スル鷄類土人ノ獵獲スル猪鹿ハ其數量ヲ知ラス  
魚類 沿海州ノ河海ハ實ニ鱗介ノ叢淵ニシテ其豐富ナル殆ント想像ノ及フ處ニ非ス潺々タル細流モ猶且紅魚ノ游泳スルヲ見ル黑龍鳥蘇里ノ諸江ニハ各種ノ魚類繁殖シ鯛、鯉、鮭、



鱒、鯉、鮒、ヲ最トシ其他ハ枚舉ニ遑アラス就中興凱湖ノ如キハ實ニ四十餘種ノ魚屬ヲ包容シテ大ナルモノハ一尾ノ重半噸ニ超ユルアリ夏期産卵ノ期ニ至レハ松花河ヲ溯ルモノ隅々焉トシテ河ニ溢レ展々舟行ニ難ムト云フモ蓋シ經言ニ非サルナリ故ニ漁法幼稚拙劣ニシテ鉞父釣輪ニ過サルモ捕獲スル處甚タ多ク若シ網罟ヲ用ユレハ一網能ク八九布度ヲ獲ルコトアリト云フ千八百九十四年内地ノ河流ニ於ケル漁業收入ハ五万五留ニ達セルモ交通不便食糧不廉ナルヲ以テ醃製シテ他邦ニ輸出スルニ至ラス只附近ノ地ニアルモノハハバロフカ浦蘆斯德ニ致シ而ラサレハ江涯土民カ自家ノ膳羞ニ供シ又ハ天日ニ暴乾シ蓄貯シテ冬期ノ食ニ備フルノミ

鮭鱒ノ漁業最モ昌盛ナルハ尼古來夫斯克近傍ニシテ皆醃製シテ内地ノ都市及ヒ本邦ニ輸送シ之レニ次クモノハ薩哈連島トス此他各地方ニ於テ捕獲スル處ノ鮭鱒鮮ヲ合算セリ總量幾何ナルヲ知ラス千八百九十四年本邦ニ輸入スルモノ鮮鱒五百二十二万四千七百八十五尾干鮮二万二千斤ニシテ每歲著シキ増減ナシト云フ

海鼠ハ浦蘆斯德ノ近海ニ於テ漁スルヲ多シトス漁業ノ最好時期ハ早春氷解ノ候ト初冬氷結前ニシテ夏季ヲ貴ハス之レ海鼠ハ夏季ハ海底ノ最深キ處ニ住スレハナリ年々全海岸ニ於テ此業ニ從事スルハ清國船ニシテ其數一千隻ヲ下ラス(一隻ニツキ税金一年六留ヲ歸政

府ニ納ル)千八百九十四年清國ニ輸出セルモノ七千二百斤ニシテ(前年度ノ二万三千百九十斤ニ比シ非常ノ減少ヲナセシハ日清戰爭アリシニ由ル)一斤ノ價格ハ五十乃至六十哥ナリトス

蔬菜及海藻 各種ノ蔬菜カ善ク生育スルハ州ノ南半中露西亞島、ステウヤンカ、蘇城附近オリカ灣地方トハンカ湖ノ周圍ニシテ千八百八十四年中哥薩克農兵カ馬鈴薯七万四千三百六十布度蕪菁一万八千四百六十二布度球葱凡ソ二千布度ヲ收穫セシカ其他ノ地方及ヒ北半ニ至テハ大ニ狀勢ヲ異ニシ只露人カ常食トシテ缺クヘカラサル馬鈴薯ノ類カ平均播種ニ七八倍スルノ増殖ヲ見ルノミ都會ニ於テ消費スル處ノモノハ多クハ近傍村落ニ歸化セル朝鮮人ノ供給ニ止マリ市價從テ廉ナラスト云フ

薩哈連島ハ季候寒冷土地礫確ニシテ馬鈴薯球葱ノ少量ヲ産スルノミ

海藻ノ主要ナルハ昆布ニシテ到ル處多少發生セサルナク最モ繁殖セルハヲホーツク海トサハレン島ノマウカ地方ニシテ毎年四月下旬ヨリ秋季ニ至ルマテ清韓露人之レカ採收ニ從事ス而レトモ其産出ハ春季流水ノ多少ニ關シ豊凶ヲ來ス即チ流水昆布ノ萌芽ヲ廢滅シ去ルトキハ復奈何トモスヘカラス品位ハ劣等ニシテ鹹味ヲ含ミ黃赫色ヲ呈シ肉厚ク質硬ク本邦北海道産ノ軟美ナルニ比スヘカラス之レ專意多獲ヲ希ヒ葉ノ良否ヲ撰ハス易キニ從テ採



スルニ因ルモノニシテ撰擇ヲ謹ミ製法ニ注意ヲ加フレハ品位ヲ高メ聲價ヲ増スコトヲ得ル  
 モ棄テ、顧ミサル所以ハ大花客タルモノ清國ノ細民ソノ多キニ居リ品質精良ニシテ價貴カ  
 ランヨリハ寧ロ粗悪ナルモ價ノ低カラシコトヲ欲スレハナリ價格ハ常ニ動搖アツテ一定シ  
 難シト雖トモ芝罘ニ於テハ平均一兩ニキ三四布度ニシテ産額大約五十万布度(沿海州内  
 四十四万五布度殘餘ハサムレン島)ノ全額ハ殆ント皆清國ニ輸入ス

○軍需品

石炭 東洋有事ノ日ニ當ツテハ自國太平洋艦隊及ヒ沿海州ノ諸港ニ於ケル海陸軍ソノ他鐵  
 道ニ消費スル石炭ノ供給ハ一ニ遠ク海路ヲ距テ而モ同年波浪險惡ナル韃靼海峽ニ暴露シ完  
 全ナル港灣ヲ有セサル薩哈地島ニ仰カサルヘカラサルハ露國カ一日モ忍フ能サル所ニシテ  
 夙ニ浦鹽斯德附近ノ大陸ニ於テ炭礦ヲ得ント欲シ帝國財產省ハ遂ニ勅裁ヲ經テ經費ヲ支辨  
 シ特ニ探險隊ヲ南部島蘇里地方ニ派遣セリ爾來積々炭脈ヲ各方面ニ發見シ探掘ニ着手セサ  
 ルモノ尠ナカラス就中蘇城河畔(河口ヲ距ル上流四十露里蘇城河ハ水淺クシテ小舟ヲ通ス  
 ルノミ)ノモノハ炭量豐富品質優等(二種アリ甲ハ炭素七六、六瓦斯一七、五濕氣〇、五灰分  
 五、五乙ハ炭素六一、八瓦斯三〇、二濕分一、〇灰分七、〇)ナルコトハ既ニ第七編西伯利鐵道  
 ノ項中ニ記述セリ然レトモ交通ノ不便ハ大ニ事業ノ發達ヲ阻碍シ各地共ニ未タ盛ニ他ニ輸

送スルノ域ニ進マス故ニ現時ニ在テハ探炭ハ專ラ薩哈連島ニアリト謂フヘシ同島ノ西岸ハ  
 殆ント炭脈ナラサルナク千八百五十九年露政府ハ初メテツイー炭礦ノ探掘ニ着手シ千八百  
 七十五年勅裁ヲ以テ同島ニ薩哈連炭礦會社ヲ創立シ露人マコースキー社長トナリ大ニ業務  
 ヲ擴張セシカ近年又新ニ同島西岸ニムカチハルツナイノ二炭礦ヲ發見シ頻リニ其探掘ヲ  
 勉メ最近五ヶ年間ニ於ケル前記三坑ヨリノ産出額ハ

産出地	一八九〇年	一八九一年	一八九二年	一八九三年	一八九四年
ツイー	八九二九一七噸	一〇七六三三三噸	五〇五八六〇噸	三八七〇九〇噸	四七七〇〇〇噸
ムカチ				一三〇七〇〇	三三六〇〇〇
ハルツナイ				一三三六〇〇	三三六〇〇〇

之レニ使役セラル、囚人坑夫ハ五百名ナリシカ九十五年以來倍々坑夫ヲ増加シ九十五年九  
 十六年ノ探炭額ハ二、二〇〇、〇〇〇以上ニシテ船舶ニヨリテ浦鹽斯德ニ運輸ス然レトモ海岸  
 線ハ一ノ灣港ナク船舶ノ錨泊ニ適セス故ニ石炭ヲ搭載セント欲セハ風波平穩ノ日ヲ擇ヒ若  
 シ年途ニシテ風波ノ起ルニ途ハ、直ニ錨ヲ拔テ對岸テカストリー灣ニ避ケサルヘカラス此  
 困難ヲ避ケンカ爲メ一八九六年ヨリデカストリー灣岸ニ炭庫ヲ築造シ當時茲ニ若干ノ石炭  
 ヲ貯蓄シ汎ク内外ノ需ニ應スルノ計畫ヲナセリ又コルサコツフ海軍炭庫ニモツイー炭ヲ貯



蓄ス

價格ハ比較的高價ニシテ一噸ニツキ十四留ヨリ十八留ノ間ヲ昇降ス而レトモ品質劣等破碎シ易ク其縁邊ハ貝狀ヲナシ黒色ニシテ光澤ヲ有スル小塊ノ粉粒ナルヲ以テ使用ノ際ハ鐵網ノ間隙ヨリ脱漏シ未ダ濕氣ヲ含マサルノ間ハ特ニ甚シトス加之炭滓他炭ヨリモ多クシテ遠ク我高島嶼内産ニ及ハス嘗テ之レカ審査ノ成績ヲ聞クニ大塊ハナキニ非サレトモ混淆物アリテ純良ナラス概スルニ皆小塊ナルカ故ニ運搬不便ナルモ火力ニ至テハ高島炭ニ優ルコト三割六分ニシテ灰分ハ二割二ヨリ九分七五ナリト云フ

薩哈連炭ハ斯ノ如ク高價ナルニモ拘ハラス粉末ニシテ煤烟多ク艦船用ニ適セス且ツ採掘額モ多カラサルカ故ニ常ニ本邦及ヒ英國ヨリ輸入スル即チ千八百九十四年ニハ本邦ヨリ四千三百九十八「トン」英國ヨリ四千「トン」(他邦ヨリノ輸入詳ナラス)ニシテ一千八百九十五年ニハ本邦ヨリ八千五百八十三「トン」英國(カジブ炭)ヨリ八千百一「トン」芝罘ヨリ一千六百「トン」歐露ヨリ九千七百八十四「トン」ヲ輸入セリ

建築材料 潤澤ナル沿海州ノ雨量大概スルニ北ヨリ南ニ偏スルニ隨テ益々ソノ多キヲ加ヘセントオリカ灣ハ千〇二十四「ミリ」ニシテ黑龍江口地方ニアツテモ五百「ミリ」ヲ超ヘ此内夏期中ニ屬スルモノ二百九十「ミリ」ナルカ故ニラホーツク海ヨリ來ル寒潮流ニ蕩洗セラ

ル、北海岸ヲ除クノ外野生ノ植物到ル處ニ繁茂シ其種類五百七十餘ニ及ヒ山地ハ皆深遠ナル森林ヲ以テ掩ハレサルナク蘇城區ハ特ニ稠密ヲ極ム黑龍江水域ニ産スル樹木ニシテ建築ノ良材タルヘキモノ鍼葉科ニハ落葉松、新羅松、樅、松アリ潤葉科ハ檜、杉、共ニ高サ十五乃至十八米突中經七十至至ルアリ) 槭(高サ十五米突ニ達ス)等アリ烏蘇里江地方ノ鍼葉科ニハ新羅松、落葉松、樅、銀松、水松(高サ三十米突中經一米突五以上ナルモノアリ)アリ潤葉科ニハ槭、菩提樹、樺、椴、松、水松(高サ三十米突中經一米突五以上ナルモノアリ)足ル然レトモ道路險惡ニシテ運搬困難ナルカ爲メニ只僅カニ河岸ニ近キモノヲ倒伐スルニ止マリ顯著ノ輸出品タルコト能フス管々雲ヲ摩シ天日ヲ遮ルノ巨樹モ徒ラニ黠鼠ノ巢窟タルニ過キス

薩哈連島ノ樹木ハ松、落葉松、根松等ノ鍼葉科多ク樺、椴等ノ潤葉科モ亦少ナカラス南部ノ樹林ハ地位ノ高低ニヨリテ種類ヲ異ニス二百十三米突ニ位置スルノ地ハ潤葉科ヲ産シ二百十三米突乃至三百〇五米ノ地ハ鍼葉科ヲ産シ三百六十六米ノ地ハ樺等ノ潤葉科ヲ産シ之レヨリ以上ノ山地ハ新羅松ヲ産ス樹林ノ最モ鬱鬱タルハ西南部ニシテ其樹木ノ種類ハ凡五百五十種アリ總スルニ南部ニ産スルモノハ本邦ニ均シク北部ニ産スルモノハ鄂和達海岸ノ産ニ均シ又西海岸ツーエ以南ニハ幹長約一米ノ竹ヲ産スルコト頗ル多シ



毎歲ノ輸出額並ニ價格ハ未タ詳細ノ調査ヲ得ス一千八百九十四年ニハ尼古來夫斯克ヨリ一千一百「トン」ヲ千八百九十三年ニハ四千五百「トン」ヲ天津ニ輸出セリ

煉瓦 製造所ハ浦鹽斯德一番河近傍ニ綜列第五大隊所屬ノモノ一ヶ所ト歐人並ニ日本人ニ屬スルモノアレトモ製造額等ハ詳ナラス

「セメント」 「セメント」ハ本邦及歐州ヨリ輸入ス現今ハ專ラ鐵道ノ布敷ニ使用スルカ故ニ數量時ニ應シテ一定セス一千八百九十五年ニハ四千三十五「トン」ナリキ

石材 建築ノ礎石ハ黑龍灣岸ニ多ク花崗石ハ烏蘇里灣紅岬ヨリ出テ支那人ノ切採スル處ニ係ル

薪炭 前項ニ記述セルカ如ク樹木繁茂セルカ故ニ薪材ハ富饒ニシテ江流航行ノ汽船ハ之レヲ以テ石炭ニ代用シ常ニ江涯ニ推積セリ價格ハ「サーセン」(長サ二尺三寸許ノモノヲ積ムコト高サ七尺長サ七尺ナルヲ云フ)五六留ヲ通例トシ浦鹽斯德ノ如ク近隣ノ樹木ハ既ニ伐盡シ遠隔ノ地方ニ求ムルモノニアツテハ運搬費ヲ合スレハ九留乃至十留ナリト云フ而シテ其伐採ハ屯田兵及清人ノ常務トス

八代大尉紀行ニ生木ノ儘ニテ能ク燃焼スルハ「ヤアセニ」(樺ノ一種)ノミナリト附記シテ參考ニ供フ

木炭ハ未タ一定ノ製造者アルヲ聞カス一八九三年ニハ本邦ヨリ七万斤ヲ輸入セシカ以後ノ形況ヲ詳ニセス

舟艇 河水融解シ又沿海ノ漁業旺盛ノ時季ニ際スレハ本州ノ河海ハ舟艇ノ四方ヨリ輻湊スルモノ舳艫相脚ミ桅檣林立ノ觀ヲ呈スルト雖トモ寒風一タヒ來ラハ復一隻ノ影ヲ留メス其目的タルニ貿易漁業ニ存スルヲ以テ毎歲集散スル處ノ隻數一定セス黑龍江沿岸ハ頗ル小舟ニ乏シク村落ノアル處粗造ナル河舟三四アルモ構造薄弱ニシテ多數ノ人員貨物ヲ搭載スルニ適セス只木材ハ至ル處乏シカラサルヲ以テ筏ヲ造ルノ便アリ浦鹽斯德附近ニハツジョ一クト稱スル支那船「シャランド」ト稱スル韓船大凡六百隻以上アリ又支那人朝鮮人ノ所有ニ屬スル艘舟ハ千隻以上ニ達シ長サ約十尺幅三尺余ニシテ艘ニ一櫂ヲ用ヒ又小帆ヲ備ヘ常ニ灣内ヲ往復シ時トシテハ遠ク黑龍烏蘇里灣ニ航行ス

浦鹽斯德港内解船營業規則 兵誌第十三號

第一條 解船營業ニハ強國ニシテ定便ナル船ヲ用ユル者トス其形狀ハ規定ノ限ニ非ス但シ「ペンキ」ヲ以テ船ノ内外ヲ塗り左ノ色ヲ着スルヲ要ス

内部ハ總テ灰色外部ハ水面上ハ赤色水面下ハ深青色又各解船ニ府廳ヨリ下附セル番號ヲ記シタル鑑札ヲ標付シ且幕帳ヲ具備スヘシ



第二條 舟子ハ年齡十八歲以上ニシテ操船ニ熟練シタル者タルヘシ  
 第三條 舟子ハ各埠頭ニ在テ警察官ノ指揮ヲ受ケ埠頭ノ秩序出船ノ順次ヲ監視スル爲メ  
 其同業者ノ中ニ就キ取締ヲ定ムルヲ要ス  
 第四條 舟子ハ府廳ヨリ全權ヲ委セラレタル官吏及取締ノ指定ニ從テ埠頭ニ船ヲ繫止シ  
 互ニ出船ノ順次ヲ守ルヘシ一回出船シテ埠頭ニ歸ル者ハ其船ヲ最後ノ位置ニ繫止シテ  
 順次ヲ待ツ者トス  
 第五條 舟子ハ埠頭並ニ其船内ニ於テ放歌喧騒スヘカラス乘客ニ接スルハ慇懃ナルヲ要  
 シ且ツ番ニ當ル時ハ其出船ヲ辭スルヲ得ス若シ故無ク出船セサル時ハ直ニ船ヲ最後ノ  
 位置ニ繫止スヘキ者トス  
 第六條 乘船定價ハ浦鹽斯德港船船場ヲ二區ニ分チ其境界ニ依テ定ム  
 第一區ヲチユハキン及エグセクド兩岬ヨリ府屬埠頭海軍署埠頭並ニサハリン會社埠頭  
 間トス  
 第二區ヲ海軍署埠頭ヨリ港ノ東端ニ至ル間トス  
 第七條 舟子ハ定價ヲ超過スル乗船料ヲ請求スルコトヲ得ス但定價以下ノ料ヲ受クルハ  
 其隨意トス

第八條 舟子ハ乘客二人荷物三布度以内ヲ載スル義務ヲ有ス  
 第九條 前諸條ヲ犯スルトキ舟子並ニ取締ハ法律ニ依テ處罰セラルヘシ

定價

日中一回	十一哥
夜間同	二十哥
何ノ處ヨリスルモ甲區ヨリ乙區ヲ廻ルトキハ日中ハ一回二十哥夜間ハ四十哥トス	
定時乘船定價	
日中一時間	三十哥
夜間同	五十哥



## 第九篇 軍事

### ○海軍

露國海軍ノ編制ハ海軍團海軍半團海軍隊等ヨリ成リ所屬ノ艦船隊ヲ平等ニ區分シテ之レニ附ス海軍團若干ヲ會スレハ之レヲ海軍々團ト稱シ自國各海面ノ樞要ニ應シテ軍團若シクハ團隊ヲ配置スルコト左ノ如シ

#### ○近衛海軍團一

○波羅的海軍第一軍團

第一、第二、第三、第四、第五、第六、第七、第八、第九海軍團

○波羅的海軍第二軍團

第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八海軍團

○黑海々軍々團

第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、海軍團

○レウエーリ海軍半團一

○スウエアボルク海軍隊一











第一條 浦鹽斯德港ニ於テ海軍造船工場、艦船修理及ヒ器械工場ニ要スル職工及ヒ技工ノ部隊ヲ編成シ前記諸工場ノ基礎ヲ鞏固ニスル爲メ西伯利海軍團ニ非戰列部隊ヲ設置ス

第二條 非戰列部隊員ハ之ニ適ス可キ技術ヲ修得セル兵員ヲ浦鹽斯德港海軍所轄各科工場ニ於テ其科ノ海軍技工士試験ヲ行ヒ合格者ヲ以テ部員ニ編入スルモノトス

浦鹽斯德港海軍非戰列部隊員ノ徵募定員ニ達スルマテハハルチーク及ヒ黑海海軍ヨリ其技能ニ適スル新兵ヲ差遣ス可シ

第三條 非戰列部隊員ノ編成ハ定員補充簿ニ依テ之ヲ定ム即チ新兵ニシテ該部隊員ニ選抜サレタル者ハ初メ海軍團ニ入り軍隊ノ教練ヲ卒リ且ツ所定ノ誓約ヲ了リタル後非戰列部隊員ニ編入シ第二級職工トナル

第四條 非戰列部隊員ハ西伯利海軍團ノ所轄ニ屬シ可成海軍團ニ接近セル官舎ニ配置セラレ燈火及ヒ燧室燃料ヲ支給セラル、モノトス然シテ該部隊員ハ給與上ノ件並ニ隊伍及ヒ督理上ノコトニ就テハ軍港副官ニシテ三等艦ノ艦長ト同一ノ職權ニテ非戰列部隊ヲ管理スル即チ部隊司令ノ揮下ニ隸屬スルモノトス又部隊司令ノ助手トシテ陸上勤務ナル先任下士一名ヲ置ク且又該部隊員ハ總テ技術上ノコトニ關シテハ工場主任海

軍技工ノ指揮ヲ受クルモノトス

第五條 非戰列部隊員即チ兵卒ハ毎日就業時刻ニ諸工場ニ差遣セラルモノトス該部隊員ナル兵卒ノ教練上全般ノ監督ハ其港ノ海軍技術部長之ヲ司トリ未タ技術ニ熟セサル者ニ對シテハ技工及ヒ職工中ヨリ直接ニ之レニ教示スルモノトス

第六條 非戰列部隊員ニ編入シタル兵卒ナル第二級職工ハ二ケ年間技術ニ習熟シタル後軍港司令官ヨリ命定セル特別委員ノ試験ヲ受ケ合格者ハ第一級職工ニ昇進シ不合格ノ者ハ海軍團ニ復籍シテ水兵トナルモノトス

第七條 第一級職工ニシテ二ケ年間内ニ於テ特別ノ技量才能ヲ表スル者ハ部隊司令ヲ經由スル技術部長ノ上申ニ依リ軍港司令官ハ第二級技工ニ缺員アレハ直ニ之ヲ第二級技工ニ昇級セシム

第八條 非戰列部隊員ナル兵卒ノ職名俸給ヲ定ムル左ノ如シ

第二級職工	年俸二一留六〇カペーキ	日當賃錢	三六カペーキ
第一級職工	同 四〇留五〇カペーキ	同	四八カペーキ
第二級技工	同 六八留四〇カペーキ	同	七五カペーキ
第一級技工	同 九〇留〇〇	同	一留〇〇



第九條 非戰列部隊員祝祭日若クハ定時外ノ時間ニ就役シタルトキハ日當一倍ノ増額ヲ受クルモノトス

就業時間ハ一晝夜二十時間トス

第十條 非戰列部隊員ノ第一級職工ニシテ所定ノ勤務年限ヲ卒ヘタル時ハ第三級再役者ノ特權ヲ有シ再役留任スルコトヲ得又第二級技工ニシテ所定ノ勤務年限ヲ經過シタルトキモ同様タルヘシ但シ聖アンナ勳章ヲ下賜セラレノ資格ヲ有セサルモノトス

備考 第二級技工再役中ハ第一級技工ニ昇進セシムルコトアルヘシ

第十一條 非戰列部隊員再役者ハ海軍省ヨリ旅費ヲ仰キ自己ノ家屬ヲ他地方ヨリ浦鹽斯德港ニ呼寄スルコトヲ得

第十二條 非戰列部隊員疾病ノトキハ海軍病院ニ入院セシム又患者ノ診察及ヒ其取扱等ハ總テ海軍軍醫ニ一任スルモノトス

第十三條 非戰列部隊員ノ隊伍上及ヒ會計並ニ給與上ニ係ル諸般ノ事務ハ再役ノ下士官一名及書記一名ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第十四條 非戰列部隊員ニハ水兵ト同一ナル所定ノ被服ヲ支給スルモノトス  
備考 該部隊員ニ支給スル日當賃錢ハ浦鹽斯德海軍工作費豫算額ヨリ支出スルモノトス

トス

一般海軍團ノ組織各職員ノ權限等ヲ明瞭ナラシメンカ爲メ海軍團條例ヲ附記ス

海軍團條例

總則

第一條 陸上ニ於テハ海軍兵員ヲ海軍團ニ配置ス一海軍團ノ下士官ハ大約九百人乃至千八百トス各海軍團艦船ノ編制ニハ一等艦ハ各々一隻二等三等四等艦等ハ成ル可ク平等ニ配付ス可シ

第一海軍團ヨリ第二十七海軍團マテヲ波羅的海軍々團トシ第二十八海軍團ヨリ第三十七海軍團マテヲ黑海海軍團トス

(註) 第一 近衛海軍團裏海及ヒ西伯利海軍團レウエーリ海軍半團並ニスウエアボルク海軍隊ハ故ノ如ク其組織ヲ變更セス

第二 聖彼得堡府ニ設置スル海軍團ハ海軍本部ヨリノ指定ニ依リ之ヲ配置シ又聖彼得堡港ニ守冬シ或ハ製造中ナル艦船ノ乗組下士水兵ハ一時悉ク該團ノ所轄ニ屬スルモノトス

第二條 波羅的海軍諸團ヲ二軍團ニ編制シ先任將官ヲシテ各々之ヲ統督セシム



海軍團並ニ海軍團附ノ下士水兵ニシテ其所屬軍團ヲ離レ他ノ軍港ニ分遣セララル、間ハ特ニ混成隊ヲ編制シ後任將官ヲシテ之ヲ統轄セシム

特ニ編制セル砲術水雷小銃其他ノ練習隊ハ之カ爲メ特設セル現行ノ練習隊條例ニ基キテ之ヲ督率スト雖モ其籍ハ海軍團若クハ團隊ニ編入スルモノトス

(註) 第一 外國航海ヲ爲ス所ノ艦船ハ一時其所屬軍團ヨリ分遣セラレタルモノトス而シテ太平洋ニ派遣セララル、所ノ艦船ハ太平洋艦隊ヲ編制シ將官ヲシテ之ヲ指揮セシム

第二 海軍諸團ヲ海軍軍團ニ編制シ若クハ其編制ニ因テ生スル所ノ改正等ヲ施行スルニハ總テ勅裁ヲ仰キ然ル後之ヲ海軍部内ニ布達スルモノトス

第三條 各海軍團ニ於テハ其所轄一等艦々長中先任官ヲ以テ其團長ニ補ス可シ又各海軍團ハ其特有ノ旗章ヲ領有シ且ツ鑒ニ特別ノ賞牌ヲ下賜セラレタル海軍團ハ故ノ如ク之ヲ保有スヘキモノトス

第四條 陸上及ヒ諸事務執行ノ爲メ格倫斯達士港聖彼得堡港及ヒ黑海海軍團ニ隊外小隊ヲ置ク該小隊ノ數ハ實際ノ必要ニ應シ兵員補充表ニ依テ之ヲ定ム但シ該小隊獨立ニ之ヲ編制セス必ス海軍軍團ニ編入ス可シ

第五條 艦船並ニ乗員就役表ハ毎年海軍參謀本部ニ於テ之ヲ調製シ海軍將官會議ニテ議定シタル後海軍部内ニ布達ス可シ

第六條 艦船乘組定員ハ陸上ニ在テモ其乘組編制ヲ保有ス可シ乘組下士卒ノ甲號定員ヨリ乙號定員ヘ甲海軍團ヨリ乙海軍團ヘノ轉籍ハ事實已ムヲ得サル場合ニ限リ之ヲ許ス此場合ニ於テハ甲號定員ヨリ乙號定員ヘノ轉籍ナレハ所屬團長ノ上申ニ由リ海軍軍團長之ヲ命シ甲海軍團ヨリ乙海軍團ヘノ轉籍ナレハ該團所屬ノ軍團長並ニ次長ヨリ上申ノ上鎮守府司令長官之ヲ命ス又乘組下士卒ノ缺員ハ新募並ニ練習隊及ヒ練習學校ノ專修員ヲ以テ之ヲ補充スルモノトス

第七條 新募兵員ニシテ始テ役務ニ就クモノ及ヒ專科學校並ニ專科練習隊附ヲ命セララル、モノハ先ツ一般ノ海軍役務訓練ノ爲メ諸海軍團ニ配布シ然ル後航海時期ノ前ニ於テ右新募兵ヲ各海軍團ヨリ召集シテ更ニ專科練習隊并ニ專科學校附ヲ命シ其專科練習隊并ニ專科學校附ト爲ラサル者ハ軍艦乘組ヲ命ス右專科練習隊及ヒ學校ニ於テ學科ヲ卒業シタル專修員ハ實際必要ノ人員ニ應シ軍艦乘組ヲ命セララル、モノトス

新募兵員ヲ各海軍團ニ配布スルニハ聖彼得堡府ニ於テハ海軍參謀本部格倫斯達士港ニ於テハ格倫斯達士鎮守府參謀部黑海軍ニ於テハ黑海鎮守府參謀部之ヲ執行シ軍艦乘



組員ニ配付スルニハ海軍々團長及ヒ次長并ニ混成隊長之ヲ執行ス可シ

第八條 軍艦乗組員ナル下士卒ハ百名以上二百名以内ヲ以テ一分隊トシ二百名以上ハ二分隊若クハ四分隊等凡テ偶數ニ從テ之ヲ分ツ可シ百名以下ノ乗組員ナル下士卒ハ他ノ分隊若クハ混成隊中ニ合併ス可シ

(註)(一) 一等二等艦乗組員ナル下士卒ハ假ヒ百名以下ト雖モ後備ニ屬セサル限リハ特ニ一分隊ヲ編成スルモノトス

(二) 軍樂隊ヲ七隊トシ内四隊ヲ格倫斯達士ニ置キ第一第二海軍々團ニ各二隊ヲ配置シ(其内一隊ハ太平洋艦隊ノ旗艦ニ置キ他ノ一隊ハ鎮守府ニ屬ス)一隊ヲ聖彼得堡混成隊ニ配置シ二隊ヲ黑海海軍々團ニ配置ス(其内一隊ハ鎮守府ニ屬ス)該軍樂隊ハ各海軍團ニ隸屬シ軍隊ノ服務、軍紀、風紀及ヒ訓練上ノ件ニ關シ陸上ニ於テハ都テ海軍團次長ノ指揮ニ歸シ又鎮守府附屬ノ軍樂隊ハ該鎮守府參謀部次長ノ指揮ニ歸スルモノトス

第九條 科料ニ處セラレタル下士卒其人員二十名以内マテハ艦船乗組員ニ配付スルコトアルヘシ又艦船乗組員ニシテ科料人員中ニ算入セラレタルモノハ直ニ一等二等艦船乗組員ニ配付ス可シ

第十條 各海軍團ニ病舎ヲ置キ病床各五箇ヲ備フ可シ若シ場所不足ノトキハ各團共用病舎ヲ設置スルヲ得各團附屬病舎ハ其團長タル一等艦ノ艦長之ヲ監理シ共用病舎其所在海軍團ノ一等艦中ノ先任軍醫之ヲ監理スルモノトス

第十一條 海軍團ノ軍法會議ハ海軍治罪法ニ基キ各海軍團ニ設置ス臨時ノ軍法會議々場ハ其都度團長ノ見込ヲ以テ示定スルモノトス

第十二條 監倉ハ各海軍團ニ設置ス可シ然レトモ數團營舎相連ルトキハ一ノ共用監倉ヲ置クコトヲ得

第十三條 軍艦乗組員表ニ依リ就役シタル將校、專科將校、機關士、軍醫及ヒ艦具主管等ハ軍艦乗員ノ部ニ屬シ之ニ屬セサル自餘ノ上長官、士官及ヒ軍醫ハ其所屬鎮守府司令長官ノ命令ヲ以テ諸海軍團ニ配付セラル、モノトス然シテ總テ軍醫ハ乗組員ニ編入スト雖モ會テ制定ノ海軍衛生部條例第四百十六條ニ基キ其所屬鎮守府衛生部長ノ配下ニ屬スルモノトス一等艦々長ニシテ職務上ノ交代若クハ進級條例上ノ都合ニ因リ一時其職ヲ解カル、ト雖モ從來ノ所屬海軍團ニ在テ故ノ如ク加俸ヲ受ク但シ此場合ニ於テハ軍港ニ在テハ其鎮守府長官ノ配下ニ屬シ聖彼得堡ニ在テハ海軍參謀本部長ノ配下ニ屬スルモノトス



第十四條 士官ノ甲乘組員ヨリ乙乘組員ニ又甲海軍團ヨリ乙海軍團ニ轉務スルハ事實已ムヲ得サル場合ト進級條例上ノ都合トニ限リ之ヲ許可ス但シ此場合ニ於テハ其所屬海軍々團長ノ許可ヲ經サル可カラス

(註)(一) 士官ノ波羅的海軍ヨリ黑海、裏海及ヒ西伯利海軍ニ黑海、裏海及ヒ西伯利海軍ヨリ波羅的海軍ニ轉務スルハ海軍達ヲ以テ之ヲ訓令シ甲波羅的海軍港ヨリ乙波羅的海軍港ヘノ轉務ハ海軍參謀本部之ヲ命令シ黑海軍港ヨリ裏海軍港若クハ裏海軍港ヨリ黑海軍港ヘノ轉務ハ其鎮守府司令長官之ヲ命令シ一鎮守府管内ノ甲海軍團ヨリ乙海軍團ヘノ轉務ハ其鎮守府司令長官之ヲ命令シ一海軍團中ノ甲乘組員ヨリ乙乘組員ヘノ轉務ハ其所屬海軍々團長之ヲ命令ス

(二) 士官ノ艦隊航海中甲艦ヨリ乙艦ニ臨時轉乘スルハ艦隊司令長官若クハ分艦隊司令官之ヲ許可シ其都度之ヲ海軍省ニ具申ス可シ

將官ノ事

第十六條 陸上ニ於ル各海軍々團ハ先任將官ヲシテ統督セシメ其先任將官ノ輔佐トシテ

後任將官各一名ヲ置ク混成隊ハ後任將官ヲシテ之ヲ統督セシメ先任將官ト同一ノ職權ヲ帶ハシム該先任將官及ヒ後任將官ヲ航海役務ニ就カシムルニハ海軍都督ノ上申ニ依ルモノトス

第十七條 海軍々團並ニ混成隊附ノ先任將官及ヒ後任將官ノ補職ハ勅命ヲ用フルモノトス該將官ノ配置ハ左ノ如シ  
波羅的海軍ニ先任將官三名後任將官五名黑海々軍ニ先任將官一名後任將官二名  
(註) 軍團長ナル先任將官並ニ軍團副官タル後任將官ハ其麾下海軍團ノ多數屯在スル軍港ニ常住スルモノトス

第十八條 陸上ニ於テ海軍々團長及ヒ混成隊長タル將官ハ格倫斯達士港ニ於テハ格倫斯達士鎮守府司令長官ニ直隸シ聖彼得堡ニ於テハ海軍參謀本部長ニ直隸スルモノトス軍團若クハ混成隊ノ一部ヲ他ノ軍港ニ分遣セラレタルトキ其軍港鎮守府司令官先任官ナレハ該軍團若クハ混成隊ノ一部ノ長官ハ其軍港ニ係ル一般ノ事項ニ關シテハ該鎮守府司令官ノ指揮ヲ受ク若シ後任官ナレハ直接ニ海軍都督ノ指揮ヲ受ク可シ但シ如何ナル場合ヲ問ハス其鎮守府司令官ノ職務上ニ干涉スルコトヲ得ス黑海々軍團ノ將官ハ黑海諸軍港ニ於テハ黑海兼裏海鎮守府司令長官ニ直隸スルモノトス



第十九條 隊列并ニ戰鬪上ノ教練、職務上ノ移動及ヒ海軍々政上ニ關シ現行規則ニ基キ海軍團長其鎮守府司令長官ニ報告及ヒ上申書ヲ提出スルトキハ先ツ其所屬軍團長ニ提出シテ軍團長ノ許可ヲ乞フ可シ又右報告及ヒ上申書ニシテ海軍都督ノ裁可ヲ要スルモノハ軍團長之ニ自己ノ意見書ヲ添ヘテ其鎮守府司令長官ニ提出ス司令長官ナキ軍港ニ於テハ海軍大臣ニ提出スヘキモノトス

第二十條 軍團ノ副官タル後任將官ハ其配下ニ屬スル士官下士卒ノ海軍々事并ニ專科ニ係ル訓練ヲ監督シ軍團長疾病若クハ不在ノトキハ其代理ヲ爲ス可シ

第二十一條 軍團長并ニ混成隊長ハ部下ノ海軍團長并ニ諸部長ヲ督勵シ兵員ノ訓練及ヒ戰鬪ノ諸準備ヲ整頓セシメ又兵員ノ諸給與ハ都テ定時ニ定額ノ量ヲ給與セシムルコトヲ監督シ若シ之ニ關シ遺漏等ノ事アルトキハ別ニ其主務者ニ向テ照會等ヲ用ヒス直ニ其鎮守府司令長官若クハ司令官ニ具申ス可シ

第二十二條 前記諸條ニ基キ海軍々團長並ニ混成隊長ハ左記ノ職權並ニ職務ヲ有スルモノトス

(一) 部下兵員ヲシテ軍紀風紀ヲ維持セシメ且ツ現行條規ニ基キ陸上ニ於ル兵員ノ一般軍事、戰鬪及ヒ專科ニ係ル諸訓練ヲ爲サシムルコトヲ監督ス可シ

(二) 部下兵員ノ教練ヲ監督シ毎年兵員ノ練習ス可キ科目教程ヲ示定シ且ツ之ニ關スル必要ノ訓令ヲ下ス可シ但シ諸訓令ハ現行ノ海軍條例並ニ諸達令及ヒ事項ニ違背スル所アル可カラズ

(三) 部下ノ諸部長ヲ監督シ其所轄兵員ヲシテ職名ニ適セサル職務並ニ作業ニ就カシムルコトアル可カラズ

(四) 部下兵員ノ業務並ニ營内ニ於ル衛生方法等ノ改良ニ最モ注意ス可シ

(五) 後備員ニ編入セラレタル者又ハ不能若クハ特典ニ由リ退職シタル者ニハ所定ノ法規ニ基キ其定時ニ正確ニ諸給與ヲ爲サシムルコトヲ監視ス可シ

(六) 部下ノ海軍團並ニ軍隊ニ編入スル團隊兵員ノ出入ヲ正確ニスルコトヲ監督ス可シ

(七) 定員表所定ノ人員ヲ以テ職員配置表ニ依リ乘組員補充ヲ正確ニスルコトヲ監督ス可シ

(八) 部下ノ軍團並ニ軍隊ニ於テハ其海軍團長ノ具申ニ因リ甲海軍團ヨリ乙海軍團ニ下士以下ノ轉勤ヲ許可ス可シ

(九) 患者、死亡、不能廢人、隊外轉務員及ヒ逃亡者等ノ員數ニ注意シ若シ此項ノ人



- 員増加スル時ハ其旨ヲ鎮守府司令長官ニ具申シ是カ豫防ノ方法ヲ施行ス可シ
- (十) 下士水兵艦船乗組編成ノ時ハ定員表ニ據リ專科ニ屬スル兵員ハ其服務期限等成ル可ク平等ニ配當セシムルコトヲ監督シ又乗組專科員アルトキ專科學校及ヒ專科隊附ノ新兵ヲ以テ補充センカ爲メ艦長具申スルトキハ本條例第七條ニ準據シ且シ其服役期限等平等ニ配當スルコトニ注意ス可シ
- (十一) 海軍法令全書第八冊ニ掲記セル條項ニ基キ一等兵曹ニ昇進セシム
- (十二) 海軍團長ノ上申ニ因リ分隊長及ヒ海軍團副官ノ補職ヲ決行シ其旨ヲ軍團又ハ軍隊ニ布達ス可シ
- (十三) 一軍港内ニ於テハ海軍團長ノ上申ニ因リ部下ノ軍團若クハ軍隊ノ甲海軍團ヨリ乙海軍團又ハ甲海軍隊ヨリ乙海軍隊ニ補缺ノ爲メ士官ヲ差遣スルコトヲ得但シ甲ヨリ乙ニ轉務セシムルトキハ其旨ヲ所管長ニ上申ス可シ
- (十四) 海軍團附下士ノ諸簿冊等ヲ詳密ニ登記セシメ又其進級名簿及ヒ勤務日記ヲ正確ニ登錄セシムルコトヲ監督ス可シ
- (十五) 航海豫定表ニ基キ部下軍團士官ノ内國航海艦船配置表ヲ所屬鎮守府司令長官ニ提出シテ認可ヲ請ヒ又外國航海ヲ指命ス可キ士官ニ係ル事項ヲ具申ス可シ

- (十六) 艦副長候補者名簿ニ記入ス可キ人員ヲ鎮守府司令長官ニ具申ス可シ
- (十七) 部下ノ後任將官並ニ海軍團長及ヒ幕僚諸員ノ賞與ニ關シ鎮守府司令長官ニ具申ス可シ
- (十八) 部下海軍團長ヨリ提出スル其麾下諸員ノ賞與並ニ所定ノ規則ニ基キ支給ス可キ扶助料等ニ係ル上申書ニハ自己ノ意見書ヲ添ヘ所管艦ニ提出ス可シ
- (十九) 部下海軍團ヨリ提出スル其麾下兵員ノ轉務、任補、派遣及ヒ賜暇其他退職等ニ係ル上申書ハ前項ノ手續ヲ以テ所管艦ニ提出ス可シ
- (二十) 部下ノ後任將官、海軍團長及ヒ艦長ヲ除クノ外自己ノ麾下軍團附ノ上長官、士官及ヒ文官ハ賜暇所定期限四箇月以下ハ帝國内ニ於テ賜暇旅行ヲ爲サシムルコトヲ得但シ賜暇期限以上ト雖モ万不得已ノ理由アルニ於テハ二十八日間ノ休暇ヲ與フルコトヲ得
- (二十一) 一箇年間ニ一回以上ハ自己ノ意見ヲ以テ時期ヲ選ヒ部下軍團ノ各部及ヒ諸物件ヲ檢閲シ若シ過失不正ノ點ヲ發見シタルトキハ之カ矯正ヲ行フ可シ
- (二十二) 部下ノ軍團及ヒ軍隊ニ屬スル艦船裝備ノ現狀其他該艦船ニ實施セル改良新設ノ諸件ヲ監督ス可シ



(二十三) 航海時期ノ前ニ方リ他軍團所轄ノ艦船ヲ自己ノ麾下ニ屬セラル、コトアルトキハ其艦ノ事項ニ關シテハ直接ニ該艦長ニ諮問ス可シ又航海中他軍團若クハ軍隊所轄ノ艦船ヲ一時自己ノ麾下ニ屬シ指揮シタルトキハ航海役務ヲ了リタル後其艦船全般ノ事項ニ關シ前文ノ手續ニ準シ直接ニ該艦長ニ諮問ス可キモノトス

(二十四) 豫テ海軍本部ヨリ發布セル教科事業表ヲ履行セシムルコトヲ監督スヘシ

(二十五) 諸部ノ兵員ヲ召集シテ混成隊ヲ編成シ教練ヲ要スルトキ若クハ多數ノ上陸隊ヲ編成スル等ノコトアルトキハ之ニ課定表ヲ交付ス可シ

(二十六) 部下諸海軍團ニ於テハ常ニ專科兵ニ其專修シタル學科ヲ復習セシメ又諸兵員ニ讀書等ヲ教習スルコトヲ監督ス可シ

(二十七) 新兵ノ教練ヲ檢視シ始テ兵役ニ就ク新兵ノ教練ニハ最モ注意シ各部各隊ノ教練法ヲシテ劃一ナラシム可シ

第二十三條 軍團長(先任)ノ陸上幕僚ハ左ノ如シ

參謀長 一員

參謀 一員

機關部長 一員

軍醫部長 一員

軍團長必要ト認メ上申スルトキハ海軍本部ヨリ左記ノ職員ヲ軍團長ノ陸上幕僚ニ補ス

砲術部長 一員

水雷部長 一員

航海部長 一員

第二十四條 混成隊長(後任)ノ陸上幕僚トシテ參謀一員ヲ置ク

(註) 軍團長(先任)ノ陸上幕僚ニ秘書二員傳令使四員混成隊長(後任)ノ陸上幕僚ニ秘書一員傳令使二員ヲ置クモノトス

第二十五條 海軍團長ハ麾下海軍團ノ士官及下士卒ヲ統督ス

第二十六條 海軍團長ハ總テ其所屬軍團長ニ直隸スト雖聖波得傑府屯在海軍團長ハ混成隊長(後任)ニ近衛海軍團長ハ海軍參謀本部長ニ直隸シ西伯利海軍團長、裏海々軍團長レウエーリ海軍半團長スウエアボルグ海軍隊長ハ各其所屬鎮守府司令長官ニ直隸スルモノトス

第二十七條 海軍團長ハ本團附艦長ノ職務ノ一部ヲ執行スルノ外海軍團ニ於ル事務、課



業及諸操練等ヲ正確ニ履行シ財務ヲ整理シ營舎ヲ保持シ又海軍團ニ係ル總般ノ指揮ヲ爲シ諸名簿及會計帳簿ヲ精確ニ登錄セシメ報告上申書ハ調査ノ上記名シテ定時ニ軍團長ニ出シ直轄ノ兵員ニ係ル公務上ノ事項ニ關シテハ自ラ處理シ又進級及勤務名簿ノ登錄及保管ニ任シテ確實ニ之ニ記入セシメ所轄人員ノ俸給及其他ノ金錢支給ノ事ヲ監督ス可シ

第二十八條 海軍團長内國航海ヲ爲ス時又ハ一時不在若クハ疾病等ノ時ハ該團附艦長ノ先任官其職務ヲ代理ス可シ

海軍團長遠洋航海ヲ爲ス時ハ勅令ヲ以テ補セラレタル新任團長ニ制規ノ手續ニ依リ團務ヲ引繼ク可シ

第二十九條 海軍團長所轄艦船乗組水兵ノ補充ニ關シテハ艦長ノ上申書ヲ精査シ自己ノ意見ヲ附シテ之ヲ所轄長官ニ進達ス可シ

第三十條 海軍團長ハ下士卒ノ乗組配置ヲ正確ニスルコトヲ監督シ職名ニ適セサル職務ニ就カシムルコト有ル可ラス

第三十一條 海軍團長ハ艦長ヲ指揮シ士官ヲシテ常ニ軍人ノ名譽ヲ重シテ其資格ヲ保タシメ海軍法令全書第十六册第十四章ニ掲記セル(千八百八十九年ニ發布セル海軍懲罰

令)條項ヲ遵奉セシムルコトヲ監督ス可シ

第三十二條 海軍團長並ニ分隊長ヲ指揮シ下士卒ノ行狀ヲ監督シ荷モ軍人ノ資格ヲ失墜スル等ノ所爲無カラシムル可シ

第三十三條 海軍團長ハ下士卒ヲシテ常ニ清潔ノ服ヲ着セシメ服裝規則上四時所定ノ服裝ヲ爲サシム可シ

第三十四條 海軍團兵員ノ身上ニ係ル事項ハ海軍團長ノ責任ニ屬ス故ニ外國航海ヲ爲ス所ノ艦長ハ毎年十二月一日ニ其艦乗員ノ轉乘等ニ係ル上申書ヲ所屬海軍團長ニ出ス可シ又該艦長其艦ノ乗員ニ係ル報告書等ヲ所轄鎮守府司令長官ニ出サントスルトキハ先ツ其所屬海軍團長ノ許可ヲ乞フヘシ

第三十五條 海軍團長下士卒中ヨリ下士練習員ヲ編成スル時ハ適任者ヲ撰拔シ且其練習期限ヲ適當ニ規定スルコトヲ監督シ又機械製造所ノ缺員補充ノ爲メ豫メ職工ヲ養成ス可シ但末項ハ機械製造所ヲ設置セル海軍團ニ限ル

第三十六條 海軍團ニ軍隊ヲ屬スルトキハ海軍團長ハ定員表ニ依リ一ケ年間ノ期限ヲ以テ樂手ヲ雇ヒ入ル、コトヲ得

第三十七條 海軍團長ハ艦長ヲ除クノ外總テ上長官士官及文官ニ二ケ月以下ノ休暇ヲ與



フルコトヲ得而シテ正當ノ理由有ル者ニ限り其期限外ト雖尙十四日以下ノ休暇ヲ許可スルコトヲ得但此場合ニ於テハ休暇ヲ出願スル者ハ豫メ各所屬艦長ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第三十八條 海軍團長ハ士官并ニ文官ノ進級、賞與、扶助、退職、賜暇(前條記載ノ場合ヲ除ク)派遣、休職、恩給、航海加俸及權限外ノ事項ニ關シテハ所屬長官ニ具申ス可シ

第三十九條 海軍團長ハ士官ノ轉職、派遣及他團ヘ轉任并ニ休暇其他特別役務若クハ他團ト人員ノ更換等ニ關シ具申スルトキハ豫メ現在ノ人員ヲ以テ役務ヲ執行スルニ適スルヤ否ヤヲ調査スルヲ要ス

第四十條 海軍團長下士卒ニ退職ヲ命スルニ當リ滿期後尙五年以上現職ニ就キタル者ニハ海軍部内若クハ他廳ニ奉職スルヲ得セシムル爲メニ在職中品行方正ニシテ能ク職務ヲ奉シタル事實ヲ記載セル特別ノ適任證書ヲ授與ス可シ

第四十一條 海軍團長ノ職務權限ニシテ本條例ニ規定セス及變更セサル條件ニシテ海軍法令全書ニ明記セル者ハ總テ其効力ヲ有ス

艦長

第四十二條 艦長ハ其艦乗組ノ士官及下士卒ヲ指揮監督ス

第四十三條 艦長ハ軍紀ノ維持其他職務上ノ事項ニ就テハ海軍團長ニ隸屬スル者トス

第四十四條 一等艦及二等艦ノ艦長ハ陸上ニ在テモ航海中ニ於ケルカ如ク麾下乗組員ヲ統督シ親ヲ責任ヲ負擔シテ會計事務ヲ監理シ諸給與ノ正確ナルヤ兵器ノ保管整頓セルヤ等ヲ督視ス可シ

(註) 本條ニ記載スル一等艦及二等艦乗組員ノ統督及諸給與ニ係ル監督ハ其艦豫備ニ在ルトキハ海軍團長ノ責任ニ屬ス

第四十五條 艦長ハ軍事及會計上ノ定時報告ヲ其期限ニ從ヒ海軍團長ニ出ス可シ又乗組員ノ陸上勤務ニ關スル賞與並ニ轉職、任補、派遣、賜暇、休職其他公務上ノ事項ハ總テ海軍團長ニ具狀ス可シ

第四十六條 艦長ハ乗組員ヲシテ軍紀風紀ヲ維持セシメ軍事上ノ訓練ヲ爲サシムルコトヲ督視シ又檣樓手、按針手、機關工及火夫等ノ専修技術員ヲ得シカ爲メ下士卒中ニ就テ常ニ之ヲ養成スルコトニ注意ス可シ

第四十七條 一等艦及二等艦ノ艦長ハ海軍法令全書第八冊第八十七條ニ基キ其缺員有ル時ニ限り水兵ヲ(砲術及水雷専修兵ヲ除ク)進級セシメ又之ニ三等兵曹以下ノ職務ヲ命



スルコトヲ得

(註) 水兵ヲ三等兵曹、砲術下士、水雷術下士ニ擢任セシムルニハ別ニ規定セル進級規則ニ依ル

一等兵曹ニ擢任セシムルニハ海軍團長ノ上申ニ依リテ海軍々團長之ヲ任命シ三等艦及四等艦ノ乗組下士卒ノ進級ハ其艦長ノ上申ニ依リテ海軍團長之ヲ任命ス

第四十八條 艦長ハ下士中年齡定限ニ達シテ現役若クハ現職ニ留任スルコトヲ請願スル者有スルトキハ其旨ヲ海軍團長ニ具狀ス可シ海軍團長ハ定員表中缺員有ルトキハ之ヲ許可スル者トス

副長

第四十九條 副長ハ陸上ニ在ル時ト雖乗員ノ統督及軍紀風紀ノ維持ニ關シテハ艦長ヲ輔佐スル者トス又課程表ニ依リ諸作業及諸操練等ヲ正確ニ執行セシメ且乗員ヲシテ海軍諸專科ニ係ル必要ノ事項ヲ修得セシムルコトヲ圖ル可シ

第五十條 副長ハ艦長ノ疾病若クハ不在ノ時ハ其職務ヲ代理ス可シ

第五十一條 副長ハ海軍團長ノ規定セル下士卒ノ海軍諸專科教習及陸上諸操練並ニ學術練習ニ係ル課程表ヲ正確ニ執行ス可シ

第五十二條 副長ハ其艦乗組員ノ航海役務ヲ了リタルトキハ分隊長並ニ先任專科士官ノ補助ヲ以テ其乗組員ノ陸上課業及諸操練ノ課程表ヲ調製シテ艦長ニ出シ又艦長ハ之ヲ海軍團長ニ出シテ裁定ヲ請フ可シ

分隊長

第五十四條 分隊長ハ專科大尉タルト佐官ノ俸給ヲ受クル大尉トヲ間ハス總テ乗組大尉ノ先任官ヲ以テ之ニ補ス但一時二等艦ニ編入セル軍艦ニ於テハ副長ヲシ分隊長ヲ兼ネシムルコト有ル可シ

(註) 專科大尉分隊長ヲ兼スルトキハ食卓料並ニ航海俸ハ其高級ニ依リ支給ス可シ少尉ヲシテ分隊長ノ職務ヲ掌ラシムルハ唯之ニ充ツヘキ大尉無キ時ニ限ル

第五十五條 分隊長ハ海軍團長其艦長ノ上申ニ依リテ軍團長ニ具申シ軍團長之ヲ補ス外國航海中ハ其所屬艦隊司令長官若クハ分艦隊司令官之ヲ補シ獨立航海中ハ其艦長之ヲ補ス

第五十六條 分隊長航海役務ニ就クトキハ悉ク其部下兵員ヲ率ヒテ乘艦スル者トス(混成分隊長ハ此限ニ非ス)故ニ進級條例上又ハ事實不得已場合ニ非レハ分隊長ヲ更迭ス



ルヲ得ス又其更迭ハ可成航海就役三ヶ月前ニ於テスルヲ要ス

(註) 航海役務ニ就カサル分隊長及混成分隊長ト雖進級條例上必要ノ時ハ航海役務ニ就カシムルコト有リ此時ニ於テハ其分隊長ノ職ヲ離レ更ニ任補セラレ、者トス

第五十七條 分隊長ハ其分隊ノ士官并ニ下士卒ヲ指揮監督シ分隊ノ軍事及會計ヲ整理シ又陸上ニ在テ乗組員ヲ教練スルトキハ副長ヲ輔佐スヘシ

第五十八條 分隊長陸上ニ於テハ直ニ艦長ニ隸スト雖自己ノ上申并ニ艦長ノ命令ハ悉ク其要旨ヲ副長ニ口述ス可シ

第五十九條 艦長ノ意見ヲ以テ分隊長輔佐トシテ分隊士ハ分隊長ニ屬スル者ニシテ専科士官ヲ以テ兼補スルコト有リ分隊士ハ各部ヲ分掌シ又下士卒ノ諸操練若クハ教習等ヲ掌ル

第六十條 混成分隊長ハ混成分隊長後任將官混成分隊附士官ノ先任官ヨリ撰拔シテ之ヲ補ス分隊長ハ直ニ所轄海軍團長ニ隸スト雖海軍團長ノ命令并ニ部下兵員ニ係ル處分ハ關係ヲ有スル所ノ艦長ニ告知スルコトヲ要ス

(註) 海軍團附ノ非戰列分隊長ハ海軍團長海軍本廳勤務ノ士官ヨリ撰拔シテ之ヲ補ス

第六十一條 先任専科士官ハ副長ノ指揮ヲ受ケ陸上ニ於テハ其分擔スル兵員ノ専科ニ係ル訓練ヲ掌ル者トス

(註) 非専科士官ニシテ専科ノ職務ヲ執ル者ハ海軍團營内規則ニ基キ他ノ士官ト同一ニ營内一般ノ勤務ニ服スル者トス

海軍團事務員

第六十二條 海軍團事務員ハ左ノ如シ

海軍團副官

理事(海軍團主計官ヲ兼ス)

兵器主幹(士官)

屬員

軍醫補

一等看護手

一等書記

二等書記

(註) 數海軍團連合シテ一ノ共同病院ヲ設置スルトキハ其病院係軍醫補一員ヲ置



ク

第六十三條 海軍團副官ハ海軍團長、非專科尉官ヨリ撰拔シテ之ヲ補ス

第六十四條 海軍團副官ハ海軍團事務部ヲ管理シ理事並ニ書記ヲ直轄ス副官ハ海軍團長ノ署名ヲ乞フ可キ書類ヲ審査シ其事實並ニ行文ノ正確ナル責ニ任ス可シ

第六十五條 海軍團副官ハ團内士官下士卒ニ係ル傳達ヲ掌ル

第六十六條 軍樂隊ヲ有スル海軍團ノ副官ハ分隊長ノ職權ヲ以テ其軍紀風紀並ニ訓練ニ關スル事ヲ監督ス可シ

第六十七條 理事ハ(海軍團主計官ヲ兼ス)文官ヨリ撰拔シ海軍團長ノ上申ニ依リ所屬鎮守府司令長官之ヲ補ス理事ハ會計事務並ニ海軍團所屬武庫ヲ管理シ其事務ヲ確實ニ執行スルノ責任ヲ有シ又該事務ニ關シ定時ノ報告書ヲ調製シ且金員及物件ニ係ル文書ヲ起草ス可ニ等艦乗組ノ糧食被服主任ノ准士官ハ會計事務ニ就テハ理事ヲ補助スル者トス

第六十八條 兵器主幹ハ軍團長、海軍小銃練習隊ニ於テ其科程ヲ卒ヘタル佐尉官ヨリ撰拔シテ之ヲ補ス

第六十九條 兵器主幹ハ小銃短刀其他兵器ノ整備及修理ニ關スル事ヲ掌リ又新兵ヲ教授ス

シ小銃兵ヲ教習ス可シ

海軍參謀本部長侍中將官クレメル

先任理事海軍少佐相當官ア、ドウゴウ

自署

自署

〔浦鹽斯德軍港鎮守府〕第十七世紀ノ末期ニ當リ露國ノヲホーツク地方并ニ堪察加半島ヲ略取スルヤ東洋北部航海ノ必要ヲ感シ一千七百十六年ヲホーツクヲ以テ海港トナシ海運ノ擴張ヲ計リ一千八百二十二年更ニ鎮守府ヲ設ケ兵ヲ屯シ東限ノ防備ヲ爲セリ而レモ此地方海岸一般ニ濘澤ニシテ沮洳泥濘良水ニ乏シク常ニ惡疫流行スルヲ以テ一千八百四十九年堪察加半島ノ東岸ベトロボースクヲ撰定シテ之レニ移リ沿海地方廳ヲ開キ海軍佐官ヲ以テ長官トナシ水兵隊及哥薩克兵ノ一隊ヲ備ヘ之レヲ防禦セリ一千八百五十四年英佛聯合艦隊ノ襲撃ヲ蒙ルヤ將卒奮闘其戰僅カニ其蹂躪ヲ免レシモ地位遼遠交通不便ナルニ因リ翌年再ヒ黑龍江口尼古來夫斯克ヲ軍港トナシ鎮守府ヲ設置セリ降テ一千八百六十一年十一月欽差大臣イグナチーフが清國政府ヲ翻弄シ遂ニ烏蘇里地方ヲ奪テ版圖トナスニ及ヒ浦鹽斯德ノ港灣深入シ水深ク波靜ニシテ軍事上甚タ形勝ノ地位ヲ占メ且ツ尼古來夫斯克ニ比スルニ結氷時期ノ縮短ナルヲ以テ一千八百七十二年三度此地ニ遷リ軍務知事ヲ置キ東洋ノ港灣ヲ統轄セシカ一千八百八十五年ニ軍港ニ確定シ堡砦ヲ築キ鎮守府ヲ設ケ司令長官以下ヲ任命シ鎮



守府條例ヲ發布シテ諸官ノ任務ヲ明ニシ茲ニ始メテ絕東經營ノ基礎ヲ固フセリ爾來每三ヶ年ヲ一期トシ常ニ前期ノ成績ニ鑒ミテ次期ノ官制組織經費等ヲ斟酌シ順ヲ隨ミ漸ヲ追フテ遂ニ今日ノ盛大ヲ致セリ讀者次ニ掲クル條例ヲ閱セハ以テ官制ノ變遷并ニ各職員ノ任務ヲ知ルニ足ランカ

鎮守府條例 一千八百八十五年八月廿二日發布

第一章

鎮守府ノ等別

第九十八條 帝國ノ軍港ヲ等別シ一等鎮守府及二等鎮守府トス

一等鎮守府ハ即チ格倫斯達士港聖彼得堡港ニコラーエフ港及浦塩斯德港等ノ四港ナリ

東洋ニ於ケル二等鎮守府ハニコラーエフスク港トス

第九十九條 浦塩斯德港ハ其司令長官即チ東洋鎮守府司令長官之ヲ統轄スルモノトス

第一百條 二等鎮守府ニコラーエフスク港司令長官ハ東洋鎮守府司令長官ニ隸屬スルモノトス

第二章

一等鎮守府官制

第一項 一等鎮守府司令長官

第一百一條 一等鎮守府司令長官ヲ補命スルニハ元老院ニ詔勅ヲ下附シ且ツ海軍一般ニ勅旨ヲ布告シ以テ之ヲ補命ス

第一百二條 一等鎮守府司令長官ハ海軍大臣ニ隸屬スヘシ

第一百三條 司令長官ハ總テ其管下ニ屬スル艦船及在港諸員並ニ海軍所屬諸官廨ヲ統轄シ且ニ在港病院ノ總理ヲ兼任ス可シ

(註) 東洋鎮守府司令長官ハ浦塩斯德府軍務知事ヲ兼任ス

(註) 東洋鎮守府司令長官ハ西伯利亞小艦隊ノ艦船ヲ統轄ス然シテ右司令長官ハ毎年五ヶ月間揮下ノ一艦ニ自己ノ旗章ヲ掲揚ス

第一百四條 司令長官ハ其揮下屬員ニ對シテハ左ニ列記スルカ如キ權利及職務ヲ有ス

(第一) 揮下屬員ニ交付スル賞與恩給及扶助金ヲ申請スル事

(第二) 帝國内ニ在テハ期限二ヶ月以内ハ其俸給ヲ付與シ俸給ヲ付與セサレハ期限五ヶ月マテハ左ノ諸官即チ(一)己レニ隸屬スル軍港勤務ノ職員其他海軍旗將並ニ海軍團長及艦長(二)海軍團長ノ申請ヲ經由シ該團勤務ノ佐官尉官其他文官等ノ缺勤ヲ允



許スルヲ得可シ

(註第一) 總テ隊附ノ海軍諸員ハ航海時限ニ方テハ(露國海軍ニ於テハ毎年四月一日ヨリ十月三十一日マテ航海時限トス)唯不得已場合ニ非サレハ其缺勤ヲ允許スルコトナク且ツ其期限タルヤ必ス二十八日以上ヲ超ユ可ラス

(註第二) 東洋鎮守府司令長官ハ其揮下職員ニシテ任所外ノ地ニ赴クト雖モ期限六ヶ月以内ハ俸給全額ヲ給付シ其缺勤ヲ允許スルコトヲ得ヘシ

(第三) 已レノ揮下ニ屬スル鎮守府ノ諸部長、海軍團長、艦長及法律顧問官等ヲ撰拔シ又同上諸員ノ進退黜陟ヲ海軍大臣ニ具狀スル事

(註) 東洋鎮守府司令長官ハ已レノ專斷ヲ以テ三等艦及四等艦ノ艦長ヲ補命スルコトヲ得

(第四) 旗將及佐官等ノ總會議ヲ開キ航海上ニ關スル事項ヲ審議シタル後發航スル所ノ艦船ニ佐官尉官及軍醫官等ヲ配賦スル事

(第五) 已レノ管下ニ屬スル鎮守府諸官廩長ノ上申ニ由リ其職員ヲ任免、交代、黜陟スル事蓋シ鎮守府ノ造船監、砲術監、水雷監、先任造船士及先任建築士等ノ補命ハ鎮守府司令長官一々之ヲ海軍大臣ニ申請シ其ノ裁定ヲ請フ可シ

(第六) 已レノ所管タル軍港内ニ於テハ鎮守府勤務ノ佐官、尉官、軍醫官其他文官若クハ艦船乗員等ヲ甲海軍團ヨリ乙海軍團ニ轉補セシムルコトヲ得可シ但シ此時ニ於テハ一々之ヲ海軍參謀本部長ニ通報ス可シ

(註) 東洋鎮守府司令長官ハ揮下ノ海軍將校及下士等ノ商船ニ轉乘スルヲ裁可スルノ權ヲ有ス

(第七) 制定ノ規則ニ據リ佐官尉官ノ結婚ヲ允可スル事

(第八) 成規ニ據リ乘組志願生徒ノ職務ヲ命定シ下士ヲシテ士官ニ登用ス可キ試験ヲ受ケシメ下士ヲ兵曹長若クハ掌砲上長、機關上長及掌水雷長ニ昇進セシメ又ハ下士ノ養子ヲ允許シ及成規ニ據リ下士ノ恩給及下士ノ寡婦等ニ扶助金ヲ給與スルヲ允可スル事

(第九) 揮下ノ海軍團、艦船乗員及鎮守府諸官廩ノ事務會計ノ検査ヲ命シ又ハ海軍諸法令規則ノ追加トシテ揮下屬員ニ諸訓條ヲ下附スル事

第百五條 司令長官ノ主務ハ概ネ左ノ如シ

(第一) 已レノ所管内ニ於テハ揮下艦船及乗員ヲ統督シ軍紀法令ヲ遵守セシメ之ヲシテ海軍事業ニ於テ成効完カラシムル事ニ銳意盡力ス可シ



- (第二) 發航前及歸着後ノ艦船ヲ親カラ檢閱スル事
  - (第三) 軍港ノ諸工事ヲ巡視シ以テ其經濟ヲ格守セシムルコトヲ監督スル事
  - (第四) 在港艦船乗員ニ諸供給品ヲ正確ニ支給スルコトヲ監督スル事
  - (第五) 軍港ノ保安ヲ統督シ及之レカ爲メ緊要ナル方策ヲ施ス事
  - (第六) 鎮守府主計部ニ於テ調製シタル明年度ニ係ル經費豫算表及諸物件準備計畫書ヲ審査シ之ヲ海軍大臣ニ呈出スル事
  - (第七) 軍港ニ於ケル諸物件ノ請負買辦ノ現狀ヲ監察スル事
- 第百六條 司令長官ハ諸物件ノ購買準備及金員支出上ニ關シテハ左ノ事項ヲ專行スルコトヲ得
- (第一) 豫算定額金内ニシテ上申決裁前ノ分ハ諸請負買辦及購買等ヲ認可スル事
  - (第二) 軍港長若クハ二等鎮守府司令官ヲシテ諸物件ノ入札購買ヲ行ハシムル時豫メ其内定ノ價格ヲ定ムル事
  - (第三) 諸物件ノ購買準備計畫書ニ豫メ定メタル所ノ場所及期限等ヲ實行スルヲ得サル時ハ海軍大臣ニ具狀シ之ヲ認可シ又ハ諸物件ノ準備及買辦法ヲ變更スルヲ允可スル事

- (第四) 諸物件ノ請負ヲ命スル時身元金トシテ請負費全額ノ五分ノ一ヲ納メシメ若クハ事宜ニ由リ右全額ノ十分一ヲ納メシムル事
  - (第五) 經費豫算則ニ反セス又官庫ノ爲メ損耗ヲ生セス若クハ又其時ノ場合及身元金ノ期限等ニ於テ毫モ支障ナキ限リハ諸定約期限ノ延期ヲ認可スルヲ得ル事
  - (第六) 請負買辦等ヲ命スルノ際發生スル所ノ困難爭議又ハ揮下諸官廩及職員ニ對スル訴訟ヲ審斷スル事
  - (第七) 臨時ノ諸工事及艦船修繕並ニ艦裝ヲ決行シ又ハ艦船ノ修繕上ニ係ル疑問ヲ審斷スル事
  - (第八) 毎歲諸需品ノ價格ヲ査定スルニ長ク使用シタル所ノ物品ハ其最初ノ價格ヲ墜シ上等ヨリ下等ニ位スル時ハ其前價格ハ總テ之ヲ除却スル事
  - (第九) 各鎮守府ノ旅費定額内ハ公務ヲ帶ヒ派遣スル處ノ屬員ニ旅費口當及宿泊料ヲ給付スル事
- 第百七條 科金ヲ恕免スル事諸物件ノ損失ヲ官庫ノ損消ト認定スル事及不用物品ヲ賣却スル事ノ諸件ニ關シテハ鎮守府司令長官ハ第九條ニ掲載セル海軍大臣ノ職權ト同一ノ權ヲ有ス



第百八條 鎮守府司令長官ハ其管理ニ屬スル事項中本部會議ノ審議ニ附ス可キ者ハ海軍大臣ヲ經由シ該會議ニ附シ然シテ右事項ニ關シ質問ヲ受クルトキハ司令長官ハ議場ニ臨席シ案件ヲ辨明スルノ權ヲ有スト雖モ然レトモ審議決議ノ時ハ之ニ參與スルヲ得ス

第百九條 司令長官ハ其所管長ヨリ受タル諸訓令ニシテ之ヲ實行スルニハ其地方ノ狀況ニ由リ必然不良ノ結果ヲ來スコトヲ認ムル時ハ大臣ニ通報シ一時之ヲ停止スルコトヲ得然レトモ再回施行ス可キ訓令アル時ハ直ニ之ヲ斷行スト雖モ此時ニ於テハ其保擔ノ責ニ與カラサル可シ

第百十條 鎮守府司令長官ハ非常ノ場合特ニ遷延シ難キ時ニ臨テハ軍港ノ警備保安及官庫ノ利益ニ關スル方法ハ直ニ之ヲ決行スルコトヲ得可シ然レトモ己レノ權限ヲ超越シタル事項並勢ヒ茲ニ進及シタル理由ハ直ニ之ヲ海軍大臣ニ具狀ス可シ

第百十一條 鎮守府司令長官ノ輔佐官ニシテ其分擔スル事項ハ概ネ左ノ如シ

(第一) 艦隊人員鎮守府勤務兵員及艦船ノ進退其他總ヲ將校部ニ關スル事項ハ參謀本部長之ヲ督理ス

(第二) 造船、艦船ノ修裝及其大砲、水雷等ノ裝置並諸官辦ノ建築修理又ハ糧食、物

品ノ支給其他總ヲ經理上ニ關スル事項ハ軍港長之ヲ督理ス

(第三) 醫務上ニ關スル事項ハ該港ノ病院長(即軍醫部長)之ヲ督理ス

(註) 軍港軍醫部長ノ職ハ海軍戰時病院條例ニ詳カナリ

第百十二條 鎮守府司令長官ハ自己ノ意見上必要ト認ムル時ハ親カラ議長トナリ左ノ諸員ヲ招集シ會議ヲ開クコトヲ得

(第一) 海軍ノ將校部及技術部ニ關スル事項ヲ審議スル時ハ該港勤務ノ旗將佐官並ニ在港ノ旗將及鎮守府參謀長、軍港長、海軍團長一等艦及二等艦ノ艦長等ヲ招集ス

(第二) 經理上ニ關スル事項ヲ審議スル時ハ鎮守府參謀長、軍港長及法律顧問官等ヲ招集ス

第百十三條 鎮守府司令長官ハ毎年揮下諸員ヨリ左ノ委員ヲ補命ス

(第一) 毎年航海時期ノ後艦船其他總ヲ損傷シタル艦船屬具等ヲ調査スヘキ破損調査委員但シ軍港長ヲ以テ該委員長トス

(第二) 軍港ノ貯藏品調査委員

(第三) 糧食、燃料、木材其他總ヲ需用物件ヲ領受スヘキ委員

第百十四條 鎮守府司令長官ハ毎年々々末左ノ報告ヲ海軍大臣ニ進呈ス可シ



(第二) 揮下艦船ノ狀況及人員並艦船ノ進退其他總テ將校部及行務上ニ關スル報告  
 (第二) 經理、造船、艦船ノ支給糶裝及諸建築ニ關スル報告  
 第百十五條 鎮守府司令長官疾病若クハ不在ノ時ハ在港ノ旅將中先任ノ者司令長官ノ職務ヲ執行ス但シ此時特別ニ補命セラレタル者アル時ハ此限ニアラス

第二項 一等鎮守府參謀部

第百十六條 格倫斯達士鎮守府黑海兼裏海鎮守府即ニコラエフ鎮守府及東洋鎮守府(即浦塩斯德鎮守府)ノ諸參謀部ハ各、其所轄ノ艦船並ニ人員ニ關スル司令長官ノ指揮及長官ノ處分ニ係ル文書等ヲ管掌スル所トス

第百十七條 參謀長ハ其鎮守府所轄ノ艦船及乘員並ニ鎮守府勤務兵員其他總テ將校部ニ關スル司令長官ノ諸命令ヲ領受シ又ハ之ヲ傳達シ且ツ其命令ヲ正確ニ履行スルヤ否ヤ之ヲ監督スヘシ

第百十八條 參謀長ハ己レヨリ下位ノ海軍々人及艦隊若クハ分艦隊ニ屬セサル在港ノ艦船ニ對シテハ海軍懲罰令第五十一條及第六十一條ニ掲載スル旅將ト同一ノ職權ヲ有ス

第百十九條 參謀長ハ鎮守府司令長官ノ允許ヲ經艦隊若クハ分艦隊ニ編入セサル所ノ艦

船ハ隨時ニ之ヲ檢閲スルコトヲ得但シ艦隊若クハ分艦隊ニ屬スル所ノ艦船ハ其司令官ノ旗章ヲ降下シタル後ニ非サレハ之ヲ檢閲スルコトヲ得ス且又參謀長ハ兵營病院其他兵員ノ分屯所等ヲ檢閲スルヲ得此時若シ不正缺漏等ノ廉ヲ認メタルトキハ己レノ權限内ハ直ニ之ヲ抑止スルノ權ヲ有シ然シテ其檢閲ノ成績ハ鎮守府司令長官ニ具狀スヘシ

第百二十條 東洋鎮守府ノ參謀部ハ在任ノ佐官ヲ以テ其長ニ補シ參謀長ノ職務ヲ執行セシム

第百二十一條 參謀部ニ於テ掌理スヘキ事項ハ概ネ左ノ如シ

- (第一) 水兵及鎮守府勤務兵員並ニ艦船乘員ノ補充編制ノ事
- (第二) 海軍廢兵ヲ管理スルニト又ハ海軍下士卒ノ子弟學校ヲ管轄スル事
- (第三) 海軍兵員ノ服務細則ヲ創設改良スル事
- (第四) 海軍所屬ノ職員及兵員ノ止宿ヲ管轄スル事
- (第五) 海軍兵員ノ官私ノ艦船若クハ陸路ニテ他ニ派遣スル等ノ事
- (第六) 軍港ノ諸工事ヲ示定スル事
- (第七) 參謀部並ニ鎮守府所轄ノ諸官廳ニ係ル司令長官ノ諸命令ヲ公告スル事



第二百二十二條 參謀長軍醫官ノ補命轉免賞與等ヲ鎮守府司令長官ニ申請スル時ハ軍港ノ病院長ハ軍醫部長ノ職名ヲ以テ必ス之レニ臨席スル事ヲ要ス

第二百二十三條 左ニ列記スル者ハ參謀部ノ所轄ニ屬ス

第一 天象測量臺及磁器試驗所

第二 記録部

(註) 記録部ニ於テ永久ニ保存スルヲ要セサル書類ト雖モ一々鎮守府司令長官ノ裁可ヲ經サレハ之ヲ破棄スルヲ得ス

第三項 鎮守府主計部軍港長及其屬員

第二百二十四條 鎮守府主計部ハ軍港長ノ直轄ニ屬シ軍港ノ經理艦廠其他總テ港灣及碇泊場ノ安寧ヲ保持スル所トス

第二百二十五條 鎮守府ノ直轄ニ屬ス可キ事項ハ概ネ左ノ如シ

(第一) 職工、人夫又ハ機關手及機關工手等ヲ僱役スル事

(第二) 軍港倉庫ニ貯藏スヘキ諸物品ヲ領受シ又ハ艦政本部及水路本部ヨリ送付スル所ノ諸物品ヲ貯藏シ及之ヲ配賦スル事

(第三) 軍港ノ諸製造所及職工場ノ諸工事ヲ命定スル事

(第四) 艦船、官廨其他諸屋舎ヲ修繕スル事

(第五) 在港ノ海軍々人及職員ニ金員其他物品ヲ支給スル事

(第六) 艦船ノ艦裝、武備、支給及解裝又ハ之ヲ諸港灣ニ配置スル事

(第七) 沈没セシ艦船及物品ヲ引揚ケ若クハ碇泊場、港灣及水道ノ浚濬工事ヲ施シ又ハ右引揚タル艦船及物品ヲ管理スル事

(註) 聖彼得堡港ヨリ遠隔ナル鎮守府ハ其需用品ヲ購入スルニ聖彼得堡ニ比スレハ該地方ニ於テスルヲ尙ホ便利ト認ムルトキハ之ヲ其鎮守府ニ於テ直ニ購買スルコトヲ得

第二百二十六條 軍港長(軍港長ハ我軍港司令官ト稱シ似タリト雖モ然ノ重要ナル職務ハ鎮守府附屬ノ艦船ヲシテ一令ノ下直ニ發航戰闘ニ支障ナキカ如ク常ニ之ヲ整頓準備スル事ヲ要ス)

第二百二十七條 軍港長ノ所管ニ屬スル事項ハ概ネ左ノ如シ

(第一) 艦廠、船臺、船渠、製造所、職工場、兵營其他諸官廨及屋舎並ニ軍港附屬ノ不動産及地券

(第二) 鎮守府所屬ノ艦船



(第三) 港灣及在港艦船其他碇泊場並ニ水道

(第四) 軍港ノ諸物品倉庫及其貯藏品

(第五) 前記ノ官廳其他各所勤務ノ諸官職員及職工並ニ人夫

第二百二十八條 軍港長ハ揮下諸員ニ對シテハ海軍懲罰令第五十一條及第六十一條ニ揭示セル旗將ト同一ノ職權ヲ有ス

第二百二十九條 軍港長ハ航海時期中ハ港内ニ歸着スル艦船ノ損所ヲ檢閲シ急速ニ修繕ヲ加フ可キモノト又航海時限ノ後施行スル艦船ノ總檢閲マテ修繕ヲ遷延スヘキ者トヲ示定スヘシ然シテ航海時期ノ後軍港長ハ破損調査委員會ノ會長トナリ茲ニ於テ調査議定シタル諸修繕ヲ實行セシム但シ左ニ列記スルカ如キ者ハ此限ニアラス

(第一) 重大ナル修繕ヲ施サンカ爲メ艦船ヲ船渠ニ入レ若クハ之ヲ「モルト」ノ「船臺」ニ引揚クルコトニ決定シタル者

(第二) 船體ノ極メテ舊形ナルヲ以テ其修繕ヲ細部ニ及サス唯緊要ナル若干部分而已ラ修理スルヲ尙ホ便益ト認ムル者右兩様ノ場合又ハ諸艦長其艦船ノ艤裝並ニ艦内ノ位置ヲ變更センコトヲ請求スルカ如キ時ハ軍港長ハ鎮守府長官ノ裁可ヲ請フ可シ

第三百十條 軍港長ハ左ノ事項ヲ專行スルノ權ヲ有ス

(第一) 費額七千五百(凡ソ第四千五百圓)ル「ブ」マテノ請負ヲ允可シ又ハ右請負ヲ命スル時身元金トシテ請負費全額ノ五分一若クハ又事宜ニ由リ全額ノ十分一ヲ納メシムル事

(註) 諸物件ノ請負入札ヲ行フトキハ軍港長並ニ其先任軍港副長及後任軍港副長ノ臨場ヲ要ス

(第二) 最後購入シタル物品價格若クハ市場ノ價格ヲ以テ軍港ノ倉庫ニ準備ナキ艦船、乗員、水路部、艦船修繕及諸官廳用諸需品並物料其他食料等ヲ購入スル事但シ總テ右需品購買及之ヲ購入ス可キ理由ハ軍港長毎月鎮守府司令長官ニ具申ス可シ

(第三) 軍港ノ諸工事ヲ示定スル事

(第四) 軍港ニ要スル職員人夫ノ員數及一定ノ成規ニ依リ右職員等ノ等級ニ準シ之ニ支給スル給料金額ヲ定ムル事又ハ右給料ノ豫算定額ヲ變更セサルヲ得サル時之ヲ鎮守府司令長官ニ具狀スル事

(第五) 鎮守府ノ定額金ヲ以テ起工スル諸建築費額ヲ認定スル事



第三百一十一條 軍港長ハ已レノ權限内ハ總テ經理上ニ關スル事項ヲ專行スルヲ得ルト雖モ然レトモ左ニ記スルカ如キ場合ハ鎮守府司令長官ノ認可ヲ請フ可シ

(第一) 豫算定額外ノ建築費ヲ要スル時

(第二) 請負定約ヲ變更シ又ハ需品購買定約書ノ條款ヲ履行スルヲ得サル事

(第三) 職員人夫等ニ支給スル給料定額ヲ變更スル事

第三百三十二條 軍港ノ經理上ニ關シ軍港長ニ補佐ス可キ職員ハ即チ左ノ如シ

(第一) 軍港定額金ノ出納、倉庫ノ監守及主計部ノ經理上ニ於テハ先任軍港副長

(第二) 艦廠、港灣、碇泊場及水道等ニ關シテハ後任軍港副長

(第三) 造船工事ニ關シテハ其軍港ノ造船部長

(第四) 機關工事ニ關シテハ軍港ノ機關部長

(第五) 砲器製造又ハ之ヲ艦船ニ裝置スル等ノ監察ハ軍港ノ兵器部長

(第六) 水雷ノ製造及之ヲ艦船ニ裝置シ又ハ之ヲ港灣ニ布設スル等ノ監察ハ軍港ノ水雷部長

(第七) 諸建築工事及諸官廨並ニ屋舎修繕等ノ監察ハ軍港ノ建築部長

(註) 圖面若クハ模型ヲ以テ職員ニ品具ノ製造ヲ命スル時其注文書ハ軍港長ニ繕

屬スル所ノ建築士之ヲ調製ス

第三百三十三條 先任軍港副長ハ總テ會計上ノ事ヲ分擔シテ職員人夫ヲ管轄シ軍港ノ兵員ニ俸給ヲ交付シ諸請負人ニ金員ヲ支拂ヒ又ハ務メテ經濟ノ方法ヲ選ミテ軍港ノ建築工事ヲ管理スヘシ且該副長ハ傭役スル職員人夫ノ員數及之ニ支給スル給料額並ニ諸建築費額其他總テ經費豫算外ノ經費及條例ニ明文ナキ廉若クハ不分明ノ點等ニ關シテハ一々軍港長ニ申請シ其裁決ヲ經由スト雖モ然レトモ已ノ權限内ノ事項ハ之ヲ專行スルヲ得

第三百三十四條 先任軍港副長ハ軍港倉庫ヲ管理シ左ノ事項ヲ裁可スルヲ得

(第一) 常用物品ヲ兵員ニ支給スル事

(第二) 艦船及燈臺ニ常用物品ヲ支給スル事

(第三) 諸物料ヲ軍港ノ倉庫ヨリ工場ノ倉庫ニ送付シ又ハ之ヲ甲倉庫ヨリ乙倉庫ヘ轉置スル事

(第四) 請負人ニ諸物料ヲ引渡ス事但シ其數額制定ノ表及規則ノ數額ニ超過スル時カ若クハ又規則上詳ニ記載ナキ時ハ之ヲ軍港長ニ具申シ其裁決ヲ請フ可シ

第三百三十五條 諸倉庫ノ直接ノ監守官ハ即チ左ノ如シ



測器室及海圖庫主管、艦材貯蓄所主管、艦船需品倉庫長、糧食被服倉庫主管、船廠及砲器並ニ水雷庫主管但シ右監守官ハ總テ先任軍港副長ニ直隸ス可シ

第三百二十六條 艦船需品倉庫長及軍港倉庫主管ハ諸物料並ニ需品等ヲ貯蓄所及倉庫ニ收藏スルトキハ諸物品領受委員中ニ加ハリ其數額及性質ヲ調査シ確保ノ責ニ任ス可シ但シ性質ノ善惡ニ係ハラス收藏ス可キ特別ノ訓令アルトキハ此限ニ在ラス

第三百二十七條 後任軍港副長ハ艦廠港灣及碇泊場ノ靜謐ヲ監督シ港内ニ於ケル諸艦船ノ位置並燈臺局兼水路嚮導屯所長ノ指揮ヲ以テ旗、標、其他諸危險標ノ設置等ヲ監察スヘシ

第三百二十八條 造船部長ハ船匠司及造船技手ヲ統轄シ造船工事ヲ管理シ新ニ艦船ヲ製造スル時ハ其工事ヲ掌ル可キ船匠司造船技手並ニ助手ヲ撰定シ以テ之ヲ軍港長ニ具申ス又艦船ノ製圖ヲ整理シ造船技手ニ於テ調製シタル船圖並細目及其費額豫算書ヲ審査改正スヘシ然シテ造船技術上ニ關スル疑問ヲ審斷スル時ハ造船監及造船技術委員ノ指揮ヲ受ク可シ

第三百二十九條 機關部長ハ艦船ニ於ケル汽機汽關ノ整備ナル裝置ヲ監督シ其確保ノ責ニ任スヘシ且又總テ軍港及艦船ニ於ケル機關工事ヲ監察シ艦船乘組機關士機關工手及火

夫等ノ學識伎倆ヲ試驗シ凡機關ニ係ル疑問ヲ審斷スルトキハ機關監ノ指揮ヲ受ク可シ

第四百十條 兵器部長及水雷部長ハ各自其所管内ニ於ケル兵器水雷工事ヲ督理シ艦船ニ裝置シタル大砲水雷製圖掛ニ於テ精確ニ圖形ヲ調製スルコトヲ監督スヘシ且又總テ大砲水雷等ニ關スル疑問ヲ審斷スルトキハ砲術監水雷監及海軍技術委員ノ指揮ヲ受ク可シ

第四百十一條 建築部長ハ軍港ノ諸官廨及海軍所屬水路用諸屋舎ノ保存及其工事ヲ監督シ以テ軍港建築技手ノ長タル可シ然シテ建築上ニ關シテハ建築監及海軍技術委員ノ指揮ヲ受クヘシ

第四百十二條 造船部長、機關部長、建築部長、兵器部長及水雷部長ハ各自已ノ屬員ニ對シテハ海軍懲罰令ニ揭示スル海軍團長ト同一ノ權ヲ有ス

第四百十三條 諸部ニ於テ各其工事ヲ管理スル造船技手、機關匠司、屬具製造技手、砲器匠司、水雷匠司、及建築技手ハ親カラ實地製造ニ從事シ技術ニ拙劣ナル職工ハ總テ工事ニ就カシムル事ヲ許サス又所用ニ適セサル材料等ニ至テハ之ヲ廢棄スルノ權ヲ有ス



第四項 鎮守府法律顧問官

第四百四十四條 法律顧問官ハ鎮守府ノ訴訟裁判事項ヲ管掌シ鎮守府司令長官ノ裁定ニ付  
ス可キ諸定約書等ノ案件ヲ審査シ又ハ鎮守府ニ關スル法律上ノ疑問ヲ審斷スルヲ掌ル

第五項 一等鎮守府總則

第四百四十五條 鎮守府參謀長及軍港長ヲ補命スルニハ元老院ニ詔勅シ且ツ海軍一般ニ勅  
旨ヲ下附シテ之ヲ補命ス又在勤佐官、病院長、造船部長、機關部長、建築部長、兵器  
部長、水雷部長、先任軍港副長及一等鎮守府司令長官附法律顧問官ハ海軍一般ニ勅命  
ヲ下附シテ之ヲ補命ス爾他ノ鎮守府勤務諸官ハ海軍都督兼海軍本部長之ヲ補命スルモ  
ノトス

(註第一) 鎮守府法律顧問官ノ候補者ヲ本官ニ補スルニハ海軍省官房長ノ上申ニ由  
テ海軍大臣之ヲ補命ス

(註第二) ニコラーエフ府海軍觀象臺勤務天象測量士ハ水路本部長トニコラーエフ  
府天象測量臺本部長トノ協議申請ニ由リ海軍大臣之ヲ補命ス

第四百四十六條 參謀長及軍港長ハ左ノ職權ヲ有ス

(第一) 揮下諸員ノ賞與ヲ鎮守府司令長官ニ申請スル事

(第二) 各自其揮下ニ屬スル定員ノ職員ヲ撰拔シ又ハ其補命轉免ヲ鎮守府司令長官  
ニ申請スル事

(註) 鎮守府簿記掛ハ海軍省會計課長ノ選拔ヲ以テ之レニ補ス

(第三) 俸給豫算定額ニ準シテ揮下ノ官吏及傭員ヲ補命シ其俸給ヲ定メ又ハ之ヲ轉  
免スル事

(第四) 帝國内ニ於テハ期限二ヶ月以内ハ其俸給ヲ付與シ揮下諸員ノ缺勤ヲ允可ス  
ル事

(第五) 定額金ヲ以テ需品ノ購買ヲ認可スル事

(第六) 己ノ所管内ハ一定ノ成規ニ照シ部下諸員ニ其課務ヲ示定スル事

第四百四十七條 參謀長、軍港長、病院長及法律顧問官疾病若クハ不在ノトキハ鎮守府司  
令長官ハ揮下諸員中ヨリ代理員ヲ選定シ其事務ヲ代辨セシム

第四百四十八條 鎮守府事務取扱規程ハ同府所屬諸官廳並ニ各部長ノ上申ト海軍省事務章  
程トニ準據シ司令長官之ヲ定ム

第三章  
二等鎮守府總則 (略ス)



第四章

燈臺局及水路嚮導屯所

第一百六十五條 燈臺局及水路嚮導屯所ハ各海洋ニ由テ設置スル事左ノ如シ(第一)波羅的海ハ(芬蘭土灣ヲ除ク)レツェーリ府ニ(第二)裏海ハバクラー府ニ(第三)白海及北洋ハアルハンゲリ斯克府ニ(第四)黑海アゾフ海ハニコラーエフ府ニ(第五)東洋ハ浦塩斯德府ニ設置ス

第一百六十六條 燈臺局及水路嚮導屯所ニハ各其長ヲ置キ事務ヲ管理セシム

第一百六十七條 燈臺局兼水路嚮導屯所長ヲ補命スルニハ海軍一般ニ勅命ヲ下附シテ之ヲ命シ其揮下屬員ハ該長ノ推撰上申ニ由リ海軍都督兼海軍本部長之ヲ補命ス

第一百六十八條 東洋ノ燈臺局兼水路嚮導屯所長ハ其所屬一等鎮守府司令長官ニ隸シ波羅的海ノ燈臺局並水路嚮導屯所長ヲ兼任スル所ノレツェーリ鎮守府司令官ト同一ニ總テ技術及學術上ニ關シテハ水路本部長ノ指揮ヲ受ク可シ

第一百六十九條 燈臺局兼水路嚮導屯所長ハ其所轄内ニ於テハ一等鎮守府ノ軍港長ト同一ノ職權ヲ有ス

第一百七十條 燈臺局兼水路嚮導屯所長ノ職務ハ概ネ左ノ如シ

(第一) 陸上燈臺、浮燈臺、水上救難所及危險標等ヲ管理スル事

(第二) 燈臺ノ點火其他海軍所屬並ニ地方長官ノ所轄ニシテ海岸若クハ河口ニ設置シタル危險標等ヲ能ク維持スルコトヲ監督スル事

(第三) 總テ深淺測量等ノ事業ヲ監督シ(但シ特別ニ命定セラレタル所ノ遠洋水路研究委員及見取繪圖委員ノ事業ハ此限ニ在ラス)又ハ諸點火器ノ製造及礮標、礮旗其他總テ危險標等ノ設置方ヲ監督スル事

(第四) 氣象測量事業ヲ監督シ又ハ海圖水路誌等ノ増補ニ緊要ナル諸報告ヲ蒐集シ其他總テ航海上ノ安寧ヲ説意計畫スル事

第一百七十一條 燈臺局兼水路嚮導屯所長ハ毎年所管ノ燈臺及水上救難所ヲ巡視シ又ハ諸礮標等ノ設置及保存方ヲ確查スルコト但シ事宜ニ由リ部下諸員ヲシテ巡視セシムルコトアルヘシ

第一百七十二條 燈臺局兼水路嚮導屯所長ハ左ノ事項ニ關シテハ水路本部長ニ呈出スヘシ

(第一) 水路上ニ關スル諸建物ノ新設及其工事ノ計畫書

(第二) 所管ノ燈臺及水上救難所ノ保存、點火并ニ修繕用ニ供スル來年度ノ經費豫



算表

(註) 東洋ノ燈臺局兼水路嚮導屯所長本條ノ計畫書及豫算表ヲ水路本部長ニ呈出スルトキハ必ス其所屬一等鎮守府司令長官ヲ經由ス可シ

(註) 鎮守府定員表ハ略ス

一千八百八十八年浦潮斯德鎮守府職員表ニ改正ヲ施シ之レニ關スル規則ヲ發布セリ

第一條 千八百八十八年五月一日ヲ以テ東洋鎮守府司令長官ノ職ヲ廢シ更ニ浦潮斯德鎮守府司令官ノ職ヲ置ク但シ從來浦潮斯德府ニ於テ行政權ノ鎮守府司令長官ニ附屬シタルモノニシテ千八百八十八年五月一日前之ヲ他官省ニ讓與セルモノハ其讓與ノ當日ヨリ該地官省ニ屬スルモノトス

第二條 東洋鎮守府司令長官ノ職ト共ニ東洋鎮守府參謀部ヲ廢シ同部ノ事務ハ西伯利海軍團長ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第三條 今回制定ノ職員表ヲ以テ廢止シタル所ノ職員ハ今後新ニ補命スルヲ得ス

第四條 今回制定ノ職員表ヲ以テ廢止シタル職員ト雖モ現今既ニ補命シタルモノハ千八百八十八年五月一日ニ至ル迄其廢止ヲ延期スルヲ得又千八百八十八年五月一日以後廢止ニ屬スヘキ職員ト雖モ爾後更ニ必要ナルモノト認ムルトキハ豫メ浦潮斯德鎮守府司

令官ハ詳細ニ其旨ヲ具狀スヘシ

第五條 浦潮斯德港浮船渠製造ノ竣工ニ至ルマテハ該工事管理員トシテ臨時浦潮斯德ニ海軍造船科造船技士一名ヲ派遣セシメ海軍機技部條例第二十九條ニ準シ俸給ヲ給與シ且ツ加俸トシテ八百「ルーブル」ヲ支給スヘシ

第六條 浦潮斯德鎮守府勤務機關士ハ二名ヲ以テ定員トスト雖モ浮船渠並ニ鎮守府附屬艦船備附機關ノ管理員ヲ要スルト認ムル時ハ右管理員トシテ更ニ機關士一名ヲ勤務セシメ海軍機技部條例第二十九條ニ準シ俸給ヲ給與シ且ツ加俸トシテ八百「ルーブル」ヲ支給スヘシ

第七條 本則ノ細則第十三條ニ因レハ燈臺建築技士一名ハ殊ニ伯得堡ヨリ派遣シ得ヘキモノト規定スト雖モ今之ニ換フルニ千八百八十五年六月三日制定ノ海軍後任建築技士職員中ノ技士一名ヲ以テ該燈臺建築技士ニ充テ之ニ支給スルニ現今受領ノ俸給ヲ以テスヘシ

但シ本條記載ノ俸給並ニ第五條第六條記載ノ加俸ハ當分ノ内千八百八十五年六月三日制定ノ定額豫算中ノ貯蓄金ヲ以テ之ヲ支辨シ置キ該俸給支辨ニ關スル勅令ニ從ヒ漸次該貯蓄金ニ換ユルニ本職員表中ノ定額ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ



第八條 工事監督職ノ組織ヲ改正シ(細則第四條ヲ參看スヘシ)常設職工組合中ニ下士卒ヲ編入スルヲ廢ス該職工組合ヲ廢止スルハ短時間ニ於テ漸次之ヲ施行シ現今鎮守府若手中ノ工事ニ障礙ナカラシムヘシト雖モ千八百八十八年九月一日マテニハ全ク廢止スヘキモノトス然レトモ鎮守府工場附屬職工學校ハ新設浦潮斯德鎮守府職員表ノ今後更ニ審査ヲ經テ全ク確定スル迄ハ從前ノ如ク設立シ置キ千八百八十八年海軍省豫算第一款中第十八項浦潮斯德鎮守府工場附屬職工學校費三千「ルーブル」ノ項目ハ之ヲ刪除シ次年度ヨリハ同費目ヲ別項トシテ豫算表中ニ記載スヘシ

第九條 黑龍江<sup>ニコラシム</sup>厄固<sup>ニコラシム</sup>斯克<sup>ニコラシム</sup>鎮守府ハ豫テ布達ノ旨ニ從ヒ可成的速ニ廢止スヘシ

第十條 新設職員制定ノ軍醫部ニ係ルモノハ千八百八十八年一月一日ヨリ實施スヘシ

(註) 定員表ハ略ス

一千八百九十四年又新ニ各鎮守府定員表ヲ發布シ左ノ細則ヲ附記セリ

細則

第一 本定員表ニ掲載シタル給與額ヨリ制規ノ酬金ヲ扣除スルモノトス

第二 コロンシタツト鎮守府黑海鎮守府裏海鎮守府ニ於ケル理事ノ内各一名ハ軍法裁判ノ事務ヲ兼勤スルモノトス

第三 鎮守府廳ニ於テ職員ヲ補任スルトキハ政府ノ制定シタル服務條例第五百七條

(千八百七十六年出版法規類聚第二回)ノ規則ヲ遵守スヘキモノトス而シテ高等又ハ中等學校ノ卒業者ニ非スシテ官等有セサルモノハ十等文官以上ヲ採用スルヲ得ス簿記

者及補助技師建築員倉庫出納員工場出納員造營物監督員陸上燈臺看視員ニハ文官任用資格ノ有無ニ關セス雇員トシテ採用スルヲ得ヘシ圖工筆算員倉庫番衛筆生使丁ハ何人

ニテモ雇入ルルヲ得ルモノニシテ病氣ノ節ハ海軍病院ニ於テ治療ヲ受ケ又ハ醫師ノ方

劑書ニ依リ官立藥局ヨリ藥劑ヲ定ルヲ得セシム文官任用資格ヲ有スル筆算員任用ハ通

則ニ據リ十等文官七等恩給ニ採用スルモノトス

第四 鎮守府廳ニ於ケル職員ハ武官文官等ニ其職務ニ定メラレタル給與ヲ受クル外從僕

科從僕ハ分航海手當(便乘手當)ノ行政部定員ノ職務ニ假任サレ艦船ニ乘組中ハ受ルヲ

得ス又艦船運送ニ對スル歩合ノ賞與金及作業費ヲ以テ支辨ス工事或ハ勤勞ニ對シテハ

如何ナル賞與金ヲモ受ルヲ得ス官宅ニ居住スル者ハ家宅料ヲ受クルヲ得サルモノト

ス

第五 海軍軍醫ハ其職務ニ定メラレタル給與ノ外毎五年間勤績ニ對スル俸給附加金ヲ受

クルヲ得ス而シテ其昇進ニ關シテハ文官ト同一ノ取扱ヲ受ルモノトスニコラニフ鎮守



府星學士ハニコラエウ氣象學先任星學士ト同一ノ恩給ヲ受クル資格ヲ有スルモノトス

第六 造船技士及補佐並ニ建築部工事主務員ハ必要ナル場合ニ於テ海軍大臣ノ意見ニ因テ軍港ヨリ軍港ヘ出張ヲ命セラル、モノトス別科建築技士及補佐ハ建築監督長ヨリ海軍大臣ヘ申具シテ工事ニ任定サル、モノトス

第七 後任官吏ハ未タ官等ヲ有セサルモノト雖トモ高等又ハ中等學校卒業者ナルトキハ鎮守府各科長ノ權限ヲ以テ採用スルモノトス其定員ニ缺員ヲ存スルハ差閔ナキモ定員外ノ増員ハ海軍大臣ノ裁決ヲ仰クヘシ但シ其給與ノ總額ニ於テ豫算ヲ超過スルヲ許サズ戰列編制部員ニ陸上勤務應附ヲ命スルヲ許サズ但水路本部長ノ意見ヲ以テ見取圖遠征隊ノ調製シタル海圖水路誌信號書校正ノ爲メ水路本部鎮守府測器庫海圖庫ニ勤務スルハ此限ニ非ス

第八 鎮守府工師(工場長)ハ機技士專科造船技士專科ノ將校砲術或ハ海軍將校ノ特撰工場ニ於テ其職名ニ對シ熟練ヲ證明セラレタルモノヨリ採用ス若シ同上ノ證ヲ有セサルトキハ海軍部外ニ於ケル官私技師ヨリ證明ヲ得タル者ヲ採用ス但前段ノ者ハ千八百五十九年十一月ノ七日ノ定員表ニ從ヒ官等及恩給ニ於テ工師ノ職務ヲ掌シ武官ト同一ノ權利ヲ與フルモノトス若シ職工ノ種類ニ因リ之カ工師トスル適當者ヲ得サルトキハ海

軍大臣ノ裁決ヲ以テ雇入ル、モノトシ其給料ハ本人トノ契約ニ因リ豫算定額ヨリ超過スルトキハ豫算額ト契約給料トノ差ヲ大藏省ヨリ毎年支出スルモノトス

第九 各工場造船部及製造所其他工作用ノ造營物ニ關スル守衛ハ現行規程ニ基キ職工組長及補助ノ爲メ雇入レタル人夫ヲ以テ之レニ充ツルモノトス

第十 本定員表ニハ書工、彫刻工、鑿字工、石版工、印刷工、雇入費及燈臺所支局ニ屬スル航海機械工場費黒海水路費嚮導所費アソウ海水路嚮導所費等ノ海軍省豫算定額第一款第十三項ニ舉ケタルモノ並ニ燈臺手及灯名機關手雇入費ニシテ同豫算定額第二款第十三項ニ舉ケタルモノヲ載セス

浦蘆斯德鎮守府定員表

部廳	職名	官名	現任者官姓名	屬員
本廳	司令官 <small>兼東洋艦隊部長 兼水路嚮導部長</small>	海軍中將若クハ少將		屬官
	幕僚 先任副官 後任副官	海軍大佐 海軍少佐	一 三	若干
部長			一	











- 第二 浦鹽斯德鎮守府司令官ノ將官旗ヲ掲揚スル場合ニ於テハ航海手當ヲ官給セザルモ  
ノトス
- 第三 浦鹽斯德海軍病院藥局長ノ俸給ハ裏海艦隊附五等軍醫ニ比較シテ支給シ食卓料ハ  
露國內地勤務ノ同等官醫ニ相當シテ支給スルモノトス
- 第四 浦鹽斯德鎮守府司令官ハ經理上及裁判上ニ於テ司令長官ト同一ノ權利ヲ有スルモ  
ノトス
- 第五 浦鹽斯德ニ於テ臨時法官部ヲ開設スヘキトキハ海軍裁判條例豫審規則ニ從テ司令  
官ハ部下將校ノ一人ニ之カ審問ヲ命スルカ或ハ海軍裁判第三百九十七條ニ據リ豫審裁  
判ヲ開クヘキモノトス
- 第六 浦鹽斯德鎮守府主理補ハ鎮守府法官部檢事トシテ嚴正ニ其職務ヲ執行スヘキモノ  
トス
- 第七 浦鹽斯德軍法裁判官ハ該地方臨時法官部ノ常置員ヲ以テ其任ニ當ラシムルモノト  
ス又裁判書記ノ職務ハ該地海軍團法官部ニ於テ理事トナルヘキモノトス
- 第八 浦鹽斯德ニ於テ臨時軍法會議ヲ開設スルト共ニ海軍裁判條例通則ニ基キ該鎮守府  
ニ於テ海軍團軍法會議ヲ開設スヘキモノトス

浦鹽斯德機械工場及浮船渠ノ記事 機械工場ハ總テ煉瓦構造ニシテ其數總テ四アリ新鑿船  
渠ニ接近セルモノト海岸ヲ距ル最モ遠キモノトハ共ニ建築中ニシテ未タ器械ノ裝備ヲ完フ  
セス既成ノ二棟ノ内中央ニアルモノハ平屋ニシテ其東ニアルモノハ兩端ノミニ層トナシ上  
層ヲ以テ事務室及木具工場ニ充テリ据附機械ノ現況ハ未タ探查ヲ悉サ、ルヲ以テ茲ニ記述  
スルコト能ハスト雖トモ僅カニ汽艇ヲ造リ或ハ艦船ノ修理ヲナスニ止マリ未タ艦船ヲ新造  
スルヲ得ス

浮船渠ハ各別ニ使用シ得ヘキニ區劃函ヨリ成リ之レヲ連接スルハ金長三百〇一呎ニ及ヒ  
能ク八千噸ヲ浮揚セシムルヲ得ルト云フ(稍誇大ニ過クルカ如シ)全幅大約七十四呎六吋内  
幅五十呎全高五十三呎ニシテ二十呎ハ水中ニ没セリ初人當局者ハ漸次區劃函ヲ増加シテ五  
個全長三百六十八呎トナシ一万余「トン」ヲ浮揚セシムルノ計畫ナリシモ乾船渠築造ノ舉ア  
リシヲ以テ延長ヲ中止セリ排水裝置ハ内部ニ具備セル「セントリフ」ガ「ルボム」ニ因テナ  
サル、モノニシテソノ排水力ハ詳ナラス又一大鐵槽アリ槽上各種ノ小機具ヲ据ヘ亞鉛板ヲ  
以テ之ヲ覆ヒ入渠艦船ノ修理工場ニ供ス即チ所要ニ際スレハ浮船渠ノ側ニ接着セシメ革帶  
ヲ以テ「セントリフ」ニカルボム」回轉汽機ノ運轉ヲ小機内ニ傳達ス

造船部全般ノ規模ハ未タ徹々タルモノニシテ全廠ニ使役スル技手職工ハ合シテ八百五十人



浦鹽斯德港浮船渠入渠規則

浮船渠一臺ヲ以テスルトキハ左ノ規則ニ準シ料金ヲ收受ス可シ

第一項 長サ百呎深サ五呎ノ船舶ハ其上ケ下シ料トモ併セテ入渠料百五十「ルーブル」ヲ支拂ヒ且又毎日入渠料七十五「ルーブル」宛ヲ支拂フコト若シ前記ノ長サニシテ深サ五呎ヲ超ユルトキハ其上ケ下シ料トモ一呎ニ付キ二「ルーブル」宛ヲ増スコト

第二項 長サ百一乃至百五十呎深サ五呎ノ船舶ハ其入渠上ケ下シ料トモ二百「ルーブル」ヲ支拂ヒ且毎日入渠料七十五「ルーブル」宛ヲ支拂フ可シ若シ前記ノ長サニシテ深サ五呎ヲ超過スルトキハ其上ケ下シ料共每一呎ニ二十「ルーブル」宛ヲ増シ且又在渠料ニモ一呎ニ付キ三「ルーブル」宛ヲ増スコト

長サ百五十呎以上ノ船舶ト雖モ其船主ノ請願ニ依レハ一臺ノ浮船渠ニ上ケルコトヲ得然トモ此時ニ於テハ其保險ノ責ハ船主自ラ之ヲ負擔スルモノトス又入渠料其他ハ百一呎乃至百五十呎ノ船舶ト同一タル可シ

第三項 浮船渠二臺ヲ以テスルトキハ入渠スル艦船ノ長サ如何ニ拘ハラズ其上ケ下ケ共ニ入渠料一臺ニ付キ百「ルーブル」ヲ支拂フコト但シ此時ニ於テハ深サハ五呎以下タル

可シ若シ深サ五呎以上ナレハ入渠上ケ下シ料トモ一呎ニ付キ十五「ルーブル」宛ヲ増スコト且又浮船渠二臺ニ於テスルトキハ其長サ及ヒ深サニ拘ハラズ在渠料ハ一臺ニ付キ毎日六十「ルーブル」宛ヲ支拂フ可キコト

第四項 若シ船舶ヲ浮船渠ニ引上ケルニ二臺ヲ以テスルモ既ニ之ヲ引上ケタル後他ノ一臺ヲ要セサルコトアルトキハ其一臺ニ對シ支拂フ可キ金額ハ長サ百呎以下(深サハ算シテ)ノ船舶ト同一ニ見做シテ支拂フ可シ然シテ其一臺ノ船渠ニ對スル上ケ下シ料ハ在渠時間中ニ算入シ支拂フ可キモノトス

第五項 軍港廳ヨリ浮船渠ニ於テ船舶修繕ニ使用セル諸材料ノ代價及ヒ職工工夫等ノ賃錢ハ千八百六十六年十二月十六日附ヲ以テ海軍大臣ヨリ布告セル海軍將官會議ノ告達ニ據リ收受ス可シ

一個人ノ資格ニテ在浦鹽斯德港浮起重機借用規則

第一項 浮起重機ヲ借用スルトキハ其時間ヲ細別セシテ一日ニ百「ルーブル」宛ヲ納ム可シ依テ港廳ニ於テハ該機ヲ使用スル場所マテ之ヲ送致シ用済ノトキハ再ヒ舊ノ所マテ之ヲ運搬スルモノトス又該機借用中ハ其使働時一時間ニ就キ二十「ルーブル」宛ヲ支拂フコトヲ要ス然シテ正後十二時後ノ時間ハ特別作業時間トス又浮起重機使働時間



ノ始メハ之ヲ使用スル所マテ運ヒ來ル時ヨリ算シ使働ノ終リハ起重機ノ機關日誌ニ據  
リテ算スルモノトス

第二項 特別作業時間ハ一時間(分秒時ニ小別セス)就キ二倍ノ料金即チ四十「ルーブル」  
ヲ支拂フ可シ然シテ其特別作業ニ依テ得タル料金ノ半額ハ軍港長ノ意見ヲ以テ起重機  
掛職員ニ給付スルモノトス

第三項 一個人ノ資格ニテ浮起重機ヲ借用スル時ニ於テモ毎日ノ作業時間ハ港廳所定ノ  
作業時間ト同一タルモノトス

第四項 若シ一個人ノ資格ニテ借用使働中露國官廳ニ於テ之ヲ使用ス可キ緊急ノ件アル  
トキハ作業未タ結了セサルモ軍港司令官ノ意見ヲ以テ直ニ之ヲ停止セシムルコトヲ得  
但シ此時ニ於テハ其日ノ借用料ヲ收受セサルモノトス

第五項 浮起重機ノ起重力ハ之ヲ貸渡ス都度港廳ヨリ明カニ之ヲ告示ス可シ  
第六項 浮起重機借用使働中船舶及ヒ之レニ引キ上ケタル物品ノ破毀損傷其他不慮ノ災  
害等ニ關シテハ軍港廳ニ於テハ更ニ其責ヲ負擔スルコトナシ

第七項 浮起重機ヲ借用スルトキハ之レニ要スル人夫中露語ヲ解スル者十名ハ借用請願  
者ニ於テ必ス支辨セサル可カラス

(註)乾船渠記事乾船渠ハ一千八百九十一年四月皇太子殿下(今帝)親臨起工式ヲ舉行シ當時  
勅令ヲ以テ皇太子殿下船渠ト命名ス爾來工事ノ進捗著シカラス往々非難ノ聲ヲ聞キシモ  
本年内ニハ竣工ノ豫定ニシテ既ニ全ク周圍ノ築造ヲ終リ剩ス處ハ堰止土堤ノ除去ト通路  
ノ浚深トノミ船渠ノ構造ハ扉船觸接部ト艦船基ノミ花崗石ヲ以テセル外總テ「コンク  
ト」ヲ用ヒ厚サ上部四呎下部十呎底部十五呎ニシ全長六百二十五呎底長五百五十呎幅九  
十呎深サ浸水三十呎水面上九呎六吋ニ達ス扉船ハ英國技工ノ作ル處ニシテ船渠入口右方  
ニ溝渠ヲ設ケ渠口ヲ開クノトキ扉船ヲ容ル、處トス排水室ハ船渠入口左方ニアリテ七個  
ノ唧筒ヲ備ヘ五時間ニシテ渠内ヲ乾燥セシムルヲ得ルト云フ

海軍豫後備召集令 豫後備海軍下士卒ニ關スル規則ハ未タ明カナラスト雖トモ明治二十八  
年春將ニ東洋ニ事アラントスルヤ浦鹽斯德警察廳ニ揭示セル召集令ヲ見ルニ

- 第一 浦鹽斯德市内ニ居住スル所ノ豫後備兵ハ該召集令發布ノ日ヨリ一晝夜間ニ必ス  
本廳ニ出頭セサル可ラス又該兵ニシテ一時市外ニ出テ南部島蘇里管區内ニ在ルモノニ  
シテ本廳名簿ニ登錄ノ者ハ該令發布ノ日ヨリ一晝夜間ニ本廳ニ出頭スヘシ
- 第二 召集令所定ノ期日ニ遅レ警察廳ニ出頭セル者ニハ罰金ヲ科ス
- 第三 豫後備兵ニシテ召集ニ應セサル者又ハ遁逃セル者アルトキハ探捕ノ上軍法裁判



ニ附スル爲メ所管區ニ送附ス

第四 召集ニ應ジ警察廳ニ出頭スル豫備後備兵ハ兼テ下附セラレタル所ノ制服上衣並ニ靴ヲ着スヘシ

第五 各官解及一個人並ニ私立會社等ニシテ豫備後備兵ヲ備役スル向ハ該召集令ニヨリ直ニ該兵ニ支拂フヘキ金員ヲ渡シ警察廳ニ出頭スルニ差支ナカラシムヘシ之レト同時ニ鎮守府司令官ハ左ノ告示ヲナセリ

召集令ニ應ジ本港警察廳ニ出頭セル處ノ豫備後備ノ下士卒ヲ西伯利海軍團ニ入レ同團ノ名籍ニ編入シテ到達ノ當日ヨリ所定ノ給與ヲナス

○陸軍

露國陸軍ハ左ノ四兵種ヨリ成ル

○第一章常備兵

徵兵令ニ據リ徵集スルモノニシテ國民二十一歳ヨリ四十三歳マテ兵役ニ服スル義務ヲ有ス

○第二哥薩克兵

特別ノ編制ニ基キ之ヲ步兵騎兵騎砲兵ノ三種ニ分チ重キヲ騎兵ニ置ク平時ニ在テハ

全軍三分一常備軍トシテ服役シ他ハ歸休ス

○第三異種族兵

異種族ヲ以テ編制ス編制法種々アリ兵種ハ歩騎ノ二トス此兵中最モ多キハ高架索民兵ニシテ志願者ヨリ採用ス

○第四國民兵

二十一歳乃至四十三歳ノ男子ニシテ兵役ニ在サルモノヨリ成ル

○第一常備兵

常備兵ハ役務ニ因リテ之レヲ左ノ上列ニ別ツ

△戰闘兵(現役)

専ラ敵ニ當リ且一般方略ノ目的ヲ達センカ爲メニ動ク即チ戰爭第一段ノ任務ニ當ル者ナリ

△豫備兵(現役)

戰闘兵増加ノ任務ニ當ル

戰爭第二段並ニ補助的ノ動作即チ敵塞ノ合圍占據戰闘兵ノ后背掩護連絡線ノ保安敵地人民ノ鎮靜及戰闘兵戰地ニ中聚シ國內空虚ノ場合ニ於テ國內防禦等ノ任務ニ當



ル  
△要塞兵

要塞防禦ノ任務ニ當ル

△準備兵

戰時ニ於テ戰鬪兵豫備兵要塞砲兵ノ缺員ヲ補フ爲メ補充兵ノ準備編成發遣ノ任務ニ當ル

△補助兵

補助兵ハ左ノ支隊分隊等ヲ總稱ス

イ 憲兵隊

甲 内務省ニ屬シ一般警察並ニ鐵道事務ニ従事スル者

乙 軍隊ニ屬シ軍事警察ニ任スル者並ニ要塞憲兵隊

ロ 輜重大隊

平時五大隊ヲ置キ戰時ニ九十大隊ト爲ル

ハ 地方兵(歩兵)

戰鬪兵豫備兵等ナキ遠邊ノ地ニ置キ警備ニ充ツ

ニ 護送兵

罪人ノ護送ニ充ツ

ホ 地方砲兵隊

各軍管區ノ砲庫ニ勤務シ種々ノ事業ニ服ス

ヘ 職工隊

工兵部ニ屬シ種々ノ事業ニ服スル員外兵

ト 會計監督部ニ屬シ倉庫ノ事務ニ服スル員外兵

チ 看病隊

リ 風紀兵

是等五列ノ各兵ノ編制ニ就キ少シク記述スヘシ

△戰鬪兵

戰鬪兵ハ戰時ノ編成ニハ現在ノ士卒ヲ以テ之ヲ増員スルノミ新隊ヲ加フルコトナシ而シテ武裝ノ性質ニ因リ之ヲ歩、騎、砲、工ノ四種ニ分ツ

步兵

戰鬪歩兵ハ左ノ三者ヨリ成ル



一 步兵師團  
 二 狙撃旅團  
 三 線列大隊

一 步兵師團ハ總テ四十八アリ、一師團ハ二旅團、一旅團ハ二聯隊、一聯隊ハ四大隊、一大隊ハ四中隊ヨリ成ル(步兵師團ハ西伯利ニ關係ナキヲ以テ略ス)

二 狙撃旅團ハ總テ十五アリ内親軍狙撃旅團一、第一ヨリ第五マテ數ヲ以テ稱スルモノ五旅團ヲ、蘭旅團一、高加索旅團一、東部西伯利旅團三、高加索土兵旅團一、裏海旅團二、土耳其斯坦旅團一(以上十五旅團ノ外、別ニ芬蘭人ノミヲ以テ編成スル狙撃旅團ハアリ)

第一乃至第五旅團ヲ、蘭旅團及東部西伯利旅團ハ各二大隊編成ノ聯隊四個ヨリ成ル其他ハ各旅團四大隊ヨリ成リ聯隊ノ稱ナシ其大隊ハ各其號數ト所在地ノ稱ヲ併用シ一ヨリ十二至ル例ヘハ第一東部西伯利狙撃大隊、第六東部西伯利狙撃大隊ノ如シ旅團モ亦之ヲ第一或ハ第二東部西伯利狙撃旅團ト云フ

三 線列大隊ハ亞細亞ノ邊境ニ置クモノニシテ土耳其斯坦線列大隊、西部西伯利線列大隊(東部西伯利線列大隊ノ名アリ總テ三十八大隊、内土耳其斯坦二十大隊、西部西伯

利七大隊、東部西伯利十一大隊ナリ、土耳其斯坦大隊ヲ四旅團ニ、西部西伯利大隊ヲ一旅團ニ編成シ、東部西伯利大隊ハ從來各大隊獨立ナリシカ今ハ其大隊名稱ヲ存シタルマ、直ニ旅團編制トナシ線列第一旅團ハ黑龍江沿道北部ニ第二線列旅團ハ南部烏蘇里地方ニ配置シ本部ヲ浦鹽斯德ニ置ク

歩兵各大隊四中隊ヨリ成リ戰時ト平時トニ因リ人員ヲ増減ス即チ一中隊ハ戰時ニ百伍、平時ニ四十八伍ナリ此地各中隊ニ執銃セサル兵、戰時ニ十五人、平時ニ四人ヲ附ス其全職員ハ左ノ如シ

	時	時	大	中	隊
戰	時	時	一	一	隊
平	時	時	四	百	人
			八	百	六十人
			四	百	人
					二百十五人

右ハ兵卒ノミナリ之ニ下士官、有志者、鼓手、喇叭手並ニ非職員タル書記、職工、輜重卒等ヲ加フレハ一聯隊ノ總員平時凡ソ千九百人戰時凡ソ四千九百人ナリ

狙撃大隊、線列大隊ハ大佐ヲ長トシ聯隊ノ編成ナク直チニ旅團ニ屬ス戰時、平時兵員ノ別ハ前表ノ如クニシテ其定員ハ左ノ如シ







騎砲兵ノ一中隊ハ砲(輕砲)六門其定員ハ戰時ハ三小隊ノ砲員及砲ト彈藥箱(彈藥箱ハ一中隊ニ十二トノ全數ニ應スル馬平時ハ三小隊ノ砲員及全砲數ト二彈藥箱ニ應スル馬數トス

此外砲兵ニ屬シ戰時豫備彈藥器具等ノ運搬ニ從事スル移動砲廠ト稱スルモノアリ歩兵師團、砲兵旅團ノ各團ニ二砲廠ヲ附ス尙ホ他ニ臼砲隊、合團砲隊アリ

工兵

工兵ニハ鐵兵大隊十七、架橋大隊八、鐵道大隊六、電信隊十七及野工隊六アリ、鐵兵大隊ハ攻城野戰等種々ノ任務ニ從事シ架橋隊ハ橋梁ヲ架シ、鐵道隊ハ鐵道ノ敷設修繕等ヲ爲シ、電信隊ハ軍用電線ヲ架シ、野工隊ハ陣ノ地形ヲ堅固ナラシムヘキ大工事アルニ當リ障礙材料ヲ運搬シ之ヲ軍隊ニ配付スル等ノ任務ニ服ス

工兵ハ鐵道大隊ヲ除クノ外ハ之ヲ六鐵兵旅團ニ編成シ第一ヨリ第五マテハ數ヲ以テ團數トシ第六ヲ高架索鐵兵旅團ト稱ス其編成ハ皆一樣ナラス其三旅團ハ三鐵兵大隊、二架橋大隊、三電信隊、一野工隊ヨリ成リ他ハ稍、少數ヨリ成ル

六鐵道大隊中第一大隊ハ第一鐵兵旅團ニ附屬シ第二、第三、第四大隊ヲ以テ一旅團トス殘リ二大隊ハ高架索州ニ在リ

十七鐵兵大隊ノ十一大隊ハ平時ハ各五中隊ヨリ成リ殘リ六大隊ハ各四中隊ヨリ成ル戰時ハ悉ク四中隊一大隊ノ編成トナシ第五中隊ハ大隊ヲ離レ各二中隊ニ増加シテ豫備ト爲ルモノトス

架橋大隊ハ二中隊ヨリ成リ長サ百九十間ノ橋梁ヲ架スル材料ヲ有ス

鐵道大隊ハ四中隊ヨリ成リ其中二中隊ハ建設兵、二中隊ハ土工兵トス、旅團ヲ編成スル三大隊ハ平時各五中隊ヨリ成リ其第五中隊ハ「カードルイ」(基本隊)ト稱シ戰時ニ擴張シテ豫備鐵道大隊ト爲ル

電信隊ハ六十五露里ノ間ニ電線ヲ架スルノ材料ヲ有シ事宜ニ據リテハ二隊ニ分レテ相獨立スルヲ得

野工隊ハ歩兵十師團鐵兵十中隊ニ供給スヘキ障礙材料ヲ運搬ス

上記ノ外別ニ獨立鐵隊アリ即チ土耳其斯坦鐵兵半大隊、西部西伯利鐵兵中隊、東部西伯利鐵兵中隊、裏海鐵兵中隊是ナリ

之ヲ要スルニ平時ハ戰團兵ヲ二十一軍團ニ編成シ、一軍團ノ正式編制ハ歩兵二師團、騎兵一師團及之ニ伴フ砲兵トス(親軍軍團、選兵軍團、高加索軍團ハ各歩兵三師團)而シテ軍團編成ニ入ラサルハ狙擊旅團鐵兵旅團護疆ノ線列大隊等ナリ



△豫備兵

豫備兵ハ步兵、砲兵及工兵トス、豫備歩兵ハ平時ニ二様ノ編成アリ一ハ二大隊（一大隊ハ四中隊）ノ聯隊組織、一ハ五中隊ノ大隊組織トス、戦時ニハ前者ハ増シテ四大隊ノ一聯隊ト爲リ後者ハ二聯隊（一聯隊ハ四大隊）ト爲ルモノニシテ其五中隊ノ四中隊ハ各、増シテ大隊ト爲リ四大隊ノ第一順聯隊ヲ成シ第五中隊ハ増シテ第二順聯隊（四大隊）ト爲ル其増加スヘキ士卒ハ之ヲ豫備役ヨリ取り其武裝具ハ各豫備部ニ貯フ、斯ノ如クナルヲ以テ聯隊組織ヨリ戦時全員聯隊ヲ作ルハ難カラスト雖モ大隊組織ノ四中隊ヨリ第一順聯隊ヲ作ルハ日子ヲ要シ其一中隊ヲ以テ第二順聯隊ヲ作ルハ更ニ數多ノ日子ヲ要ス此ヲ以テ豫備聯隊ハ之ヲ邊境緊要ノ地ニ配シ豫備大隊ハ多ク之ヲ内地ニ置ク

豫備聯隊平時ノ中隊數ハ戦時ノ二分一又豫備大隊平時ノ中隊數ハ戦時ノ四分ノ一ト六分ノ一ヲ存ス定員ハ戰闘歩兵ニ在テハ平時ハ戦時ノ半數ナレトモ豫備歩兵ハ平時ノ定員戦時ノ五分ノ一、十分ノ一、四十分ノ一トス（一中隊凡ソ卒六十八人）

豫備ノ聯隊大隊ヲ増加シテ編成スル聯隊ハ戦時ニ在テハ其組織定員輜重等一モ戰闘聯隊ニ異ナルナク稱呼モ豫備聯隊師團ト稱セス聯隊ハ第百六十五聯隊ヨリ逐次ニ號數ヲ

以テ稱シ師團ハ第四十二師團ノ稱ヨリ逐次ニ號數ヲ以テ稱ス是レ步兵師團ハ親軍三、選兵四師團ノ外四十一師團、百六十四聯隊アルヲ以テナリ

豫備歩兵ハ歐露ニ二十八聯隊及五十三大隊（其一大隊ハ親軍ニ屬ス）アリ之ヲ擴張スレハ戦時豫備兵ヨリ編成スル歩兵師團ハ第一順二十師團（七師團ハ聯隊ヨリ組成シ十三師團即チ五十二聯隊ハ大隊ヨリ組成ス）第二順十三師團（五十二聯隊）總テ三十三歩兵師團ト爲ルナリ此地高架索ニハ豫備聯隊八、豫備大隊十、西伯利ニハ豫備大隊七、裏海ニハ豫備大隊二アリ故ニ平時ハ總計三十六豫備歩兵聯隊ト七十二豫備歩兵大隊ナリ

豫備砲兵ハ平時特設一中隊、歩砲兵六旅團トヨリ成ル、旅團ハ番數ヲ以テ稱シ其五旅團ハ各六中隊、第六旅團ハ第七中隊ヨリ成ル即チ中隊總數三十八トス

豫備砲兵ハ戦時後備兵ヲ以テ之ヲ増加ス其擴張方法ハ各、小隊ヲ増シテ中隊ヲ組成シ、各中隊ヲ増シテ之ヲ四中隊トス即チ三十八豫備中隊ハ百五十二中隊ト爲ルナリ内四十中隊ヲ後備トシ、百十二中隊ハ豫備歩兵ヨリ組成スル師團ニ附ス即チ第一順歩兵二十師團ノ各團ニハ四中隊（一中隊ハ重砲他ハ輕砲）編成ノ砲兵一旅團ヲ附シ、第二順豫備歩兵師團ノ各團ニハ二中隊ツ、（總テ二十六中隊）ヲ附シ残り六中隊ハ後備トシテ



服務スルヲ得

豫備工兵ハ戰時ハ鐵兵二十中隊、鐵道隊三大隊ヨリ成ル其補充法ハ前ニ記セシ如ク鐵兵十一大隊中ノ各第五中隊ハ戰時ニ中隊ヲ編成シテ豫備鐵兵ト爲ルカ故ニ總テ二十二中隊アリテ其二中隊ハ要塞鐵兵ト爲ルナリ又鐵道兵旅團三大隊ハ平時ニ五中隊ヨリ成リ其第五中隊ハ「カドルイ」(基本隊)ト爲リテ戰時ニ豫備隊ヲ組成シ各中隊一大隊ト爲ルヲ以テ三大隊ノ豫備鐵道大隊ヲ生ス  
豫備鐵兵中隊ハ戰時步兵師團ニ直屬シ或ハ軍後ニ在リテ交通連聯ノ事ニ從事シ或ハ敵寨ノ合圍ニ用ヰラル豫備鐵道大隊ハ各四中隊ヨリ成リ其三中隊ヲ土工兵、一中隊ヲ建設兵トス(豫備鐵道大隊組織ノ條ハ千八百九十一年第三百十四號陸軍省達ヲ以テ本文ノ如ク改訂セラレタリ)

△要塞兵

要塞兵ハ步兵砲兵及工兵ヨリ成ル  
要塞步兵ハ二大隊ノ一聯隊ト獨立二十九大隊ヨリ成リ一大隊ハ五中隊ヨリ成ル、大隊ハ其配置サレタル要塞ノ名ヲ以テ之ヲ稱シ一要塞ニ數大隊アルトキハ名ト番號トヲ併用ス、各要塞ニ配布スル大隊數ハ要塞ノ大小及需用ノ緩急ニ因リ異ナレリ故ニ注肩、  
ノル

ノウオ、グラールギユフスクノ各要塞ニハ四大隊ブレスト、リトーフスク、コーウナニハ各三大隊、イワンゴロド、ゼルグルジエ、クロンスタート、ニハ各二大隊、スウエアポルグ、ウイポルグ、リーガ、ヂナミユンデ、リバトワ、グロドナ、ケルチ、セワストーポリ、パツウム、カルス等ニハ各一大隊、アンベツキイニハ一聯隊ヲ置ク  
アンベツキイ要塞ノ一聯隊ハ戰時ニ其半中隊ヲ小中隊ト爲シ五大隊(四中隊)ノ一聯隊ト爲ル  
獨立大隊ハ各小隊ハ一中隊ト爲リ各中隊ハ一大隊ト爲ルヲ以テ各要塞步兵大隊ハ戰時ニ五大隊ノ一聯隊ヲ組成ス  
要塞步兵ハ要塞司令官ニ屬ス但一等要塞ハ要塞本部長ニ屬シ要塞司令官ノ指揮ヲ受クル  
要塞砲兵ハ要塞砲ノ砲員ニシテ總テ五十三大隊並ニ獨立十中隊アリ  
要塞砲兵配置ノ數ハ砲數ニ因ルモノトス例ヘハクロンスタート、ノウオ、グラールギユフスク、注肩等ノ要塞ニハ各六大隊、イワンゴロド、ブレスト、リトーフスクニハ各四大隊、ゼルクルジエニハ一大隊、蒲湖斯德ニハ二中隊等ノ如シ又或ル要塞ニハ「ウイラツチヌイ、パタレイ」(突出砲兵中隊トモ云フヘキカ敵圍ヲ襲フカ爲メニ設クト云フ)アリ平時ハ五中隊ニシテ戰時ハ十六中隊ニ増加ス



要塞工兵ハ種々特別ノ任務ヲ有ス其平時數ハ左ノ如シ

イ 要塞鐵兵九中隊、基本要塞鐵兵四隊、戰時ニハ中隊ハ各二中隊ヲ増加シ基本隊ハ各半中隊ト成ル之ニ前項ニ記シタル鐵兵大隊中ヨリ組成セル二中隊ヲ加ヘ戰時

要塞鐵兵ハ總テ二十中隊四半中隊ナリ

ロ 要塞水雷兵九中隊アリテ波羅的、黑海、浦漸斯德諸軍港ノ水雷敷設事務ニ任ス

(浦漸斯德ニハ未タ要塞ニ屬スル水雷中隊ヲ置キシニ聞カス)

ハ 河川水雷隊二中隊

ニ 戰用要塞電信器六個、大要塞内ニ電信電話ヲ通スルニ用ユ

ホ 軍用輕氣球部二アリ偵察或ハ敵ノ圍ヲ受クル要塞ト外部トノ交通ヲ爲スカ爲メ

ニ之ヲ置ク

ヘ 軍用鳩飼養所

△準備兵

準備兵ハ各種ノ兵ヲ包含ス

一 準備步兵

準備步兵ハ親兵、選兵、一般軍隊ノ準備步兵大隊及選兵並ニ一般軍隊ニ屬スル準備狙

擊大隊ニシテ總テ二百大隊トシ戰團步兵聯隊數ト狙擊旅團數トニ適合セシム(十四旅團中芬蘭、土耳其斯坦、高加索土兵ノ各一旅團及東部西伯利、裏海ノ各二旅團ハ之ヲ除ク)

準備大隊ハ之ヲ平時ニ置カス戰時ニ聯隊數ト旅團數トニ適應セシメテ大隊ヲ組成シ各大隊ヲ二様ニ編成ス一ヲ定組織、一ヲ交代組織ト云フ、定組織ハ戰員、非戰員ヨリ成リ大隊司令部ニ屬シテ交代組織ノ兵卒ノ訓練、大隊事務等ニ服ス交代組織ハ戰時ニ減員補充ノ爲メニ發遣セラルヘキ任務ヲ有スル兵員ヨリ成ルモノナリ各聯隊、各狙擊旅團ハ基本隊トシテ佐官一人、士官六人、兵卒四十人以上ヲ出シ以テ定組織ノ人員ヲ受領ス此基本隊員ハ豫メ平時ニ於テ之ヲ任命シ準備定組織ノ人員名簿ハ之ヲ該隊員ニ送付ス又定組織ニ要スル他人員ハ之ヲ豫備役(豫備兵ニアラス)ヨリ補充ス

交代組織ニ要スル士卒ハ一般豫備役ヨリ徵集シタルヲ以テ之ニ充ツ若シ豫備役ニ在ル者ノ不足ナルトキハ國民兵ノ第一列ヨリ補ヒ或ハ順次點和ノ新兵ヲ以テ之ニ充ツ

準備大隊ノ物件材料ハ專ラ其屬スヘキ聯隊ニ之ヲ貯蓄ス但シ國ノ西境ニ在ル兵ノ爲メノ準備大隊ハ内地ノ縣内豫定ノ地ニ於テ組成セラル、カ故ニ大隊ノ豫備材料ハ該地ニ貯蓄シ其郡ノ司令官之ヲ管理ス



準備大隊ハ戰闘兵補缺必要ノ度ニ從ヒ參謀本部特種ノ指令ニ據リ行進隊ヲ發遣ス而シテ其定組織ハ常ニ一定ノ地ニ止マリ新補缺員ノ準備ニ從事ス

二 準備騎兵

準備騎兵部ハ騎兵師團ノ數ニ從ヒ十八基本隊ヨリ成リ一基本隊ヲ三分(或ハ四分)シ一區ヲ以テ一聯隊ニ適合セシム基本隊ハ之ヲ八旅團ニ編成ス、親軍ニ屬スルモノ一旅團、一般軍隊ニ屬スルモノ七旅團ナリ前者ハ三基本隊ヲ有シ後者ハ二基本隊ヲ有ス而シテ高架索基本隊ハ該騎兵師團長ニ屬ス

基本隊ノ任務ハ左ノ如シ

平時ニハ軍馬ヲ調養シ所屬聯隊ノ需用ニ向テ準備ヲ爲ス

戰時ニハ戰闘騎兵聯隊ノ人馬補缺ノ爲メニ中隊ヲ組成ス即チ基本隊ノ三區分中二區隊ハ二中隊ト爲リ又第三中隊組成ノ爲メニ兵卒ヲ準備ス其將校兵卒ハ皆豫備役ヨリ出テ馬ハ軍馬供給義務ニ因リ之ヲ人民ヨリ徵ス

三 準備砲兵

戰時戰團並ニ豫備砲兵ヲ補充スル爲メ準備砲兵中隊アリ平時ニハ二中隊ヲ置キ徵集ノ時ニハ中隊ト爲ル又豫メ豫備砲兵旅團中ノ四十中隊ヲ以テ準備ト定ム而シテ此四十中

隊ハ八中隊ツ、ノ五後備砲兵旅團ヲ編成ス

四 準備工兵

戰時鐵兵並ニ架橋兵ノ缺員ヲ補充スル爲メ徵集ノ時ニ鐵兵四大隊(各四中隊)ヲ組織ス之カ爲メ豫メ鐵兵四旅團中ヨリ將校、兵卒若干人ノ基本隊ヲ設ク

△補助兵

補助兵ノ事ハ既ニ記述セシ所ニ止ム

○第二哥薩克兵

露國南部及東南部ニ一ハ史上ノ原因ヨリ一ハ政府行政上ノ原因ヨリ哥薩克ノ名ヲ以テ有名ナル大數ノ軍族ヲ生ス其住地ヲ哥薩克兵州ト稱スル慣例ナリ始メ此種族ハ亞細亞地方人種ノ侵襲ニ當リ露ノ内地ヲ防衛スルノ障壁トナリ絶エス戰闘ヲ事トセシヨリ諸種ノ艱苦缺乏ニ慣レ自然ニ武人的精神發達セリ星霜ノ推移スルニ隨ヒ此種族ノ必要亦大ニ減消セリト雖モ政府ハ其軍事組織ト精神トヲ保存スルノ制度ヲ建ルニ力ヲ用キ以テ其武勇ヲ利用シ常備軍特ニ騎兵部ノ力ヲ増スヲ圖レリ現今哥薩克ノ州地ハ頗ル廣大ニナリ左ノ十一軍ヲ組成ス其名ハ皆地名ニ取レリ

トン、クバーン、テルスク、亞斯達干、ウラール、ヲ、レンブルグ、悉比利(トボーリ、



イルツイシユ兩河畔)、セミレチエンスク、後員加爾、黑龍及烏蘇里(此他イルクーツク、  
クラスノヤルスクノ兩所ニ獨立屯田中隊アリ)

哥薩克全軍ノ總督ハ、露國皇太子ニシテ之ヲ哥薩克全軍「アタマン」ト稱ス他ニ代理總督アリ  
軍令、軍務ノ長タリ

戰時全哥薩克兵ノ定員ハ左ノ如シ  
皇帝ノ警衛兵四中隊(戰時平時共)

騎兵百四十五聯隊

獨立中隊三十九、步兵二十六隊半、騎砲兵三十八中隊、兵ノ定員十七万五千人

平時ニハ聯隊、大隊、砲兵中隊等皆各、凡ソ三分一服役シ他ハ歸休家事ニ従事ス全哥薩克  
中最多數ナルハドン哥薩克ニシテ戰時ニ騎兵五十四聯隊、獨立中隊三十三、砲兵二十二中  
隊ヲ出シ平時ニハ騎兵十九聯隊、獨立中隊三、砲兵八中隊ノミ服役ス

哥薩克組織ノ特點ハ戰時平時共同一ノ編制ニシテ平時ハ唯人員ヲ減スルノミナルコト、  
聯隊ノ四乃至六中隊ヨリ成ルコト、隊員中ニ非職員ノ少ナキコト、等ニシテ步兵大隊ノ組  
織ハ略、線列大隊ニ齊シク又騎砲兵中隊ノ組織ハ常備騎砲兵ノ組織ニ同シ

○第四國民兵(一千八百九十一年ノ省令)

國民兵ハ戰時常備軍ノ援助トシテ召集セラレ二十一歳ヨリ四十三歳マテノ男子ニシテ現  
役、豫備役ニアラザル者之ニ服ス之ヲ以テ組成スヘキハ步兵大隊、騎兵中隊、砲兵中隊、  
要塞砲兵中隊、緞兵中隊等ナリ而シテ此等ヲ殊ニ豫定セル編制(聯隊或ハ旅團或ハ師團)ニ  
編入スルコトアルヘシ

國民兵ノ組成ハ國民兵諸列ノ司令官ニ任セラレタル者、地方知事ノ監督ノ下ニ在テ之ヲ掌  
リ命ヲ受ケタル日ヨリ二十八日間ニ之ヲ組成スルモノトス組成後ハ陸軍省之ヲ管ス、國民  
兵諸列將校ノ職務ヲ代辨セシムル爲メ豫メ平時ニ於テ其人ヲ指定シ中隊長以上ノ高等職務  
ハ曾テ將校タリシ者ヲ以テ之ニ任シ以下ノ職務ハ或ル程度ノ教育ヲ受ケ在役中若クハ國民  
兵役ニ於テ下士官ノ稱號ヲ受ケタル者ヲ以テ之ニ任ス國民兵諸列ノ組成ヲ容易ナラシメン  
カ爲メニ平時各中隊ニ二名以上ノ割合ニテ基本兵卒ヲ置キ之ヲ郡ノ兵務長官(大隊區司令  
官ノ如キモノカ)ニ屬セシム

國民兵ノ任務ハ専ラ豫備兵ニ代リ國內又ハ軍ノ背後ニ在リテ服役シ豫備兵ヲシテ戰鬥兵ト  
協力戰ニ與カルコトヲ得セシムルニ在リ然レトモ場合ニ依レハ戰鬥兵ニ編入セラルコト  
アルヘシ



兵役(概略)

徴兵ノ法ハ彼得一世ノ創始ニ係リ爾後幾多ノ變更ヲ經千八百七十四年先帝亞歷山得二世ノ代大改革アリテ歐洲各國ノ制度ト略々類似スルモノトナレリ其立本ノ實相ハ左ノ如シ

- 一 兵役ハ一般ノ義務ナリ帝位及祖國ヲ防衛スルハ露國臣民各自ノ神聖ナル義務ナリ故ニ露國男子ハ上下ノ別ナク一般ニ兵役ノ義務ヲ負フ但シ法律ニ據リ公權、財産權ヲ褫奪セラレタル者ヲ除ク
- (哥薩克並ニ芬蘭ノ居民ハ特ニ規定セラレタル法律ノ下ニ在ルヲ以テ普通ノ兵役義務ヲ負ハス又土耳其斯坦、沿海州、黑龍州、極東悉比利ニ住スル者及亞斯達干、亞干日爾縣、ツルガイ、ウラール兩州並ニ西伯利ノ州縣ニル在異種族人ハ兵役ヲ免ス)
- 二 兵役義務ハ各個人ニ屬ス故ニ金錢ヲ以テ或ハ他人ヲ出シテ之ヲ償フヲ許サス但シ一家族中ニ於テ相代ルトキ即チ家族中ノ一人現役ニ就カントスルトキ或ハ既ニ服務中ニ於テ其實兄弟或ハ從兄弟ヲ以テ代ラシムルコトヲ得其代人ハ二十六歳以下ノ者タラサルヘガラス
- 三 二十一歳ヨリ四十三歳マテノ男子ニシテ兵役ニ適スル者ハ總テ軍ノ編成ニ入り、一

ハ常備軍ニ屬シ、一ハ國民兵ト爲ル、國民兵ハ戰時ニ於テノ徴集シ且專ラ常備軍ノ背後ニ於ル任務ニ服スルヲ常トス

四 常備兵ヲ分テ現役及豫備役トス常備兵役年限ハ一般ニ十八年其五年ハ現役ニ服シ十年ハ平時ニハ家居シテ豫備役ニ服ス又陸軍省ノ指令ニ據リ現役五年ヲ終ラスシテ豫備役ニ入ルコトヲ得(現今步兵並ニ歩砲兵ハ現役四年ニシテ豫備ニ入ル)

豫備役ニ在ル者ハ平時ニ地方軍務官ノ檢閲ヲ受ケ又練習ノ爲メ點呼ニ應ス但シ全期間ニ回ヲ超エス一回ノ練習時、六週日ヲ超エス戰時ニハ元老院勅命ヲ奉シテ之ヲ徴集シ常備軍ヲ補充シテ現役ニ就カシム

五 常備兵役ニ在ラサル全國ノ男子二十一歳ヨリ四十三歳マテノ者ハ國民兵役ニ服ス而シテ左ノ二類ヲ含有ス

- イ 常備兵役ニ入ラザリシ壯者
- ロ 十八年間ノ現役豫備役ヲ終リシ者

國民兵役ニ在ル者ハ之ヲ「ラートニク」ト稱シテ二列ニ分ツ第一列ニハ曾テ徴集時ニ此列ニ入りシコトアル者ト現役豫備役ヲ終リテ國民兵役ニ入りシ者トノ外四十三歳以下ノ者ヲ編入ス其他ノ者ハ悉ク之ヲ第二列ニ編入ス第一列ノ任務ハ豫備役ニ在ル者不足



ヲ生スル場合ニ常備軍ノ増加並ニ補充ニ當ルモノトス  
第一列ニ在ル國民兵ノ壯丁ハ豫備役ニ在ル者ニ齊シク特別ノ檢閲ヲ受ケ又練習ノ爲メ  
點呼セラル、コトアリ但シ點呼ハ全期間二回ヲ超エス一回ノ時日、六週日ヲ過キス  
(一千八百九十二年省令)

(毎年抽籤法ニ依レル新兵ノ採用、兵役免除、一年兵、期限短縮等ハ之ヲ略ス)

芬蘭人ノ兵役年限ハ五年ニシテ其三年ハ現役ニ二年ハ豫備役ニ服ス、抽籤ニ依リ現役ニ  
就カサル者ハ之ヲ豫備役ニ編入シ五年間服務セシメ最初三年間ハ練習ノ爲メ點呼ニ應セ  
シム但シ練習時ハ一回九十日ヨリ長カラサルモノトス

豫備役ヲ終リシ者ハ年齢四十歳ニ至ルマテ國民兵役ニ服ス國民兵ハ外敵ノ國境ニ迫リタ  
ル場合ニ詔勅ヲ以テ之ヲ徵集ス

哥薩克ノ兵役義務

男子ハ兵役ノ義務ヲ有ストハ古ヨリ哥薩克ノ奉シ來レル大法ナリ是レ哥薩克兵州ト稱ス  
ル廣大ノ地ヲ世襲シ國家ニ對スル種々ノ義務ヲ免除セラル、ヲ以テ之ニ報ユルカ爲メナ  
リ哥薩克軍ハ二種ノ編制ヲ有ス在役編制、民軍編制(民軍ハ國民兵ニ同シ)是ナリ後者ハ  
戰時非常ノ場合ニノミ之ヲ徵集ス前者ハ之ヲ第一準備列、第二戰列、第三豫備列ノ三列

ニ分チ準備列ニ在ル哥薩克ハ兵役ニ就ク前ニ練習ヲ受ケ戰列ニ在ル者ハ戰隊ヲ組織シ豫  
備列ニ在ル者ハ戰時ニ當リ戰列ノ缺員ヲ補充シ且戰時特別ノ支隊ヲ編制ス而シテ民軍ハ  
在役者ノ外年齡ニ拘ラス總テ武器ヲ携持シ得ル者ヨリ成ル

哥薩克ノ服務ハ十八歳ニ始マリ二十年間勤続ス其三年ハ準備列ニ、十二年ハ戰列ニ、五  
年ハ豫備列ニ在リ而シテ戰列ニ在ル者ノ現役ヲ四年トス

戰列ニ在ル者ヲ三順ニ分チ平時ハ第一順ニアル者ノミ勤務シ、第二順、第三順ニ在ル者  
ハ歸休ス、戰列ノ年限(十二年)中最初ノ四年間勤務者ヲ以テ第一順ヲ補充ス是レ即チ現  
役ナリ次キノ四年間ハ第二順ノ聯隊ニ入り終リノ四年間ハ第三順ノ聯隊ニ入ル

哥薩克現役ニ就クトキハ制式ノ軍裝ヲ自辨シ、自個所有ノ乘馬ニ騎ス、第二順ニ在ル者  
ハ家居スト雖モ軍裝乘馬ヲ具備シ第三順ニ在ル者ハ乘馬ノ外軍裝ヲ具備スルヲ要ス而シ  
テ令アルトキハ乘馬ヲ自辨スヘキモノトス

第二順ニ在ル者ハ毎年五月練習ノ點呼ニ應シ三週間在營シ第三順ニ在ル者ハ其期ノ第三  
年ニ一回三週日ノ練習點呼ニ應ス又豫備列ニ在ル者ハ軍裝ヲ具備スルノミニシテ平時ニ  
服務或ハ練習點呼ナク戰時ニハ必要ニ從ヒ年少者ヨリ順次ニ徵集セラル、モノナリ

沿海州ハ殖民沿カラス人煙稀少ナルカ故ニ未タ兵役ヲ課セス此地方ニ屯在スル處ノ海陸ノ



兵ハ皆他州ヨリ分配セルモノニシテ毎年參謀本部ニ於テ之レヲ指定ス昨千八百九十六年ノ員數及其本州ハ左ノ如シ

ザバイカル州ヨリ 七四八人  
 イルクーツスク州ヨリ 五九八人  
 アクモリンスク州ヨリ 二一五人  
 トボリスク州ヨリ 二九一人  
 トムスク州ヨリ 二七六七人  
 歐羅諸州ヨリ 六二七一人  
 合計 一三五一〇人

西伯利軍管區 露國ハ歐亞全土ヲ通シテ十三軍管區ニ兵區ニ分ケ内五軍管區一兵區ハ西伯利ニ屬ス即チ左ノ如シ

第一專海兵區、 第二土耳其斯坦軍管區、 第三高加索軍管區、  
 第四イルクーツク軍管區、 第五オムスク軍管區、 第六沿黑龍軍管區  
 沿海州陸軍兵駐屯地及兵種員數 沿海州ハ黑龍州後貝加爾州及薩哈連島ト共ニ沿黑龍軍管區ニ屬シ總督ハ府ヲ哈羅羅夫加ニ置キ之ヲ總轄ス

駐屯地及兵種員數

一千八百九十七年六月調査

駐屯地	隊名兵種	一軍隊平時人員	同砲數	同馬匹
哈 巴 羅 夫 加	沿黑龍軍管區總督府			
	東部西伯利戰列第一旅團本部	一大隊平時 九六四		四六
	東部西伯利 第三、第十大隊	一中隊 二四一		一八一
	東部西伯利 砲兵(輕野)二ヶ中隊	一大隊全 六〇〇		一一四
	工兵一ヶ大隊	一大隊全 九六四		四六
	東部西伯利 第六大隊	一中隊全 一〇三二		
尼古萊夫斯克	要塞砲兵一ヶ中隊	一中隊全 一〇四		
	東部西伯利 第一大隊	一大隊全 九六四		四六
ラズトリヌイ	南島蘇里軍隊司令部	一中隊全 一〇三二		
	東部西伯利 第一大隊	一大隊全 九六四		四六
尼	東部西伯利 第一旅團本部	一中隊全 一〇三二		
	東部西伯利 第一旅團本部	一大隊全 九六四		四六







斯	水雷隊一ヶ中隊	一中隊全	二五〇
德	鐵道大隊司令部	一大隊 總員約六〇〇	一ヶ中隊ヲムラヨイフアム レニヌチ一ヶ中隊ヲ尼古 利斯克他ハ鐵道沿路ニ配ス
薩哈連島	鐵道大隊一ヶ中隊 他ニ要塞歩兵ト稱スルモノ五ヶ大隊(一大隊千人) アリ組織等未詳	特設警備隊四ヶ	約三百三十七名ツアレキサン、ドロフスキー ツエ コサコソフ、ウーモーフスキーニ屯在ス

又最近ノ報告ニ據レハ砲兵ハ總テ二ヶ聯隊アリ其第一聯隊ハ六ヶ大隊ヨリ成リ内二ヶ大隊  
ハ山砲隊ニシテ各一ヶ大隊ヲ尼古リス克トヤシチヘニ置キ他ノ四ヶ大隊ハ野砲隊ニシテ各  
二ヶ大隊ヲ尼古リス克ヤシチヘニ配シ又第二聯隊ハ四ヶ大隊ヨリ成リ共ニ野砲隊ニシテ  
各二ヶ大隊ヲ哈巴羅夫加トブラゴウエシチンスクニ置クト記シテ疑ヲ存ス  
屯在地ヨリ各地方ニ小部隊ヲ派遣シ警備ノ任ニ當ラシム即チ  
ブカストリ一灣ニ四十名

東部西伯利線列第六大隊ヨリ

イムベラトルスカヤ灣ニ二十二名  
ハフキスクニ三十名  
ガフワニ若干

同 第七大隊ヨリ

セントオリガ灣ニ六十名  
蘇城ニ三十五名

沿海州哥薩克兵屯戍地 既ニ前項ニ於テ記述セルカ如ク哥薩克兵ハ特殊ノ編制ニ據リ平  
時ニアツテハ全軍ノ三分一ノミ常備軍トシテ服役シ其他ハ散シテ附近吠畝ノ間ニアリ故ニ  
其全數並ニ屯在地ハ頗ル散雜ニシテ明確ナラス沿黑龍軍管區ニ屬スル騎兵一旅團ト稱スレ  
トモ今日ニ於テ其屯在地及員數ハ左ノ如シ

明治三十年六月調査

屯戍地	兵	種	一軍隊平時人員	同馬匹
カニメニルイパロツツ	烏蘇里哥薩克騎兵大隊本部 烏蘇里哥薩克騎兵三ヶ中隊		總人員 平時 五四五 戰時 五四五	